

静岡県立美術館

第三者評価委員会評価報告書

平成 29 年 3 月

静岡県立美術館第三者評価委員会

目次

はじめに	1
------------	---

【報告編】

1 静岡県立美術館第三者評価委員会について	2
2 平成 27 年度 静岡県立美術館第三者評価委員会評価総括表	5
2-1 基本方針別自己評価	6

【資料編】

1 展覧会に関する自己点検評価表（平成 27 年度）	11
2 調査・研究に関する自己点検評価報告書（平成 27 年度）	17
3 定性評価の状況（平成 27 年度）	28
4 静岡県立美術館評価業務 報告書（平成 28 年 3 月）	39
5 平成 27 年度第三者評価委員会での意見と対応状況	123
6 平成 27 年度設置者の取組状況	125

はじめに

本委員会は、評価を通じて静岡県立美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進することを目的として、平成 18 年 9 月に発足しました。

本委員会の使命は三つあります。第一は、県立美術館が自ら行う自己評価（一次評価）に対して、外部の視点から二次評価することです。第二には、美術館に対する県庁（本庁）の支援体制を委員会が独自の視点に立って評価することです。第三は、美術館の運営及び評価の方法について、次年度の改善に向けた提言をすることです。

本年度の活動としては、平成 28 年 8 月に第三者評価委員会を開催し、平成 27 年度の美術館自己評価に対する二次評価、設置者の取組に対する意見、今後の改善課題について討議しました。この報告書はその結果に基づき作成したものです。

本報告書が県庁と県立美術館のますますの発展と充実に資することを願います。

平成 29 年 3 月

静岡県立美術館第三者評価委員会

委員長 村田 眞宏

1 静岡県立美術館第三者評価委員会について

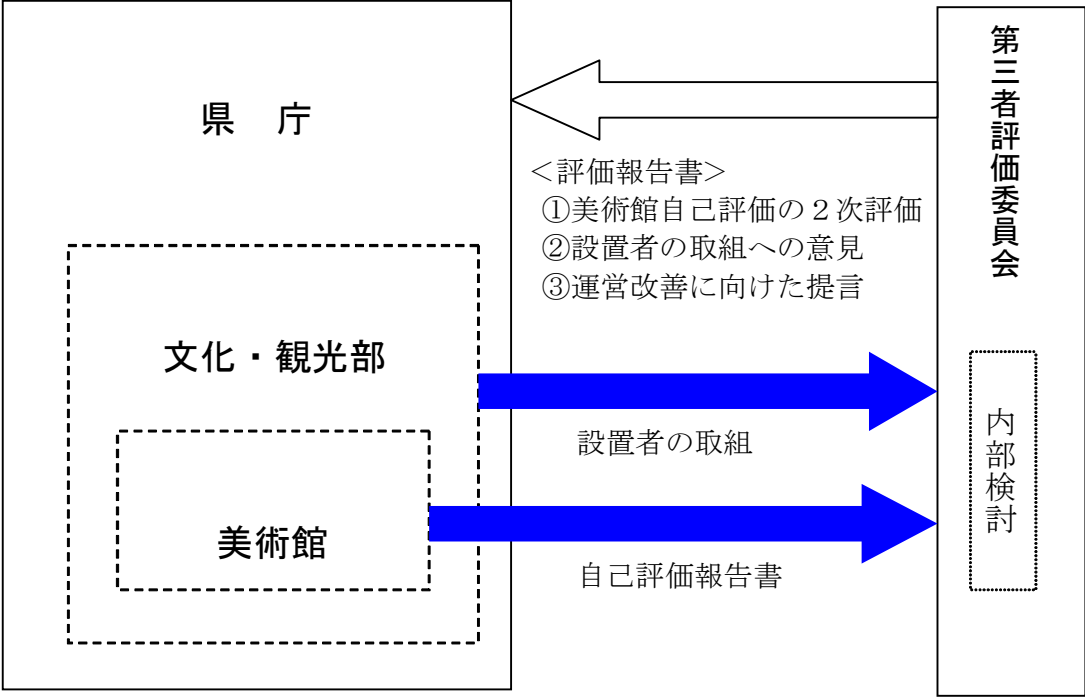
静岡県立美術館第三者評価委員会委員名簿（敬称略、五十音順）

	候補者	役 職
委員長	むらた まさひろ 村田 眞宏	豊田市美術館館長
委員	かみやま まり 神山 眞理	日本大学教授
〃	きんばら ひろゆき 金原 宏行	豊橋市美術博物館アート・アドバイザー
〃	たなか ひらき 田中 啓	静岡文化芸術大学教授
〃	さくらい とおる 櫻井 透	株式会社静岡銀行顧問 静岡商工会議所副会頭
〃	やまぐち ゆみ 山口 裕美	山口裕美コンテンツ・ラー・アートラボ代表

平成 28 年度の活動

会議名等	内容等
第 1 回第三者評価委員会	日時：平成 28 年 8 月 3 日（水）14:00～16:30 会場：静岡県立美術館 講座室ほか 内容：（1）平成 27 年度の取組に対する評価 （2）企画展視察

評価システム全体図（第三者評価委員会の位置付け）



静岡県立美術館第三者評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）では、より良いサービスの提供を図るため、事業の運営等の効果について、多面的かつ客観的な測定・評価を行う自己評価活動を実施しているが、美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進するため、美術館の自己評価及び県庁の支援体制等を第三者の視点から評価する「静岡県立美術館第三者評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所管する。

- (1) 美術館の自己評価に対する2次評価
- (2) 県庁の支援体制等に関する評価
- (3) 評価結果の報告及びそれに基づく美術館の運営改善に向けた提言
- (4) その他、この委員会の目的達成に関すること

(委員)

第3条 委員は、知事が委嘱する。

2 委員の人数は、10名以内とする。

3 委員の任期は2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長1人を置く。

2 委員長は、知事が指名する。

3 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員会は公開とし、その傍聴に関して必要な事項は、別に定める。

3 委員会は、必要に応じて個別課題検討のための分科会を置くことができる。

4 委員会及び分科会には、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務を処理するため、事務局を静岡県文化・観光部文化政策課内に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

1 この要綱は、平成18年9月21日から施行する。

2 この要綱の施行の日に委嘱する委員の任期は、第3条第3項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

(最終改正 平成23年6月17日)

2 平成27年度静岡県立美術館第三者評価委員会評価 <2 総括表>

【使命】 = 美術館のめざす姿
 静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのためにコレクションを基盤として人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供するとともに、地域をパートナーと考える経営を行い、日本の新しい公立美術館となります。

基本方針	計画(P)			実施状況(D)	評価(C)	
	重点目標	評価指標	目標	実績	自己評価	第三者評価
A 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します	1 県民の視点に立ち「静岡らしさ」を表現できるよう、文化資源を十分活用した展覧会事業を展開します	1 展覧会の観覧者数(人)	140,000 人	114,956 人	【成果】 ・他の美術館・博物館と連携した学芸員の共同研究による企画展、学芸員の調査研究による自主企画展、新規来館者の獲得を目的とした斬新な切り口の展覧会、コレクションを研究し活用した収蔵品展など、様々な視点から展覧会を開催した。 ・展覧会の定性評価においては、研究活動評価委員から一定の評価を得ることができ、また一方で来館者に関する評価指標では、満足度において高い数値、評価を得た。	①観覧者数の目標達成のためには文明展の開催などの努力が必要である。(金原19) ②収蔵品を有効に活用した展示を行えば、県立美術館ならではの集客につながるのではないかと。(神山20) ③新進の若手のアーティストを他館に先んじて紹介し、作品価格が安い時点で購入するといった作品の収集方法を検討してはどうか。(山口23) ④より多くの寄贈を受けることができるよう、寄贈作品を展示する際は寄贈者の名前を大きく掲示するなどの工夫をすべきである。(金原41) ⑤寄贈も作品収集の手段の一つではあるが、体系的なコレクションの形成には作品の購入が必要である。(村田43)
		2 自主企画・企画参加型の展覧会の回数(回)	4 回	3 回	【課題】 ・展覧会の来館者数が目標値を下回ったが、定性評価、来館者満足度の指標数値は、ともに高いため、今後は目標値の達成に努めることが課題である。 ・研究会の継続的な実施など、学芸員の研究活動に力を入れてきているが、それを展覧会や教育普及活動として、さらに充実させていくことが課題である。 ・作品収集については、近年の寄贈の増加と充実が顕著ではあるが、購入予算の確保が重要であり、課題である。	
		3 作品やテーマに興味を持った人の割合(%)	88.0 %	84.7 %		
		4 展覧会における新規来館者の割合(%)	20.0 %	19.8 %		
		5 収蔵品展の観覧者数(人)	12,000 人	11,610 人		
		6 収蔵品の公開件数(件)	500 件	343 件		
		7 展覧会に対する外部評価【定性】	—	別添		
	8 内部セミナー・研究会・研修の回数(回)	14 回	10 回			
	2 他の美術館・大学・地域の専門機関と連携し、新たな公立美術館の姿を示します	9 他の美術館や大学と連携した取り組み件数(回)	5 回	5 回		
		10 公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】	—	別添		
	3 調査研究を美術館活動の基盤と考え、成果を広く公表することで質の向上を図ります	11 調査研究の発表回数(回)	15 回	10 回		
		12 作品購入件数・価格(件・千円)	— 千円	— 千円		
		13 作品寄贈件数・価格(件・千円)	10 件	3 件 6,560 千円		
		14 調査研究に関する外部評価【定性】	—	別添		
B 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します	1 美術館の役割を明確にし、業務の再構築等を図るとともに、学校・県民のニーズを先取りするプログラムを開発、普及します	15 学校教育と連携した取り組み数(件)	300 件	259 件	【成果】 ・教育普及全体の利用者は、27,576人で、いずれのプログラムの利用者満足度も高い。 ・作品の鑑賞やコレクションを意識したプログラムを実施し、利用者から「作品の見方が変わった」「作品に親近感が持てた」といった好意的な声が寄せられた。 ・日本平動物園、セハ(商業施設)、草薙商店街、静岡大学、静岡県立大学等との連携によって、利用者サービスの充実、美術館活動の活性化を図ることができた。 【課題】 ・教育普及プログラムは、静岡市内からの参加者が多く、市外からの参加者を増やすことが今後の課題である。 ・新規の参加者を獲得するための教育普及プログラムを検討することが課題である。 ・将来展望を含め、美術館を中心とした街づくりに積極的に参画していくことが課題である。	①大学との連携においては、人文、芸術系の学部だけでなく、理系の学部も対象とする。広くリベラルアーツ教育を担うため、県内大学のネットワークと連携して、県の貴重なコレクションや学芸員の人的財産を有効活用する(櫻井) ②レプリカの貸し出しについては、今後非常に効果的な結果が出るのではないかと。また、貸出対象を小中学校に限らず、大学まで広げるべきである。(神山25) ③大学への営業活動においては、個々の教員に対しても、授業やゼミにおいて美術館を訪れるよう働きかけをすべきである。(神山26) ④大学等の教育機関との連携を深めていく中で、講座やシンポジウムの開催を積極的に行うことにより、博学融合が実現できると思われる(金原32) ⑤友の会は内向きすぎないか？会員に一般の部と法人の部を設け、現役世代も取り込んで、構成員、活動内容の多様化を図り、ボランティアともども、積極的に美術館を支える組織にしたい。(櫻井) ⑥企業からの支援獲得のためには、企業側にとっての美術館支援の理由付けが必要。「福利厚生」(静岡銀行の施設利用券配布など)や企業の社員研修あるいは取引先などの会合への講師派遣など、提供できる多様なメニューを提示しながら支援をお願いしたほうが？(櫻井)
		16 鑑賞系プログラム数(件)	19 件	23 件		
		17 コレクションを活用したプログラム数(件)	19 件	21 件		
		18 普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】	—	別添		
	2 静岡県立美術館の活動をアピールする普及事業を開催します	19 講演会等の開催件数(回)	160 回	166 回		
		20 学芸員のフロアレクチャー等の数(回)	120 回	98 回		
	3 地域住民、企業、友の会、ボランティア等との連携を深化させ、美術館を核とした地域づくりに努めます	21 地域住民等と連携した取り組み数(件)	6 件	9 件		
		22 館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	90 件 5,000 人	54 件 7817 人		
		23 地域空間、住民等と連携した取組に関する職員レポート【定性】	—	別添		
	C さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます	1 県民が「静岡県の誇りと自慢できる美術館」を目指し、様々な戦略的広報を発信していきます	24 美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合(%)	70.0 %		
25 ホームページのアクセス件数(件)			600,000 件	245,000 件		
26 ホームページの満足度(%)			75.0 %	70.7 %		
2 観光業界等と連携した新たな広報手段を開拓し、県立美術館の魅力を積極的に広報します		27 観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数(件)	5 件	8 件		
		28 広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】	—	別添		
3 ロダン館、富士山絵画を「静岡県立美術館の顔」としてその魅力を発信していきます		29 ロダン館の入場者数(人)	80,000 人	67,821 人		
D 常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます	1 お客様の満足度を高める施設を目指し、環境整備に努め、利便性を高めます	30 美術館利用者数(人)	264,800 人	266,856 人	【成果】 ・美術館利用者数は、26万人を超え、目標利用者数を達成することができた。 ・レストラン・カフェ、ミュージアム・ショップ、駐車場において、来館者の満足度を高める取組を実施し、成果を得た。 ・来館者の安全を守るために、防災・防犯に関する機器整備を行い、また施設の整備・管理に力を入れた。 【課題】 ・閉館30年が経過して施設の経年劣化が著しく見られるので、今後は、リニューアル計画の策定が課題である。 ・駐車場、レストラン・カフェの満足度が目標に達しなかったことについて、今後は来館者ニーズを把握し、改善策を見出すことが課題である。 ・「県民に愛される美術館」を目指して、施設の改善に取組んでいくことが今後の課題である。	①常設展の展示室が一室のみであり館蔵品を十分に展示できていないという現状について、今後の課題として検討すべきである。(村田23) ②レストランにおいては、リピーターの確保と女性客への魅力訴求が必要である。(村田36) ③静岡県立美術館でしか食べられない、あるいは飲めないメニューをレストランにおいて開発すべきである。(山口33) ④最新の空調、照明機器は従来製品に比べ格段に電気使用量が下っており、コストの削減につながるため、更新を積極的に行うべきである。(櫻井) ⑤自家用車での来場者が多いようであれば、駐車場が無料であることを積極的にアピールし、また新設予定の大谷インターチェンジにより、県東部、西部からの誘客が便利になるので、併せて広報すべきである。(櫻井)
		31 来館者のアクセス満足度(%)※再掲 ※上段：公共交通機関利用、下段：自家用車利用	80.0 %	76.0 % 78.3 %		
		32 レストラン・カフェに対する満足度(%)	75.0 %	65.7 %		
		33 ミュージアムショップに対する満足度(%)	85.0 %	92.1 %		
	2 施設再始動検討を始め、より県民に愛される美術館を目指します	34 鑑賞環境に対する満足度(%)	90.0 %	90.8 %		
		3 作品やテーマに興味を持った人の割合(%)※再掲	88.0 %	84.7 %		
		21 地域住民等と連携した取り組み数(件)※再掲	6 件	9 件		
		30 美術館利用者数(人)※再掲	264,800 人	266,856 人		
		32 レストラン・カフェに対する満足度(%)※再掲	75.0 %	61.2 %		
		33 ミュージアムショップに対する満足度(%)※再掲	80.0 %	92.1 %		

設置者の取組	取組の状況	第三者評価委員意見
	<ul style="list-style-type: none"> 第3期文化振興基本計画の推進に向けて、美術館の企画運営への参画、県庁が持つ広報媒体の情報提供や技術支援を行った。 「県有施設による文化振興推進会議」の発足などを通して、他の県立施設や周辺施設との間の連携を強化した。 県内中学生を対象とする芸術鑑賞推進事業を実施し、美術館において展覧会を鑑賞する機会を提供した。 電気、機械設備の更新を計画的に実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①予算編成における指標として来館者数を用いる場合、前年度のみ来館者数ではなく、3年から5年程度の間の平均値を用いるべきである。(田中21) ②広報活動にあたっては、専門的な職員の配置や、県庁の広報担当課との連携を行うことが必要である。(金原31) ③収蔵庫容量も考慮したうえで、コレクションの再編成を行うべきである。(山口42) ④館のマネジメントは、組織的に「経営」として行うことが重要である。そのためには、アートマネジメントのできる人材の確保が必要である。(櫻井) ⑤県や美術館が持つ館の将来像の中で、評価をどのように生かしていくかを検討したうえで、現状のあり方をいかに改良し、維持していくかを考えるべきである。(田中41) ⑥地域社会や静岡県内における美術館の今後のあり方を早急に検討し、増改築等の計画を作るべきである。(村田44)

基本方針	A 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します
------	--

計画(P)			実施状況(D) H28.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	目標	実績	特記事項	自己評価
1 県民の視点に立ち「静岡らしさ」を表現できるよう、文化資源を十分活用した展覧会事業を展開します	1 展覧会の観覧者数(人)	140,000 人	114,956 人	◆は、自主企画・企画参加型展覧会。 ※収蔵品の公開件数は、 ・収蔵品展(7室+名品コーナー) <206件> ・企画展「富士山-信仰と芸術-」<14件> ・企画展「写真家の眼/版画家の眼」<27件> ・他館への貸出件数 <96件> を合計したものである。	【成果】 ・県民にもよく知られている写真家の展覧会、当館初のころみとなったデザインの展覧会、富士山を信仰と芸術の両面から掘り下げる展覧会、収蔵品を活用した展覧会、そして、西洋の風景画の生成と展開を追う展覧会まで、多種多様な展覧会を開催できた。 ・観覧者の展覧会に対する満足度も、例年と同様に高い。 ・新規来館者の割合は、昨年度より低くなったが、「富士山展」新規来館者のうちの43%が県外からの新規来館者であったことは特筆されよう。昨年度も日本絵画の展覧会の新規来館者の56%が県外からの来館者である。県外の日本絵画愛好者には当館のイメージはよい。 ・展覧会内容は、高い外部評価を得た。 ・収蔵品展動員数は昨年度よりも3,000人増加し、1万人台を回復した。多くの寄贈をうけて開催した春の新収蔵品展だけで、前年の倍以上の900人の観覧者を得たほか、夏期の収蔵品展「白の表現力」をはじめ、「西洋の絵画-画材とともに」「妙法華寺の名宝」が好評を博した。 ・移動美術展のうち、浜松市秋野不矩美術館では、NPO法人キッズアートプロジェクトと連携し、「移動美術展」と「キッズ美術展」を開催し好評を得るとともに、入館者数増につなげることができた。 ・企画展広報では、大学との連携に力をいれた。静岡文化芸術大学・静岡県立大学等(スイスデザイン展)、ふじのくに地域・大学コンソーシアム(富士山展)、静岡県立大学(ウィーン美術史美術館展)で特別授業や、授業の一部を借りて、展覧会PRを実施した。 また、静岡市による高齢者大学「みのり大学」の3回の授業をとおして、ロダン館、「富士山展」のPRをした。 ・「写真力」や「ウィーン美術史美術館展」では、静岡市中心部の商業施設や映画館とのタイアップ企画を実施したほか、草薙の地域住民とのイベントなどや街づくり協議会で、展覧会紹介や招待券を配布するなどしてPRIにつとめた。 ・会期中からの広報活動も予算の許す範囲で新聞折り込みチラシの配布や、経費のいらないフェイスブックの発信、フロアレクチャーの追加実施を行った。
	篠山紀信展 写真力(62日間)	45,000 人	38,577 人		
	スイスデザイン(38日間)	13,000 人	15,337 人		
	◆富士山-信仰と芸術-(33日間)	15,000 人	13,404 人		
	ふじのくに芸術祭(14日間)	9,000 人	6,806 人		
	◆写真家の眼/版画家の眼(26日間)	6,000 人	4,126 人		
	◆ウィーン美術史美術館展(77日間)	35,000 人	20,450 人		
	収蔵品展	12,000 人	11,610 人		
	移動美術展	5,000 人	4,646 人		
	2 自主企画・企画参加型の展覧会の回数(回)	4 回	3 回		
	3 作品やテーマに興味を持った人の割合(%)	88.0 %	84.7 %		
	4 展覧会における新規来館者の割合(%)	20.0 %	19.8 %		
	5 収蔵品展の観覧者数(人)	12,000 人	11,610 人		
	6 収蔵品の公開件数(件)	500 件	343 件		
7 展覧会に対する外部評価【定性】	—	別添			
2 他の美術館・大学・地域の専門機関と連携し、新たな公立美術館の姿を示します	8 内部セミナー・研究会・研修の回数(回)	14 回	10 回	【成果】 ・8については11と同内容。 ・9については、以下の5件。①山梨県立博物館との「富士山展」開催。それぞれの館の強みをいかすことができた。②昨年同様静岡大学とのアートマネジメント人材育成事業への協力。③静岡大学のロダン館活用授業への協力 ④静岡県博物館協会事務局としての活動。⑤静岡県立大学の協力をえてロダン館鑑賞用アプリの開発および授業での展覧会PR。 【課題】 ・静岡大学との提携の一部は、文化庁補助金によるものであり、継続性に問題がある。	
	9 他の美術館や大学と連携した取り組み件数(回)	5 回	5 回		
	10 公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】	—	別添		
3 調査研究を美術館活動の基盤と考え、成果を広く公表することで質の向上を図ります	11 調査研究の発表回数(回)	15 回	10 回	【成果】 ・館長出席のもと、学芸員による研究会をほぼ毎月のペースで実施し、コレクションについての研究を深めた。 ・今年度は、これからの美術界をリードしていく現代美術作家の作品を寄贈いただいた。 ・寄贈が、質と量ともに充実してきており、当館コレクションの核となりつつある。 【課題】 ・充実したコレクション形成には、学芸員の研究の継続と深まりが重要である。 ・購入についての継続的な予算化を図るとともに、寄贈についても、質の高い作品を収集していくことが今後も課題である。	
	12 作品購入件数・価格(件・千円)	— 件 千円	— 件 千円		
	13 作品寄贈件数・価格(件・千円)	10 件	3 件 6,560 千円		
	14 調査研究に関する外部評価【定性】	—	別添		

基本方針	B 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します
------	--------------------------------------

計画(P)			実施状況(D) H28.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	目標	実績	特記事項	自己評価
1 美術館の役割を明確にし、業務の再構築等を図るとともに、学校・県民のニーズを先取りするプログラムを開発、普及します	15 学校教育と連携した取り組み数	300 件	259 件	※プログラムの内訳は、別紙。 ・学校向け事業では「粘土・絵の具教室」「粘土貸出」などの図画工作科指導要領上の「造形遊び」分野への需要が高い。 ・学校向け「粘土・絵の具教室」、一般向け「粘土・絵の具開放日」利用者が、展示室観覧へつながるよう、企画や広報の方法を工夫している。 ・一般向けプログラムでは、企画展や収蔵品展の内容とかわりをもたせることで、参加者にとって満足度が高いワークショップを展開できた。 ・平成27年度より、当館作成のアートカード貸出事業を運用開始。	【成果】 ・教育普及全体の利用者数27,576人 ・講義系、体験系、一般向け、学校向けと各分野バランスよく展開することができ、活動参加者の満足度も高い。 ・実技系ワークショップについても鑑賞やコレクション活用を意識したプログラム開発を行い、参加者からも「作品の見方が変わった」「作品に親近感をもてた」との好意的な意見が寄せられた。 ・本年度から開始したアートカード貸出事業に対しては、学校からの関心も高く、教員研修会を含む15団体約1,500名の利用があった。 【課題】 ・一般向け、学校向けともに、静岡市民の利用が中心で、静岡市外の地区からの利用が少ない。今後は、静岡市外からの参加者を増やしていくことが課題である。 ・「粘土・絵の具開放日」「粘土・絵の具教室」など、人気で集客力のある活動が、必ずしも展示室への集客につながっていない実態がある。 ・新規利用者層の開拓を目指した、教育普及事業の展開。 ・県立美術館のアートカード貸出事業の存在を知らない学校も多く、継続的に、各地区の教育委員会等での広報活動を行っていきたい。
	16 鑑賞系プログラム数	19 件	23 件		
	17 コレクションを活用したプログラム数	19 件	21 件		
	18 普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】	—	特記事項		
2 静岡県立美術館の活動をアピールする普及事業を開催します	19 講演会等の開催件数	160 回	166 回	※数値内訳 20=学芸員による美術講座+鑑賞講座+フロアレクチャー+オリエンテーション+出張美術講座 19=上記+特別講演会+シンポジウム+ボランティア等によるギャラリートーク	【成果】 ・全体の開催件数は昨年度並みの数値となった。講座等の聴講者数は増加傾向にあり、利用者のニーズに応える内容であったと推測される。(例:特別講演会26年度674人→27年度830人、美術講座26年度173人→27年度214人) ・館外での美術講座や映画館シネ・ギャラリーとのコラボレーション企画など、外部との連携による普及活動の広がりが見られた。 【課題】 ・引き続き多彩な形式による講座や講演会のあり方を検討・試行する。
	20 学芸員のフロアレクチャー等の数	120 回	98 回		
3 地域住民、企業、友の会、ボランティア等との連携を深化させ、美術館を核とした地域づくりに努めます	21 地域住民等と連携した取り組み数	6 件	9 件	・地域住民と連携した取組に関する詳細は、【定性レポート】を参照。 ・館内空間を生かした催事については、本館エントランスを使用した「ちよこっと体験」、「ドット若冲」の展示、「めぐりアート」の展示、ロダン館ギャラリートークを実施した。	【成果】 ・地域住民と連携した取組としては、「有度山フレンドシップ協定」参加施設との連携、ムセイオン静岡、静岡大学、静岡県立大学等との共同事業を実施した。 ・館内空間を生かした催事は、ちよこっと体験2,058人、ドット若冲32人、めぐりアート5,135人、ギャラリートーク592人の参加者があり、目標数値を超える成果を得た。 【課題】 ・地域住民と連携した取組については、美術館を核とした地域づくりに努め、様々な取組を定着させるべく努力していくことが課題である。 ・ロダン館内部空間を利用した催事では、他の観覧客が観覧制限を受けたり、普段生じない騒音が発生したりするため苦情が発生するケースがある。催事と観覧客の調整が重要課題となる。
	22 館内空間を生かした催事の件数・参加者数	90 件 5000 人	54 件 7817 人		
	23 地域住民等と連携した取組に関する職員レポート【定性】	—	別添		

基本方針	C さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます
------	---------------------------------

計画(P)			実施状況(D) H28.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	目標	実績	特記事項	自己評価
1 県民が「静岡県の誇りと自慢できる美術館」を目指し、様々な戦略的広報を発信していきます	24 美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合	70.0 %	70.6 %		<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合(%)は、前年度と比べ2.4%減少した。ホームページの満足度(%)についても、2%弱減少している。アクセス件数は、1500件増で、ほぼ前年度並みであった。一昨年7月から開始したFacebookを通じたコミュニケーションが、オンライン上の新たなコミュニケーションツールとして機能しはじめ、話題性のあるタイムリーなニュースや、関心の高い書き込みに対しては、多くの「いいね！」を獲得し、「シェア」も行われている。いいね！の累計は約2,000件。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページは、平成21年度にリニューアルしてから、数値は高めで安定している。平成26年度7月からはFacebookも導入したが、27年度のアクセス数は、微増に留まっている。今後の課題としては、スマートフォンの普及に伴って、スマートフォンに対応したサイトの作成が急がれる。
	25 ホームページのアクセス件数	600,000 件	245,000 件		
	26 ホームページの満足度	75.0 %	70.7 %		
2 観光業界等と連携した新たな広報手段を開拓し、県立美術館の魅力を積極的に広報します	27 観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数	5 件	8 件	<ul style="list-style-type: none"> 観光業界や他のイベントとの広報連携の取り組み「ふじのくに観光大商談会」へH25年度から継続参加「つながるくさなぎフェス」夏・冬へH25年度から継続参加「草薙マルシェ実行委員会主催のマルシェ」H26年度誘致「JR東海アート&トレイン」への参加2年目「静岡大学主催の「めぐるりアート」」へH25年度から参加「篠山紀信展」において、「日本平動物園との共通チケット販売」、「静岡鉄道との共通チケット販売」、「新静岡セノバ」でのミニパネル展、大型タペストリー掲示を実施した。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光業界や他のイベントとの広報連携については、「有度山フレンドシップ協定」参加施設による地域を一体とした誘客PR(大商談会)、草薙商店会との連携(つながるくさなぎフェス、マルシェ)、JR東海が実施するイベント等への参加を行った(その成果については、今後、確認する必要がある)。 広報手法における新たな取組状況については、ホームページ、ポスター・チラシ、広報サポーター、Facebook等、様々な媒体を用いて積極的な広報を実施した。それにくわえて、展覧会ごとに、新たな広報に向けた会議やイベントの実施、チラシの配布、新静岡セノバや静岡シネギャラリーとの協力など、様々な取組を実施し、積極的な広報を展開した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光業界や他のイベントとの広報連携については、美術館単独では静岡県外の誘客を図ることが困難なため、「有度山フレンドシップ協定」参加施設では、各施設を巡る観光ルートマップの作成を進めており、ルートマップの商談会等での活用が課題である。 広報手法における新たな取組状況については、ホームページはスマートフォン対応をしていないため、情報の確認・拡散が難しい。
	28 広報手法における新たな取組状況についての美術館職員のレポート【定性】	—	別添	<ul style="list-style-type: none"> 広報手法における新たな取組状況についての詳細は、【定性レポート】を参照。 	
3 ロダン館、富士山絵画を「静岡県立美術館の顔」としてその魅力を発信していきます	29 ロダン館の入場者数	80,000 人	67,821 人	<p>平成26年度に、ロダン館開設20周年を記念しロダン作品32体を擁し国内唯一の常設展示を行う当館の活性化と賑わい創りを目的に、地域や大学等と連携して開催した「ロダンウィーク」を、本年度も「第2回ロダンウィーク」として開催し、例年事業としての定着を図った。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度の「ロダンウィーク」集客数は、平成26年度の5,000人に対し、6,600人と大幅に増加した。今後もロダン館を中心とした地域の賑わい創りを進めるとともに、平成29年度の「ロダン没後100年」を念頭にロダン館の情報発信を進めていく予定である。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ロダンウィーク(特にマルシェのお客様)参加者を美術館の展覧会へどのように導くかが課題である。 11月3日が中心イベント開催日であり、当日の駐車場対策(公共交通機関の利用促進、鉄道会社と連携した割引チケットの発行他)が課題である。 来客の安全対策、環境整備(ごみ、作品保護等)に取組むことが課題である。 ロダン研究の拠点として、ロダン・ウィークにおける学術発信をしていくことが課題である。

基本方針 D 常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます

計画(P)			実施状況(D) H28.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	目標	実績	特記事項	自己評価
1 お客様の満足度を高める施設を目指し、環境整備に努め、利便性を高めます	30 美術館利用者数	264,800 人	266,856 人	<p>・防災・防犯設備について、警備センターの集中監視複合盤を中心に関係機器を更新し、安心安全な環境の整備に努めた。</p> <p>・建築及び各設備の大規模改修(リニューアル)計画の具体化に向けて設置した美術館職員の内部検討会において、他館の事例等を報告し、今後の進め方の参考とした。</p> <p>・図書閲覧室は施設管理上の理由から閉室していたが利用を再開した。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レストラン・カフェの満足度は61.2%で目標(75.0%)に達していないが、レストランにおいては、企画展に合わせて特別料理(ミューゼスペシャリティ)を提供するなど、質の高いサービスを提供し、お客様の好評を得ている。 ・ミュージアムショップの満足度は92.1%で目標(85.0%)を上回った。特に企画展に合わせた商品のレイアウトの工夫(スイスデザイン展での展示品と同様のプロダクトなど)を行い、お客様の満足度向上に努めた。 ・当館への利用交通機関で最も多いのは自家用車であり、アクセス満足度は78.3%と目標の80%には達しなかったが、来館者の多いゴールデンウィークやイベント(ロダンウィーク)の際には、隣接する県立大学の職員駐車場を借用し、交通渋滞を招かないように誘導するなどの対応を行った。また駐車場を案内する電光掲示板の表示を更新し、利便性向上に努めた。 ・安心安全な環境づくりのため、防災・防犯に関する機器の更新を行ったほか、必要な改修工事等を実施し、良好な施設・設備の維持管理に努めた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当館は開館から30年が経過し、経年劣化等により建築及び各設備に多くの不具合が生じている。このため中長期的には建築及び各設備の大規模改修(リニューアル)計画の具体化に向けて検討する必要がある。短期的には劣化診断結果等をもとに、リニューアル計画の検討状況を踏まえつつ、緊急度の高い施設・設備の修繕等を計画的に実施する。 ・自家用車・公共交通機関ともアクセス満足度は目標を下回った。自家用車利用者のアクセスについては、敷地内に無料の駐車場があるものの、収容台数が約400台と限られているために、週末などに利用者が集中してしまうと、近くの駐車場から順次満車になり、駐車できるまでに時間がかかってしまうという問題がある。公共交通機関を利用される場合についてはお客様からのアクセスに関する問合せに対して、「JR草薙駅から運行する100円バスを利用するのが便利であること」を引き続き周知するよう配慮しているものの、来館者の多い日曜、祝日の運行が30分間隔(土曜のみ20分間隔)であることが影響していると考えられる。今後はバス会社への増便等の協力要請を含め対策を検討する必要がある。 ・レストラン・カフェの満足度は目標に達しなかった。営業を委託している事業者においては、企画展に合わせて特別料理を提供するなど、質の高いサービスの提供に努めているが、一層お客様のニーズの把握に努めることが求められる。
	◆展覧会観覧者数	140,000 人	114,956 人		
	◆移動美術展	2,000 人	4,646 人		
	◆教育普及プログラム参加者数	23,800 人	27,576 人		
	◆ミュージアムコンサート入場者数	200 人	180 人		
	◆県民ギャラリー入場者数	40,000 人	59,350 人		
	◆講堂入場者数	8,000 人	10,932 人		
	◆レストラン・カフェ利用者数	30,000 人	33,287 人		
	◆ミュージアムショップ利用者数	20,000 人	15,217 人		
	◆図書閲覧室利用者数	800 人	712 人		
2 施設再始動検討を始め、より県民に愛される美術館を目指します	来館者のアクセス満足度			施設改善の詳細については、上記を参照。	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組を実施した結果、美術館利用者数は、26万人を超えることができ、多くの「県民の皆様にも愛される美術館」という目標に近づくことができた。 ・展覧会やレストラン・カフェ、ミュージアム・ショップの満足度は高く、利用者に親しまれている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展覧会については、「作品やテーマに興味を持った人の割合」は高かったが、来館者数が目標値に達することができなかったため、さらなる魅力作りが必要である。 ・レストラン・カフェの満足度は、目標値に達することができなかったため、さらなるサービス改善が課題である。
	31 ※上段:公共交通機関利用 下段:自家用車利用	80 %	76.0 % 78.3 %		
	32 レストラン・カフェに対する満足度	75.0 %	61.2 %		
	33 ミュージアムショップに対する満足度	85.0 %	92.1 %		
2 施設再始動検討を始め、より県民に愛される美術館を目指します	34 鑑賞環境に対する満足度(%)	90.0 %	90.8 %	施設改善の詳細については、上記を参照。	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組を実施した結果、美術館利用者数は、26万人を超えることができ、多くの「県民の皆様にも愛される美術館」という目標に近づくことができた。 ・展覧会やレストラン・カフェ、ミュージアム・ショップの満足度は高く、利用者に親しまれている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展覧会については、「作品やテーマに興味を持った人の割合」は高かったが、来館者数が目標値に達することができなかったため、さらなる魅力作りが必要である。 ・レストラン・カフェの満足度は、目標値に達することができなかったため、さらなるサービス改善が課題である。
	3 作品やテーマに興味を持った人の割合(%)※再掲	88.0 %	84.7 %		
	21 地域住民等と連携した取り組み数(件)※再掲	6 件	9 件		
	30 美術館利用者数(人)※再掲	264,800 人	266,856 人		
	32 レストラン・カフェに対する満足度(%)※再掲	75.0 %	61.2 %		
	33 ミュージアムショップに対する満足度(%)※再掲	80.0 %	92.1 %		

【資料編】

展覧会に関する自己点検評価表（平成 27 年度）

- 1 「篠山紀信」展
- 2 「スイスデザイン」展
- 3 「富士山—信仰と芸術—」展
- 4 「写真家の眼／版画家の眼 6つのアンソロジー」展
- 5 「ウィーン美術史美術館」展

(様式1)

展覧会自己点検評価表

展覧会名	篠山紀信展 写真力
------	-----------

期 間	4月11日(土)～6月21日(日) (62日間)
場 所	静岡県立美術館第1～6展示室

担当者名	泰井良
------	-----

学芸員の企画への参加の有無	有・無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	有・無
マスコミ等による共催の有無	有・無	巡回の有無	有・無

記入日	企画	2014年4月1日(水)
	実績	2014年7月15日(水)

企画		実績・検証	
目的・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1950年代後半から今日に至るまで、写真の第一線を走り続ける篠山紀信(1940-)。時代を見越し、時代に先駆けるその活動は、常に話題をさらい、また賛否両論を巻き起こしてきた。 ・本展は、これまで美術館での回顧展を拒み続けてきた篠山が、50年間にわたり撮影してきた写真を「写真力」という新たなストーリーをもとに世に問う大規模な個展。 ・篠山が「写真の神様が降りてきた」と称する約110点を厳選し、「GOD」(鬼籍に入れられた人々)、「STAR」(すべての人々に知られる有名人)、「BODY」(裸の肉体、美とエロスと闘い)、「ACCIDENTS」(2011年3月11日、東日本大震災で被災された人々の肖像)の5つのセクションで紹介する。 	【研究活動評価委員会からの意見(要約)】	
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人であれば、誰もが知っている有名人の肖像写真。一見、大衆的に思えるが、篠山紀信の「写真力」によって、それらが力強く、鑑賞者に迫ってくる。大画面の写真を近くで観ることができ、その迫力を感じることができる貴重な機会となる。 ・主なターゲットは、10代～20代の男女、50～60歳代の男女。静岡市内及び首都圏在住者。 	【アンケートにみる特徴】	
指標(数値目標)	観覧者数 45,000人	観覧者数 38,577人	
収支計画	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出 12,412千円 ・歳入 18,058千円 ・特財率 145.5% 	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出 12,317千円 ・歳入 16,951千円 ・特財率 137.6% 	
広報戦略 主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・読売新聞社、静岡だいいちテレビとの強力な連携のもとに、大規模な広報を展開する。テレビ、新聞、ラジオを中心に、セノバにおける広報など多様なメディアによって、篠山紀信の世界を広く紹介する。また、篠山紀信氏によるトークショーなど様々なイベントを実施し、本展の普及に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読売新聞社、静岡だいいちテレビの全面的な協力のもとに、テレビ・スポット、セノバでの大規模な広報を実施した。 ・篠山紀信氏によるトーク・ショーを2回実施。 ・さらに会期後半には、折込チラシの配布なども行った。 ・これらの取組により、広報効果を上げることができ、篠山紀信氏の「写真力」をできる限り多くの方々に体感いただくことができた。 ・来館者ターゲットとしていた、10代～20代の男女、50～60歳代の男女という幅広い年齢層の獲得については、一定の成果を上げたと考えます。 	
自己評価 今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館では、初めてとなる篠山紀信氏の個展。「写真力」という新たなテーマのもとに、篠山紀信氏の写真世界の魅力を伝えることができたと考えます。 ・教育普及活動として、篠山紀信氏のトークショーを実施し、多くの方に篠山紀信氏の人間的魅力にふれていただいた。また作家・野沢裕氏によるワークショップを2日間実施し、写真の不可思議性と可能性とを来館者に感じていただくことができた。 ・しかし、来館者数が、目標の45,000人には達することができず、数値目標の設定や展覧会マネジメント、広報戦略など、様々な課題を残した。これらについては、今後、経営の面から、さらに検証をしていく必要がある。 		

(様式1)

展覧会自己点検評価表

展覧会名	スイスデザイン展
------	----------

期 間	7月11日(土)～8月23日(日) (38 日間)
場 所	静岡県立美術館第1～6展示室

担当者名	村上敬
------	-----

学芸員の企画への参加の有無	有・無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	有・無
マスコミ等による共催の有無	有・無	巡回の有無	有・無

記入日	企画	2015年4月9日(木)
	実績	2015年10月22日(木)

企画		実績・検証	
目的・内容	<p>永世中立国としてアルプスの国として知られるスイス。平和と自然に恵まれたスイスはヨーロッパ有数の豊かさを誇る国でもあり、優れた工業デザインでも知られる。このような点でスイスはわが国との深い共通点を持つ国であり、長きにわたる交流の歴史もある。2014年には、修好通商条約締結(1864年)150周年を迎えている。本展は、その優れた機能性とデザイン性において世界中で親しまれているスイスのメーカー各社の協力を得て、そのデザインを振り返るものである。</p>	【研究活動評価委員会からの意見(要約)】 評価対象外のためなし。	
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	<p>(ねらい) ・日本とスイスとの出会い、そして岩倉使節団のスイス視察を中心とする両国交流史を簡単に紹介。 ・ノバリー、ピクトリノックス、ネフ、スウォッチなどの美しいデザインプロダクトの紹介。 ・ポスターを中心とするグラフィックデザイン、スイスの生んだ世界的建築家ル・コルビュジエの作品を紹介。</p> <p>(ターゲット) ・20～40代前後のデザインに関心の高い層(男女半々か)。 ・40～60代前後の旅行や自然に関心の高い層(男女半々か)。 ・夏休みのファミリー層。</p>	【アンケートにみる特徴】 ・平素高い割合を示すシニア層の来館は少なかった(回答者に占める割合/70歳以上2.7%)。 ・いっぽう、ミドル層の割合は高い(回答者に占める割合/40歳代:22.1%、50歳代16.3%、60歳代:7.3%)。「40～60代前後の旅行や自然に関心の高い層」の誘客に成果をあげたといえる。 ・若年層の来館が多い(回答者に占める割合/12歳以下:4%、13-19歳:15.3%、20歳代:15.8%)。夏休みのファミリー層と学生層であろう。 ・全体的な満足度も高い(「はい+どちらかといえばはい」の割合/全体:92.9%、うち新規来館者95.6%)。とくに新規来館者の方がやや満足度が高いということは、本展を目指して新たに来館を試みた層に満足してもらえたことと考えられる。	
指標(数値目標)	観覧者数 11,000人	観覧者数 15,337人	
収支計画	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出 15,875千円 ・歳入 7,695千円 ・特財率 48.5% 	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出 13,908千円 ・歳入 8,478千円 ・特財率 61.0% 	
広報戦略 主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ静岡と協力し、同社のTV放送電波を利用した露出(スポットCM等)。 ・市内のスイスデザイングッズ販売店とのコラボレーション(ネフの教育玩具など)。 ・グッズ売り場の充実により、デザイングッズに関心を寄せる層の誘客。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ静岡の露出/15秒CM200本超、番組内広報4番組、同社ホームページ掲載。積極的な協力を得られたと評価できる。 ・静岡大学、静岡県立大学、静岡文化芸術大学、常葉大学等デザインや国際文化に興味関心のある学生を対象として、講義の終了後等に時間を割いていただき展覧会の説明をした。 ・出展ブランドを取り扱う店舗において半券を提示するとポストカードを配付する等、出展ブランドの協力を得てキャンペーンを実施した。 ・「実技講座 ネフのデザインと遊び」(7/20)に講師を派遣くださった絵本とおもちゃの専門店「百町森」にてチラシ配布協力 	
自己評価 今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・当館初の試みとなる現代デザイン展であり、未知数の部分が多かった。 ・しかしながら、15,337名の集客を実現でき、まずまずの反響があったと感じている。 ・当館で初の現代デザイン展ということで、現状では「話を聞いたときには市美での展覧会と思った」(百町森スタッフ)という反応もあり、「ライトで現代的な展示＝市美」「重厚で歴史的な展示＝県美」というイメージの存在を感じた。ブランドイメージの確立したいは良いことなので、「手堅い県美もこういうものをするのか」という新鮮な驚きのある企画を今後も狙いたい。 ・静岡大学教育学部デザイン科、静岡デザイン専門学校(引率で数度来館)、百町森といった県内のデザイン関係者からはたいへん好意的な反応を得た。 ・展示台の制作等、コスト面でも厳しい部分があったが、節約して支出を最小限に抑えることができた。 		

(様式1)

展覧会自己点検評価表

展覧会名	富士山—信仰と芸術—
------	------------

期 間	9月5日(土)～10月12日(月・祝) (33日間)
場 所	静岡県立美術館第1～6展示室

担当者名	石上充代
------	------

学芸員の企画への参加の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
マスコミ等による共催の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	巡回の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無

記入日	企画	2015年4月28日(火)
	実績	2015年12月7日(月)

企画		実績・検証	
目的・内容	<p>古来、富士山は信仰の対象として崇敬されるとともに、様々な芸術活動を生み出す源泉となってきた。信仰と芸術に関する富士山の普遍的な文化的価値が認められ、世界文化遺産として登録されたのは記憶に新しいところである。本展は、世界遺産登録を記念し、あらためてその文化的意義を示すため、富士山を介して縁の深い山梨・静岡の両県が手を携えて開催するものである。富士信仰を核として、その歴史の変遷や、信仰を起点として生み出された芸術作品を紹介する。</p>	<p>【研究活動評価委員会からの意見(要約)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富士山を描いた絵画を軸に、彫刻、工芸を加え、信仰の側面からも富士山を考え、見てみようという好企画である。山梨県立博物館との協力をえて、巡回展としているところも評価できる。県立美術館として学芸の軸なテーマとなっている富士山の絵画を、今後とも研究し、展覧会を組織していくべきである。(金原委員) ・文化遺産としての富士山の意味と姿を問う内容は画期的。そもそも静岡県立美術館と山梨県立博物館との共同企画として構想したことこそがこの展覧会を充実した内容にさせた。その意味でこの二つの館をコラボさせた企画者の着想を称えたい。(榊原委員) 	
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	<p>山梨・静岡の両県立館が蓄積してきた富士山に関する調査研究の成果を生かして開催するものであり、信仰と芸術という富士山の文化的価値に対して、各館の特色を生かしてアプローチする。富士山に関する展覧会は過去にも開催実績があるが、今回はとりわけ富士信仰を軸に据えることによって、これまでの富士山展にない特色を打ち出すとともに、作品の重層的な意味を明らかにし、新たな見方を提示したい。</p> <p>主なターゲットは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内を中心とした中高年層 ・芸術のほか歴史に関心の高い人々 と考える。 	<p>【アンケートにみる特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者の属性として、男性(49.3%、H26平均39.2%)、50歳以上の中高年層(65.1%、H26平均32.7%)、リピーター(来館経験10回以上43.3%、H26平均28.1%)の割合が高い。概ね当初予想の通りといえる。 ・来館のきっかけとして新聞を挙げる人の割合が高い(33.7%)。シニア層の割合が高いことと関連していよう。この点で静岡新聞との共催は有効であった。 ・「心地よく鑑賞」91.5%、「スタッフの対応適切さ」85.1%、「総合満足度」90.7%といずれも高い数値を示す。 	
指標(数値目標)	観覧者数 15,000人	観覧者数 13,404人(89.4%) 作品やテーマに興味を持った人の割合 83.4%	
収支計画	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出 21,231千円 ・歳入 9,200千円 ・特財率 43.3% 	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出 20,281千円 ・歳入 8,787千円 ・特財率 43.3% 	
広報戦略 主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・名義共催の静岡新聞と協力し、新聞・テレビを通じた効果的な広報を展開する。 ・当館で展示機会の少ない歴史・考古に関する文化財や、仏像・神像などが多数紹介されることを積極的にアピールし、絵画に関心を持つ人々だけでなくより幅広い層の興味喚起を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名義共催静岡新聞・SBSと協力した広報活動を行った。ただ、会期前半は当館県民ギャラリーにおいて静岡新聞・SBSが主催する空海展を開催しており(9月3日～26日、有料)、2つの展覧会を混同する向きもあり若干の混乱を招いた。 ・商工会議所の広報協力を得て、チケットの一括販売をしたが、福利厚生事業と重複することに対する苦情も出た。 ・期間中の静岡市高齢者教室(2回)、大学コンソーシアム授業(1回)にて展覧会内容を講義し、集客を図った。 	
自己評価 今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・富士山の絵画に関する当館の調査研究や収集・展覧会活動の成果を活かしつつ、他ジャンルを主な研究領域とする山梨県立博物館との連携により、富士山の文化的意義について多面的に掘り下げることができた。富士山を擁する当地の美術館ならではの内容であり、独自性を十分に示すことができたと思う。そのことは研究活動評価委員による評価によっても裏付けられた。また、新規来館者の来館のきっかけのうち「一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた」が、他展に比べて突出した数値を示しており(25.4%)、当館への潜在的な期待に応える展覧会であったと考えられる。 ・本展を機に、新たに基礎調査が進み写真資料を残すことができた作品が多数あった。富士山にまつわる文化財の調査研究の進展におおいに貢献したものと見える。 ・会期前半、2階展示室(富士山展)と1階県民ギャラリー(空海展)において、有料催事が同時開催された。結果として、一般来館者が二つの展覧会に観覧料を支払うことは相当にハードルが高いことが分かった。今後同様の試みをするのであれば、破格のセット割引を用意するなど慎重な対応が必要と思われる。 ※参考 富士山展観覧料 一般1000円、70歳以上500円、大学生以下無料/空海展観覧料 一般800円、大学・高校生500円、中学生以下無料 (互いに半券提示による割引有) ・静岡・山梨いずれも観覧者数は伸び悩んだ(山梨会場:6千人弱)。内容としてはかつてないものであったが、それを元に広く興味を喚起するだけの発信ができなかった。2年前の世界遺産登録に伴って富士山を顕彰する活動は様々に行われており、地元の人々にとって「富士山」の新鮮味は薄れてしまった印象もある。 		

(様式1)

展覧会自己点検評価表

展覧会名	写真家の眼/版画家の眼 6つのアンソロジー展
------	------------------------

期 間	11月8日(日)~12月9日(水) (28日間)
場 所	静岡県立美術館第1~5展示室

担当者名	南 美幸
------	------

学芸員の企画への参加の有無	有・無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	有・無
マスコミ等による共催の有無	有・無	巡回の有無	有・無

記入日	企画	2014年4月29日(水)
	実績	2016年1月25日(月)

企画		実績・検証	
目的・内容	当館所蔵品およびご寄託品の中から、「場」と「美術」を巡る6つのキーワードを軸に、写真と版画連作を中心として、広くコレクションを紹介する機会とする。	【研究活動評価委員会からの意見(要約)】 (潮江委員) ・とても斬新な試みであり、独自性に関しては言うまでもない。連作形式のコレクションを活用するために考案された創意工夫が感じられる展覧会である。 ・コレクションの活用を前提とした展覧会であるためか、開催の必然性に関するメッセージのアピール度がどうしても弱くなっている感がある(以前は版画が、現代では写真が、最重要のヴィジュアルコミュニケーション手段であることなど、学芸員には当然のこともことさら表面化した方がよいのではないか)。 ・今後とも収集成果を活かす、このような斬新な試みを続けてほしい。 (山梨委員、1月27日現在未提出)	
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	本展は、一つの明確なテーマを設定した企画展というよりも、コレクションとご寄託品との出会いから生まれた、それぞれが緩やかに関わり合う、6本の短編小説のような構成となっている。コレクションを新たな視点から捉え直す試みでもあり、また企画展のあり方に対して、一ひねりした方向性を提起するものでもある。 出品作品の多くが版画と写真であり、当館で初公開となる写真作品も含まれる。昨年の「下岡蓮杖展」、今年度の「篠山紀進展」に続き、写真ファンの新規・継続両方の来場とともに、従来の美術ファンにも応える内容と思われる。	【アンケートにみる特徴】 [来館者の属性、等] ・新規来館者は全体の2割弱で、8割がリピーター。男性・女性の割合はほぼ半分で、新規来館者についても同様。 ・来館のきっかけはポスターとHPが1.5割。新規で回答の多かったのは、「一度来館したかった」(30%)、「たまたま時間があつた」(26%)。 ・居住地域については静岡市内が圧倒的比率を占め(43%)、県内のそれ以外の地域への広報を工夫する必要あり。しかし、県外からが11%と意外に多い(HP?)。 ・「作品・テーマへの関心の深まった」という回答が約75%、「心地よく鑑賞できた」という回答が約88%、「全体的満足度」への肯定的回答は84%。 [個別意見] ・照明が暗くて鑑賞しにくい、小さい版画などの拡大イメージを見たい、との意見が複数あつた。作品保護の観点から照度を上げることは難しいため、部分図の拡大複製を今後工夫したい。	
指標(数値目標)	観覧者数 11,000人	観覧者数 4,126人	
収支計画	・歳出 2605千円 ・歳入 1801千円 ・特財率 42.2%	・歳出 3,918千円 ・歳入 989千円 ・特財率 25.2%	
広報戦略 主な取組	コンサート、レクチャーや実技系講座等のイベント実施を計画中である。 会期が非常に短いことから、有効な広報戦略について今後検討したい。		
自己評価 今後の課題	<p>・潮江委員の評価のとおり。収蔵品および寄託品の活用という点からは、これまでにないテーマ・内容の企画展を試みる事ができたが、そのアピールの仕方に関しては今後工夫の要あり(学芸サイド)。 ・今後、収蔵品および収蔵品展をどのようにアピールしていくか(あるいはしていかないか)については、全館で検討する課題である。収蔵品展であることを全面に押し出すと集客率が低くなるという見方がある一方で、本展のアンケートにも「常設展を充実させてほしい」という意見が複数見られたことから、収蔵品展を楽しみにして下さる鑑賞者が確実に存在することは、コレクションを持つ当館の強みであると思われる。 ・観覧者見込数に達しなかった企画展の場合には、常に広報戦略が大きい課題となっている。これは、学芸・総務の各担当者だけでは解決できないため、広報委員会などのサポートを今後も望む。</p>		

(様式1)

展覧会自己点検評価表

展覧会名	ウィーン美術史美術館展
------	-------------

期 間	12月18日(金)～3月21日(月・祝) (77日間)
場 所	静岡県立美術館第1～6展示室

担当者名	三谷理華
------	------

学芸員の企画への参加の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無
マスコミ等による共催の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	巡回の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無

記入日	企画	2015年4月9日(木)
	実績	2016年4月19日(火)

企画		実績・検証
目的・内容	<p>ヨーロッパ主要美術館の一つ、オーストリア国立のウィーン美術史美術館には、神聖ローマ帝国皇帝を務めたハプスブルク家のコレクションにはじまる膨大な数の美術作品が所蔵されている。この世界屈指のコレクションから、「風景画」に焦点をあてて作品を精選して紹介し、ヨーロッパにおける風景画の誕生と展開の歴史を紐解くことを試みる。</p> <p>同時に本展は、世界的美術館の収集品を静岡で初めて展覧するものであり、地域の文化育成への貢献が期待されるとともに、当館の収集の大方針に「風景画」があることに鑑みれば、美術館の活動と連動する点にも意義が認められる。</p>	<p>【研究活動評価委員会からの意見(要約)】 (坂本委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館の重点収集分野との重複した巡回展であったために、出品作品は館にとってよい貴重な研究(勉強)対象になったと思われる。 ・年間数多く開催される将来品による展覧会の中で、稀少な魅力の大きな展覧会といえるのではないかと思つた。 <p>(潮江委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風景画の収集・展観を主要目標に掲げている静岡県立美術館に最適の展覧会であると言える。 ・ウィーン美術史美術館のコレクションから、第7室収蔵品展での静岡県立美術館の風景画コレクションへと巧妙な流れが築かれ、近代風景画への流れが別の視点からよくわかる展示になっていた。
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	<p>【ねらい】 ハプスブルク家が統治した神聖ローマ帝国は、現在のオランダ、ベルギーを含むネーデルランド諸国を治めていたため、同家コレクションには、ヨーロッパ美術の歴史において最初に自立的「風景画」を生み出した17世紀オランダの風景画の優品が数多く含まれる。この分野の作品を中心に作品選定し、世界に名高いウィーン美術史美術館のコレクションのハイライトを紹介するとともに、ヨーロッパにおける「風景画」成立の問題を再考する機会とする。</p> <p>【ターゲット】 静岡県内および東海圏に居住する30代～40代の女性、ならびに同じ地域の50代～60代の男性・女性。冬休み期間中などは、静岡市近郊を中心としたファミリー層。</p>	<p>【アンケートにみる特徴】</p>
指標(数値目標)	観覧者数見込 35,000人	観覧者数 20,450人
収支計画	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出 △5千円 ・歳入 14,045千円 ・特財率 100.0% 	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出 14,040千円 ・歳入 7,359千円 ・特財率 52.4%
広報戦略 主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・共催メディアである静岡朝日テレビを通じてのCMスポット放映。 ・できるだけ早期から徐々に広報活動に取り組み、展覧会の情報を地域に浸透させる。 ・講演会やミニコンサート開催等を通じて美術に限定されないウィーンの文化的諸相を伝え、県民の幅広い関心を掘り起こし誘客につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡市内の映画館である静岡シネギャラリーで上映の映画『黄金のアデーレ 名画の帰還』との連携によるイベントを開催し、事前の告知に努めた。 ・10月より広報活動を開始し、早めの告知努力を行った。 ・音声ガイドの吹込みをさせていただいた俳優の榎木孝明氏に「展覧会応援大使」としてTVスポットにご出演いただき、告知のすそ野を広げることを試みた。 ・名義共催に入っていた中日新聞に紙面をいただき、学芸員による連載記事執筆などを積極的に行った。 ・クリスマス、正月、バレンタインなどの時宜を捉えてプレゼントイベントなどを行い、誘客を図った。 ・割引クーポン付新聞折り込み広告の配布を静岡市内で2回実施し、幅広い層への告知に努めた。
自己評価 今後の課題	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館の収集活動方針に即した内容の展覧会を行い、収蔵品展を活用して収蔵品とも対比するかたちで展覧することで、双方の展覧会をより意義深いものとし、また、収蔵品の意義を改めて評価する好機とできた。 ・共催マスコミや地元施設との協力によるイベントや広報活動を様々なかたちで試み、継続的な連携の強化が計れた。 <p>(今後の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会形式で展覧会を行う場合、会期が長ければ監視員人件費など支出も増えることになるため、より精査を重ねたバランスの良い会期設定の必要が痛感された。 	

【資料 2】

調査・研究に関する自己評価点検評価報告書（平成 27 年度）

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 28 年 5 月 9 日	
職・氏名	学芸部長 泉 万里
●専門分野	日本中近世絵画史
●所属学会	美術史学会 家具道具室内史学会 藝能史研究会
●主要研究テーマ	中世風俗図、中世社寺縁起絵
<p>1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学术论文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文「昆明池図小考」(『家具道具室内史』7 平成 27 年 6 月) ・分担執筆「各論④屏風・扇」(村井章介ほか編『日明関係史研究入門 アジアのなかの遣明船』勉誠出版 平成 27 年 10 月) ・論文「社寺縁起絵と素朴絵」(泉武夫編『日本美術全集』11 信仰と美術 小学館 平成 27 年 10 月) ・論文「新出の大織冠図屏風 描き直されたクライマックス」(『藝能史研究』212 号 平成 28 年 1 月) <p style="text-align: right;">小計 4 本</p>	
<p>2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業 「富士山 信仰と芸術」図録作品解説 17 点、連続美術講座 (3 回)、講演会 (1 回 於：山梨県立博物館)</p> <p style="text-align: right;">小計 1 本</p>	
<p>3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図版解説「高野山水屏風」(加須屋誠編『日本美術全集』8 中世絵巻と肖像画 小学館 平成 27 年 6 月) ・図版解説「親鸞聖人絵伝 (万福寺旧蔵)」ほか 7 点 (泉武夫編『日本美術全集』11 信仰と美術 小学館 平成 27 年 10 月) ・分担執筆「解題」(赤澤英二編 鈴木廣之ほか監修『朝鮮王朝実録抄 中世美術史料』中央公論美術出版 平成 28 年 1 月) ・講演 京都市考古資料館開館 100 周年特別講演都へのあこがれ ひろがる京文化 「中世絵画にみる都への憧れ 12 世紀の平泉の洛陽霊地名所図壁画から 16 世紀の洛外名所図屏風まで」(於：京都アスニー 平成 27 年 10 月 4 日) <p style="text-align: right;">小計 4 本</p>	
<p>4. 収蔵作品に関する論文・発表等</p> <p>1 1 - 1 に同じ</p> <p style="text-align: right;">小計 0 本</p>	
合計 9 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 28 年 5 月 2 日	
職・氏名	学芸課長・三谷理華
●専門分野	美術史
●所属学会	美術史学会、美学会、日仏美術学会、ジャポニスム学会、九州藝術学会、Société de l'histoire de l'art français、ICOM
●主要研究テーマ	ヨーロッパ近代美術史、日仏文化交流史
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
1 「西欧風景画の中の日本美術—カミーユ・ピサロ作《ライ麦畑、グラット=コックの丘、ポントワーズ》を事例として—」『ウィーン美術史美術館所蔵 風景画の誕生』[図録]、Bunkamura、2015年9月9日、pp.165-171	
2 「ラファエル・コランと美術行政—セーヴル国立製陶所関連資料を手掛かりに」『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第119号、2015年10月1日、pp.6-7	
3 「白井鐵造、パリ、そして宝塚少女歌劇レビュー『パリゼット』」『美術フォーラム 21』第32号、一般財団法人美術フォーラム 21 刊行会、2015年11月30日、pp.59-64	
4 「ロダンとラファエル・コラン—ロダン美術館所蔵の関連一次資料にみる交友の諸相」『静岡県立美術館開館 20 周年記念国際シンポジウム オーギュスト・ロダン(1840-1917)—複合的視点でとらえる— 記録論集』、静岡県立美術館、2016年3月18日、pp.56-72	
小計	4本
2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業	
1 企画展「ウィーン美術史美術館展 風景画の誕生」 主担当	
2 同展 フロアレクチャー 4回(内、友の会会員向け1回)	
3 同展 特別講演会①「西洋の曆に描かれた月々の行事と風景」(講師：木島俊介氏) 1回	
4 同展 特別講演会②「風景を見る眼」(講師：中野京子氏) 1回	
5 同展 美術講座「近代までの西欧風景画ウィーン美術史美術館feat. ケンピ・コレクション」1回	
6 同展 記念コンサート「謹賀新年！ニューイヤーミニコンサート」(ピアノ三重奏：近藤由理氏、生田奉子氏、若宮奈々氏) 1回	
7 同展関連イベント「ウィーン美術史美術館展—風景画の誕生」×「黄金のアデーレ 名画の帰還」コラボ企画 ウィーンと美術をもっと知る！アフター・トーク「音楽だけじゃないっ！美術の都ウィーン」(講師：池田祐子氏) 1回	
8 同展 自治研修所夜間講座「ウィーン美術史美術館展—風景画の誕生 裏も表もお見せします！」1回	
9 同展 子どもたちの文化芸術鑑賞推進事業 出張美術講座 2回	
10 同展 展覧会紹介新聞寄稿「風景画の誕生物語」(中日新聞) 1回	
11 同展 作品紹介新聞連載寄稿「ウィーン美術史美術館展 風景画の誕生 ①～⑤」(中日新聞) 5回	
12 同展 作品紹介雑誌寄稿「花まわり 植物が登場するアートたち 楽園に漂うリンゴの誘惑の香り」(『小原流 插花』第782号) 1回	
13 同展 展覧会紹介雑誌寄稿「構図で読み解く風景画の変遷」(『美術の窓』第388号) 1回	
14 企画展「スイスデザイン」展 副担当	
15 収蔵品展「西洋近代の風景画」展 主担当	
16 同展 フロアレクチャー 2回	
17 収蔵品展「新収蔵品展」 フロアレクチャー 1回	
18 『静岡県立美術館開館 20 周年記念国際シンポジウム オーギュスト・ロダン(1840-1917)—複合的視点でとらえる— 記録論集』編集	
小計	27本
3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
1 ジャポニスム学会学芸員勉強会代表幹事	
小計	1本
4. 収蔵作品に関する論文・発表等	
1 1-1に同じ	
小計	(1)本

合計 32本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 28 年 6 月 2 日

職・氏名 主任学芸員 浦澤倫太郎

- 専門分野 日本美術
- 所属学会 美術史学会
- 主要研究テーマ 近世絵画

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)
「海を越える富士山」(『富士山—信仰と芸術』)

小計 1 本

2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業

企画展『富士山—信仰と芸術』(副担当)
収蔵品展『妙法華寺の名宝』

小計 2 本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

小計 0 本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等

小計 0 本

合計 3 本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 28 年 5 月 4 日

職・氏名 上席学芸員 新田建史

- 専門分野 美学美術史
- 所属学会 地中海学会、保存修復学会
- 主要研究テーマ 西洋 16～18 世紀美術、東西美術交流史、東西版画史、文化財保存

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

小計 0 本

2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・「西洋の絵画一画材とともに 2」展担当
- ・「学芸員によるフロアレクチャー」10 月 10 日 (土)
- ・「写真家の眼/版画家の眼 6 つのアンソロジー」展副担当

小計 3 本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・「愛知県立芸術大学集中講義」9 月 24 日 (木)、25 日 (金)
- ・シンポジウム「伊豆市美術館建設に向けた市民フォーラム」パネラー 2 月 25 日 (木)
- ・「静岡県立美術館 ケース等の温湿度環境について」(日本建築学会熱環境運営委員会湿気小委員会、文化財の保存と活用のための環境制御 WG) 3 月 25 日 (金)
- ・「伊豆市美術館建設準備委員」

小計 4 本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等

小計 0 本

合計 10 本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 28 年 5 月 2 日	
職・氏名	上席学芸員・石上充代
●専門分野	近世近代の日本画
●所属学会	美術史学会、近世絵画研究会
●主要研究テーマ	日本近世近代絵画史
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
1 「描かれた富士山の諸相—信仰を意識しつつ」『富士山—信仰と芸術—』展図録 平成 27 年 9 月 2 「鈴木松年《神武天皇・素戔嗚尊図屏風》—主題と造形の特質について—」『静岡県立美術館紀要』第 31 号 平成 28 年 3 月	
小計 2 本	
2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業	
1 企画展『富士山—信仰と芸術—』主担当 2 同展 特別講演会 2 回 3 同展 フロアレクチャー 2 回 4 平成 28 年度企画展『美術館に行こう！』展準備 5 出張美術講座 1 回	
小計 5 本	
3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
1 三保松原学文化講座「富士山と三保松原の絵画史」平成 28 年 2 月 13 日 於・清水テルサ	
小計 1 本	
4. 収蔵作品に関する論文・発表等	
小計 本	
合計 8 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 28 年 4 月 25 日	
職・氏名	上席学芸員 川谷承子
●専門分野	現代美術
●所属学会	
●主要研究テーマ	戦後の日本美術
<p>1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学术论文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等) ・論文「長船恒利の『在るもの』と、1970年代の静岡、東京のアマチュア写真家の関わりについて」(『静岡県立美術館紀要』第31号、平成28年3月)</p> <p>・エッセイ「岡本光市 ジャンルを横断する個性」(『めぐりアート静岡 ちょっと、ざわざわ、しに行く。記録集』、平成27年3月)</p> <p style="text-align: right;">小計 2本</p>	
<p>2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業</p> <p>新収藏品展 収藏品展「白の表現力」 夏休み子どもワークショップ めぐるりアート静岡 「東西の絶景」展準備 現代ジャンル</p> <p style="text-align: right;">小計 5本</p>	
<p>3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動</p> <p>寄贈作品の受け入れ (3点) 石田徹也作品のベニスビエンナーレへの貸出 (3点) 草間彌生作品の北欧美術館への貸出 (1点)</p> <p style="text-align: right;">小計 3本</p>	
<p>4. 収藏品に関する論文・発表等</p> <p>・論文「石田徹也の今日性」(静岡県立美術館ニュース『アマリリス』No.118、平成27年4月)</p> <p style="text-align: right;">小計 1本</p>	
合計 11本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 28 年 5 月 2 日	
職・氏名	上席学芸員・村上敬
●専門分野	日本近代美術
●所属学会	美学会、美術史学会、文化資源学会、明治美術学会等
●主要研究テーマ	日本近代洋画史
<p>1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「少女表象をセクシュアリティから論じることの困難さについて——「美少女の美術史」余滴」(『静岡県立美術館ニュース アマリリス』120, 2015年7月) ・「シャルロット・ペリアンと商工省工芸指導所——戦中産業工芸をめぐるひとつのすれ違い」(『静岡県立美術館紀要』31, 2016年3月) <p style="text-align: right;">小計 2 本</p>	
<p>2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展「スイス・デザイン」展主担当 ・企画展「ウィーン美術史美術館」展副担当 <p style="text-align: right;">小計 2 本</p>	
<p>3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動</p> <p style="text-align: right;">小計 0 本</p>	
<p>4. 収蔵作品に関する論文・発表等</p> <p style="text-align: right;">小計 0 本</p>	
合計 5 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 28 年 4 月 1 日

職・氏名 上席学芸員 泰井良

- 専門分野 日本近代洋画、ロダン、美術館評価、ミュージアムマネジメント
- 所属学会 美術史学会、明治美術学会、日本ミュージアムマネジメント学会
- 主要研究テーマ 明治美術会から太平洋画会、明治から昭和期の美術

1. 今年一年間に執筆した主な論文

(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

- ・学会発表「美術館を対象とした鑑賞行動分析システムの構築」渡邊貴之、村松真帆、松永菜摘（静岡県立大学）、泰井良（静岡県立美術館）（観光情報学会 11/27）
- ・学会発表「美術館におけるスマートフォン館内ガイドシステムを用いた鑑賞行動分析」松永菜摘、村松真帆（静岡県大）、泰井良（静岡県立美術館）、渡邊貴之（静岡県大）（情報処理学会 3/11）
- ・学会討論「文化施設と法制度」（日本文化政策学会 3/5）

小計 3 本

2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・篠山紀信展 写真力(主担当)
- ・移動美術展「秋野不矩 創作の旅路 特別編 画家たちの世界旅行」展(主担当)
- ・移動美術展「焼津市出身の夭折画家 石田徹也の世界展」(主担当)
- ・篠山紀信展フロアレクチャー(4/19、5/10、6/7) 3回
- ・収蔵品展「大正時代の洋画家たち」展フロアレクチャー(11/15)
- ・収蔵品展「日本人の風景画」展フロアレクチャー(3/20)
- ・移動美術展フロアレクチャー(9/20)
- ・移動美術展フロアレクチャー(12/5)
- ・静岡大学比較言語文化各論 I 講師(ロダン館 大学生ギャラリートーク)

小計 11 本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・「静岡県立美術館の評価と地域連携の取組について」
【(一財)地域創造主催 高知県立美術館 (2/25)】
- ・一般財団法人地域創造公立美術館活性化事業企画検討委員
- ・全国美術館会議地域美術研究部会幹事
- ・三重県総合博物館(みえむ)評価部会副部会長
- ・鴨江アートセンター外部評価委員
- ・浜松市美術館美術資料審査会委員

小計 7 本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等

- ・学会発表「美術館を対象とした鑑賞行動分析システムの構築」渡邊貴之、村松真帆、松永菜摘（静岡県立大学）、泰井良（静岡県立美術館）（観光情報学会 11/27）
- ・学会発表「美術館におけるスマートフォン館内ガイドシステムを用いた鑑賞行動分析」松永菜摘、村松真帆（静岡県大）、泰井良（静岡県立美術館）、渡邊貴之（静岡県大）（情報処理学会 3/11）

(小計 2 本)

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 28 年 5 月 11 日	
職・氏名	上席学芸員 ・ 南 美幸
●専門分野	美学・美術史
●所属学会	美術史学会、日仏美術学会
●主要研究テーマ	西洋美術史、ロダン関連
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学术论文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
1 論文「写真家の眼／版画家の眼 6 つのアンソロジー展に寄せて」(写真家の眼／版画家の眼 6 つのアンソロジー) 展出品目録、平成 27 年 11 月)	
小計 1 本	
2. 今年 1 年間に携わった展覧会及び普及事業	
1 企画展「写真家の眼／版画家の眼 6 つのアンソロジー」	企画・実施
2 企画展「写真家の眼／版画家の眼 6 つのアンソロジー」	フロアレクチャー 2 回
3 企画展「写真家の眼／版画家の眼 6 つのアンソロジー」	音楽イベント 企画・実施
4 ロダン館タッチ・ツアー 4 件	
5 タッチ・ツアー 実施 2 件	
小計 5 本	
3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
1 美術雑誌『サイト・アート』3 号 インタビュー記事掲載	
小計 1 本	
4. 収蔵作品に関する論文・発表等	
小計 本	
合計 7 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 平成 28 年 5 月 5 日

職・氏名 主任学芸員・野田麻美

- 専門分野 日本近世絵画
- 所属学会 美術史学会
- 主要研究テーマ 狩野派を中心とする桃山末～江戸時代の絵画

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

「谷文晁『富士山図屏風』について一文晁晩年の实景表現とのかかわりを中心に」(『聚美』18号
平成28年1月)

小計 1 本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

移動美術展 (於浜松市秋野不矩美術館 平成27年9月12日(土)～10月4日(日))

移動美術展 (於焼津文化会館 平成27年12月5日(土)～12月12日(土))

小計 2 本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

小計 0 本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等

小計 0 本

合計 3 本

定性評価の状況（平成 27 年度）

【富士山-信仰と芸術-展】〈自主企画展〉

(金原委員)

- ・ 富士山を描いた絵画を軸に、彫刻・工芸を加え、信仰の側面からも富士山を考え、見てみようという好企画である。山梨県立博物館の協力を得て、巡回展としているところも評価できる。

(榊原委員)

- ・ そもそも静岡県立美術館と山梨県立博物館との共同企画として構想したことこそがこの展覧会を充実した内容にさせた。その意味でこの二つの館をコラボさせた企画者の着想を称えたい。図録も二館の学芸員の共同作業の成果として見るべきだろう。

【写真家の眼/版画家の眼 6つのアンソロジー 展】〈自主企画展〉

(潮江委員)

- ・ 連作形式のコレクションを活用するために考案された創意工夫が感じられる展覧会になっている。今後とも、コレクションを活用した、このような斬新な試みを続けて欲しい。

(山梨委員)

- ・ 本展は収蔵品と寄託品で構成するという前提の中で、企画者が「場所」と「物語」および美術史上の運動をめぐる6つのキーワードを紡ぎ出し、それらに対応する作品を作品相互に鑑賞の視点が輻輳化されるように選んだ企画となっていた。企画者本人の調査研究やこれまで担当した展覧会の経験だけでなく、美術館総体として蓄積してきた調査や展覧会を含む知的財産が活かされていた点も評価したい。

【ウィーン美術史美術館展-風景画の誕生-】〈自主企画展〉

(坂本委員)

- ・ 風景画を基準にして風景表現史を考えると、この風景画展は少し違う。これは17世紀の風景に私の場合馴染みすぎていたからで、15・16世紀の風景表現とはこういうものだったことを思い出すよい機会だと思った。

(潮江委員)

- ・ ハプスブルク家ゆかりのウィーン美術史美術館という全欧的、つまり南方も北方もともに充実した収集作品を誇る美術館のコレクションをもとにして、西欧における風景画の誕生を生き生きとした形で語っており、充実した展観となっている。

(西洋)

ボン（ドイツ連邦共和国）のブンデス・クンスト・ハレで開催された「日本の印象派愛好（Japan's Love for Impressionism）」展に、ポール・ゴーギャン作《家畜番の少女》（1889年）を貸し出した。同展は、日本国内の国公立美術館や個人コレクターを中心とした約30件の借用先より約130点の作品を借り受けて展示し、近代から現代までの日本人によるフランス近代美術収集の様相や、それが近代日本の洋画にもたらした影響などを検証した展覧会。この分野の所蔵品に優れた美術館の名品が一堂に会した同展への貸出により、当館西洋分野のコレクションの質の高さを示すことができた。また会場では、当館作品はひろしま美術館のゴーギャン作品と隣り合って展示されたが、これにより当館作品におけるゴーギャンの総合主義時代の特質がより際立つかたちで紹介されていた。

(日本画)

「富士山—信仰と芸術—」（静岡県立美術館・山梨県立博物館）に23件（所蔵品12件、寄託品11件）を出品。絵画ジャンルの主要な部分を占め、富士山の絵画に関する当館所蔵品の充実を改めて示す機会となった。「久隅守景」（サントリー美術館4件）、「若冲と蕪村」（サントリー美術館・MIHO MUSEUM 2件）、「橋本雅邦と幻の四天王」（松本市美術館2件）などに各作家の重要作として所蔵品・寄託品を出品した。「画家たちと戦争」（名古屋市美術館1件）、「唐絵もん」（千葉市美術館・大阪歴史博物館1件）といったテーマ展にも出品、各展独自の内容を充実させるのに貢献した。

(現代)

現代ジャンルでは、海外への貸出、公開が2件あった。

まず、イタリアで開催された、第56回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際企画展に、石田徹也の《めばえ》《兵士》、《くらげの夢》の3点を出品した。オクウィ・エンヴェゾーがキュレーションを務めた、第56回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展「All the World's Futures（全世界の未来）」には、53カ国136組の、アーティストが選出され、日本からは、石田徹也1人が選ばれた。展覧会には、世界中から約50万人の来場者があり、石田徹也の名を世界に向けて広め、国際的評価を高める契機の一つとなった。

もう1件は、平成27年夏に始まった草間彌生の北欧巡回展「Yayoi Kusama」への出品である。開催館からの熱心な借用依頼を受け、草間彌生の《無題》を、デンマークのレイジアナ美術館と、ノルウェーのヘニー・オンスタッド・アートセンターの2会場に貸し出した。同ツアーは、北欧では初めての、草間の本格的な回顧展であったが、1会場目のレイジアナ美術館では、約5カ月の会期中に、1958年に同美術館が開館して以来3番目に多い、約34万人の来場者があり、専門家やメディアからも高い評価を受けたとの報告を受けている。比較的新しい作品に加えて、初期の重要な1点となる、当館所蔵作品を出品したことにより、展覧会の幅に深みを出すことに寄与し、草間彌生の世界規模の再評価に、貢献することができた。

(日本洋画)

平成27年度の日本洋画の公開・貸出については、学芸員の研究成果を活かした回顧展への貸出が顕著となった。

「没後 100 年 五姓田義松」展(神奈川県立博物館)には、《富士》、《浜離宮》が出品された。本展は、これまで知られていなかった文献資料や初公開作品を含めた約 800 点の作品や関連資料によって、五姓田義松の画業を検証するものである。とりわけ《浜離宮》については、これまで主題となった場所が浜離宮と伝えられていたが、本展の研究成果によって、描かれた場所が京都御所内の御常御殿であることが分かった。

新潟市美術館の開館 30 周年を記念した「川村清雄展 古今東西 混ざりあい」展(新潟市美術館)には、《波》、《風景》、《静物写生》が出品された。本展は、新出作品や新潟ゆかりの作品や関連資料などによって、川村清雄の画業を歴史的に検証するものである。とりわけ《波》の主題について、文献資料の精査によって、主題が「君が代は千代に八千代にさざれ石の巖となりて」であることが分かったことは意義深い。

① 研究紀要 村上敬「シャルロット・ペリアンと商工省工芸指導所—戦中産業工芸をめぐる一つのすれ違い」

(坂本委員)

- ・ 1940年という15年戦争末期という時代、戦後分の3世紀もの間、全く忘れてきた戦時下の社会状況が解らなくなってしまうが、「非常時」とか「代用品」とか、久しぶりにそういう言葉に接した。そういう中で、ドイツ、イタリアでもないヨーロッパ人が、それも「女性」がデザイン指導ということで、それだけでも不思議な事実という感心もする。興味深い、素材（竹）の用法とかの他にも、異国女性とのやり取りなど、すれ違いを含めて、もう少し知りたいと思った。

(山梨委員)

- ・ シャルロット・ペリアンが1940年に商工省の招聘によって来日後、同省工芸指導所において行った提案が、ほとんど受容されなかったことを指摘し、その背景について考察した本稿は、ペリアンのしごとと日本の関係についての新たな一面を明らかにしている。戦時色を強めていく時代とその社会を背景に、人々の暮らしに近い位置にある工芸の分野で起こったことが具体的に述べられていて、造形と社会の関係や異文化受容の一例として興味深い。造形に結びついている時代的、社会的背景については、さらに調査を進めることにより、新知見が得られると期待される。

② 研究紀要 川谷承子「長船恒利の『在るもの』と、1970年代の静岡、東京のアマチュア写真家の関わりについて」

(潮江委員)

- ・ 最初の長船恒利研究として、内容の充実した、しかも隅々まで眼の行き届いた論考である。今後の広がりや充実が期待できるものになっている。

(山梨委員)

- ・ 本稿でも指摘があるように、1990年代以降、特にインターネットの普及によって写真やデジタル媒体の画像がふんだんに人の目に触れるようになった。それらを視野に入れずに視覚芸術の展開を跡づけることは、もはや非常に困難となっている。風景画を調査研究や展示の主要な柱としてきた静岡県立美術館が写真へと収集や調査研究の対象を広げていることは心強い。また、美術館の所在する静岡という場所を拠点に展開した視覚芸術、造形活動に注目した調査研究は、中心と周縁という関係を枠組みとしたとらえ方に疑問が呈されて、各地域の視覚芸術活動が再評価されている中であって、国内外の他の地域に対しても示唆的なものとなっている。

③ 研究紀要 石上充代「鈴木松年《神武天皇・素戔鳴尊図屏風》—主題と造形の特徴について—」

(金原委員)

- ・ 京都画壇が新しい方向に進んでいくことを闡明した、そんな時代状況のなかで生まれたのがこの名作とあってよい六曲一双《神武天皇・素戔鳴尊図屏風》であった。そのことを適格にまとめている。

(榊原委員)

- ・ 3でも述べたように、松年のこの作の直後に洋画でも同趣の歴史画が描かれている。描写のリアリティーと云う点でははるかにまさるそれらの作品に対しても、石上論文がこの屏風で指摘した「ジオラマ的情景」との定義が援用できるのから、それらへの目配り、言及があってもよかったと思うし、その当りを今後の課題ともできるのではなか。そこにも問題を絞れば、日本画・洋画の区分を超えた大きな課題にもなるだろう。

いずれにせよ、「ジオラマ的」との評語には納得。

- ・ 「美術館教室」事業の中で、「粘土教室」「絵の具教室」「粘土貸出」など、幼稚園や小学校低学年を対象とした図画工作科の授業対応・授業サポートの内容が人気で、教育普及事業の中でも利用数が一番多いものとなっている。
- ・ 今まで「粘土教室」「絵の具教室」の参加校は、教室が終わると展示室に足を運ぶことがないまま退館をする学校が多かった。参加者が幼稚園児や小学校低学年で「展示室で何かしてしまったら」「さらに作品観覧は時間的にも体力的にも難しい」という参加校職員の声があった。そんな中でも、美術館での鑑賞体験に少しでも触れてもらえるように、「ボランティアとの鑑賞」プログラムを紹介したり、ロダン館を通り抜けて退館する小企画を提案したりしていく中で、「粘土教室」「絵の具教室」と観覧をセットで考える参加校は増加傾向にある。また、観覧を実施した学校からも「やってよかった」という声を多くいただいた。
- ・ 一般向けプログラムでは、企画展・収蔵品展に関わりのある内容という基本方針のもと、静岡在住または静岡ゆかりの現役アーティストを講師に招き、日本画などの伝統的な技法から現代アートまで幅広く、様々な内容のワークショップを行った。企画展とからめた内容のワークショップでは、展示室で担当学芸員から作品解説を聞き、さらにアーティスト側の視点からの作品論も実物を目の前にして聞くことができ、実技を行うことでより鑑賞が深まるといった美術館がワークショップを行う意味のある内容で行うことができた。
- ・ 県立美術館の教育普及事業を利用したことのある方は、一般の参加者も保育園や学校の教員も継続的に参加・利用をしてもらっているが、美術館が教育普及事業を行っていることを知らない・利用を考えていない層もまだまだ多い。静岡大学の「図画工作科教育法」への出張授業を定例化させてもらったり、県内各地区の図工美術科教員研修において教育普及事業を紹介するなどして、継続定期的に広報を行っている。

地域等の連携をさらに深め、地域をパートナーと考える経営を推進した。

地域・大学・企業等

- (1) 「篠山紀信展」では日本平動物園と共通割引チケットを販売し、動物園のビジターセンターにて紀信展のミニパネルを展示。また、日本平ホテルのグループ会社内で、セット券を販売。
- (2) 「有度山フレンドシップ協定」参加施設（県立美術館、SPAC、日本平ホテル、日本平動物園、久能山東照宮）と静岡市立芹沢銈介美術館、静岡市立登呂博物館、静岡鉄道株式会社鉄道部日本平ロープウェイ営業所が連携した地域一体型広報の推進。
 - ・「ふじのくにしずおか観光大商談会 IN 東京」(6/3)、「ふじのくにしずおか観光大商談会 IN 名古屋」(9/15) 及び「ふじのくにしずおか観光大商談会 I N大阪」(2/3) への協働参加、PR、誘客促進。
 - ・各施設を遊覧する観光ルートを提案する「観光マップ」の製作を検討中。
- (3) 草薙商店会等との協働
 - ・特定の組織や団体にとらわれることなく、産・学・官・民が連携して地域の活性化を目指し、地元有志等との定期的な連絡会（朝活）に参加。毎週水曜日午前7時から開催。
 - ・草薙商店会主催の「つながるくさなぎ」冬フェス（12月）では美術館ブースを設け、「ウィーン美術史美術館」展の広報と合わせ、銅版画の実技体験を実施し、約200人が参加。（冬フェス全体では22ブースが出店。約5,000人が来場。）※夏フェスは雨天中止。
 - ・「第2回ロダンウィーク」では、草薙マルシェ実行委員会によるグルメ&雑貨市&パフォーマンス「丘の上のロダンマルシェ」、美術館友の会による、にがお絵製作・販売、地域の若手アーティストの作品展示・販売（アートプラット）を開催。
- (4) 静岡県立大学との共同研究
 - ・静岡県立大学経営情報学部渡邊研究室と当館との共同研究により、スマートフォン用ロダン館ガイドアプリを開発中。平成28年度、県立美術館30周年での本格稼働を目指す。平成27年度中にロダン館内にWiFiのフリースポットを設置し、来館者がアプリをスマートフォンにダウンロードできる環境を整備する。
 - ・今後は、多言語化対応（英語、中国語、韓国語）も進める予定である。
- (5) 静岡大学との連携による事業の開催
 - ・ギャラリートーク
前期授業単位に認定した「大学生によるロダン館ギャラリートーク」の開催。
 - ・めぐりアート静岡
静岡にゆかりがある8人の作家の展覧会を静岡大学と共催で、当館と市内7ヶ所のギャラリー等を会場に、マップを見ながら市内をめぐり鑑賞する「めぐりアート静岡」を開催した。
 - ・「第2回ロダンウィーク」で静岡大学生他による「ギャラリートーク」、「ピアノコンサート」、「ダンス公演」を開催した。
- (6) 商工会議所との連携
 - ・「富士山ー信仰と芸術ー」展において県商工会議所連合会、静岡市商工会議所と連携し、各会員に企画展のPR及びチケットの購入斡旋を依頼し、2,000名を超える実績があった。

(7) 企業との連携

- ・県民ギャラリーにて静岡新聞社が開催した「空海展」と協働し、「富士山ー信仰と芸術」展と相互のチケット（半券）提示による観覧料割引サービスを行った。
- ・「篠山紀信展」では、静岡鉄道と共通割引チケットを販売。また、静鉄バスフロントマスクに企画展広告を実施した。
- ・新静岡セノバの協力により、セノバを会場に「篠山紀信展」大型タペストリーとミニパネルの展示、当館観覧半券提示で飲食割引キャンペーンを実施した。

ムセイオン静岡

谷田地域の文化教育 6 機関（県立大学、美術館、中央図書館、埋蔵文化財センター、SPAC、グランシップ）が連携して情報を発信するイベントを実施。

(1) ムセイオン静岡・グランシップ 連続講座「静岡×徳川時代」（全 8 回）の開催。

- ・1月16日「徳川日本の美術と博物趣味」（講師：館長 芳賀徹）

(2) ムセイオン静岡協働イベント「文化の丘フェスタ」の実施。

- ・期間：10月24日～11月8日
- ・全機関によるイベント：ムセイオン静岡の機関を巡るスタンプラリー（参加者 242 人）
- ・スタンプラリーに合わせ各機関でイベントを開催。

県立美術館「第 2 回ロダンウィーク」、県立大学大学祭「剣祭」、県立中央図書館「大人のたしなみセミナー」、SPAC「中高生舞台芸術鑑賞事業」、「秋公演『室内』」、県埋蔵物文化財センター「考古学セミナー」、グランシップ「連続講座 静岡と山田長政がつなぐ書物」等。

昨年度に引き続き、様々な広報手段を活用し、県内外への広報を推進した。
さらに、地域の文化施設や商工会議所等との協働による具体的な広報を推進した。

広報活動

- ①ホームページ
- ②展覧会等イベント情報のマスコミへの資料提供
- ③ポスター、チラシの配布、駅貼り、車内吊り
- ④県広報課との連携（県民だより、県政番組、ラジオ番組出演）
- ⑤広報サポーターへの情報提供
- ⑥展覧会共催者（新聞社・テレビ局）、協賛者（清水銀行等）との連携
- ⑦美術館ニュース「アマリリス」の発行
- ⑧県立美術館 Facebook から情報を発信し、口コミ機能を利用した広報を行うほか、大学生と連携した SNS 広報を展開
- ⑨Google Art のサイト上で、当館のコレクション画像 51 件及びロダン館ストリートビューを展示し PR

新たな広報

- ① グランシップ、SPAC、県立美術館、文化政策課で、「県有施設による文化振興推進会議」を発足し、広報に関する相互協力、3館を巡る文化ツアー企画、貸館相互協力等について作業部会を開催した。広報相互協力、各施設パンフレットを各館に配架する相互協力を実施した。なお、3館文化ツアーは、企画を旅行会社に提案したものの、商品化には至らなかった。
- ② グランシップの協力を得て、会報「GRANSHIP」への広告掲載、グランシップ友の会、県立美術館友の会会員への郵送物へのチラシ同封を企画展ごとに実施。
- ③ 「篠山紀信展」では、静岡鉄道・新静岡セノバの協力を得て、大型タペストリー等の展示、観覧券半券提示による飲食割引キャンペーン、篠山紀信トークショー・サイン会、鉄道との共通割引チケットの販売などを実施し、大きな広報効果があった。
- ④ 「篠山紀信展」では、共催の静岡第一テレビと協力し、割引券付チラシを新聞折込みで配布し、約 1,800 枚使用された。費用対効果をみながら今後の広報として検討する。
- ⑤ 「スイスデザイン」展では、デザインや国際文化に興味関心があると思われる学部の学生を対象に、大学の講義の中で企画の説明、チラシを配布するなどして PR を行った。
また、出展ブランドを取り扱う店舗において、観覧券半券提示でポストカードなどグッズをプレゼントするなどのキャンペーンを実施した。
- ⑥ 「ウィーン美術史美術館展」では、映画「黄金のアデーレ 名画の帰還」を上映した静岡シネギャラリーと協働し映画鑑賞後のアフタートーク、映画チケット半券で割引観覧券販売を行った。
また、協賛のウィーン在日代表部から提供を受けた、ウィーン市観光局ノベルティグッズを、1月2日の正月開館日に来館にプレゼントした。チラシ等で事前広報したため好評であった。
- ⑦ 「ウィーンからクリスマスプレゼント」と銘打ち 12月24日、25日の2日間、「キンダー・プ

ンシュ」というホットドリンクを先着 100 名に無料サービスした。26 年度は 1 月 2 日の正月開館日に「おしるこ」をサービスし、冬場のホットドリンク提供は好評を得た。

今後もドリンク提供の継続を検討する。

静岡県立美術館評価業務
報告書

平成 28 年 3 月
静岡県立美術館

平成 27 年度静岡県立美術館評価業務報告書

目 次

1	調査概要	1
	（1） 調査目的	1
	（2） 実施概要	1
	（3） 報告書内のデータ記述について	1
2	調査結果概要	2
	（1） 結果概要	2
	（2） 提言	2
3	美術館評価指標の現状値	3
4	展覧会アンケート結果	4
	（1） 回収状況	4
	（2） 観覧者の属性	6
	（3） 観覧者の行動	12
	（4） 展覧会の評価	24
5	レストランアンケート結果	44
	（1） 実施数（回答数）	44
	（2） アンケート結果	44
6	カフェアンケート結果	50
	（1） 実施数（回答数）	50
	（2） アンケート結果	50
7	ミュージアム・ショップアンケート結果	56
	（1） 実施数（回答数）	56
	（2） アンケート結果	56
8	美術館ホームページアンケート結果	60
	（1） 実施数（回答数）	60
	（2） アンケート結果	60
9	自由意見	64
	（1） 生活において「美術館」の存在・位置付け	64
	（2） 展覧会または当美術館についてのご指摘やご意見	70

1 調査概要

(1) 調査目的

静岡県立美術館では、評価委員会提言「評価と経営の確立に向けて」（平成17年3月）を踏まえ、館長公約を柱とする自己評価システムの体系を構築している。

今般、館の全体像を把握する評価指標を整理するためアンケートを実施した。

(2) 実施概要

	スイスデザイン展		富士山 －信仰と芸術－		写真家の眼／ 版画家の眼	
会 期	平成27年7月11日 ～8月23日		平成27年9月5日 ～10月12日		平成27年11月8日 ～12月9日	
開催日数	38日		33日		27日	
観覧者数	15,337人		13,404人		4,126人	
1日あたり平均観覧者数	403.6人／日		406.2人／日		152.8人／日	
アンケート実施日	7/12(日)	102件	9/6(日)	101件	11/8(日)	63件
	7/14(火)	60件	9/9(水)	22件	11/12(木)	18件
	7/31(金)	54件	9/19(土)	93件	11/20(金)	23件
	8/2(日)	146件	9/25(金)	41件	11/22(日)	83件
	8/20(木)	77件	10/4(日)	85件	12/1(火)	20件
	8/22(土)	162件	10/7(水)	62件	12/5(土)	83件
アンケート実施数	601件		404件		290件	
アンケート実施数（回収率） ※観覧者数に占める実施の割合	3.92%		3.01%		7.03%	

(3) 報告書内のデータ記述について

- ・比率はすべて百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出した。そのために、比率の合計が100%にならないことがある。
- ・基数とすべき実数は、表中に「件数」として記載した。比率はこの基数を100%として算出している。
- ・質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常100%を超える場合がある。

2 調査結果概要

(1) 結果概要

	スイスデザイン展		富士山 —信仰と芸術—		写真家の眼/ 版画家の眼
①展覧会満足度（展覧会別）	92.9%		90.7%		84.3%
	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
②展覧会満足度（経年）	90.8%	93.3%	90.9%	94.2%	90.3%
③レストラン満足度	71.3%	82.2%	78.8%	73.1%	65.7%
④ミュージアム・ショップ満足度	86.8%	82.8%	86.1%	87.2%	92.1%
⑤ホームページ満足度	71.7%	71.6%	73.9%	72.5%	70.7%

(2) 提言

満足度と評価の相関係数

問	B (1)	B (2)	B (3)	B (4)	B (5)	B (6)
評 価	作品やテーマについての興味・関心	展覧会会場の心地よさ	美術館のスタッフの対応	展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいか	当美術館に関する情報入手のしやすさ	交通機関の利用のスムーズさ
スイスデザイン展	0.578	0.474	0.463	0.507	0.350	0.279
富士山—信仰と芸術—	0.580	0.460	0.406	0.450	0.353	0.245
写真家の眼/ 版画家の眼	0.530	0.552	0.444	0.484	0.228	0.356
全 体	0.578	0.492	0.437	0.493	0.315	0.281

※算出方法：展覧会の評価【B (1)～(7)】の5段階評価を1点～5点に置き換えて相関係数を算出した。ただし無回答については「どちらともいえない(3点)」と換算した。

※相関係数：-1～1をとる係数で、0に近いほど相関は薄い。1に近づくほど正の相関が、-1に近づくほど負の相関がある。(0.0～±0.2…ほとんど相関がない/±0.2～±0.4…やや相関がある/±0.4～±0.7…相関がある/±0.7～±0.9…強い相関がある/±0.9～±1.0…極めて強い相関がある)

相関係数をみると、評価が高いほど満足度も高い傾向にある項目は、下表のとおり。

スイスデザイン展	1位	B (1) 作品やテーマについての興味・関心	[0.578]
	2位	B (4) 展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいか	[0.507]
	3位	B (2) 展覧会会場の心地よさ	[0.474]
富士山—信仰と芸術—	1位	B (1) 作品やテーマについての興味・関心	[0.580]
	2位	B (2) 展覧会会場の心地よさ	[0.460]
	3位	B (4) 展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいか	[0.450]
写真家の眼/ 版画家の眼	1位	B (2) 展覧会会場の心地よさ	[0.552]
	2位	B (1) 作品やテーマについての興味・関心	[0.530]
	3位	B (4) 展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいか	[0.484]
全 体	1位	B (1) 作品やテーマについての興味・関心	[0.578]
	2位	B (4) 展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいか	[0.493]
	3位	B (2) 展覧会会場の心地よさ	[0.492]

3 美術館評価指標の現状値

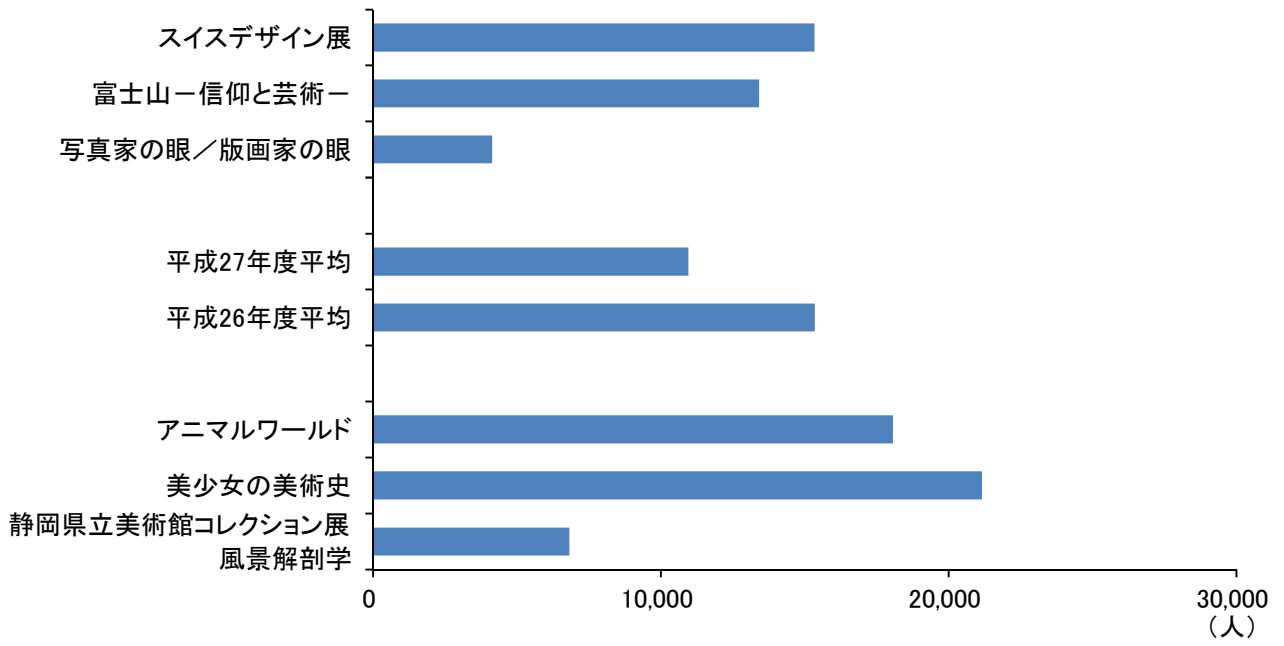
			H26 実績	H27 実績	展覧会			
					A*	B*	C*	
A	2	展覧会リピート率	71.3%	80.2%	77.2%	83.4%	81.7%	
	3	展覧会満足度	94.2%	90.3%	92.9%	90.7%	84.3%	
	8	鑑賞環境満足度	92.8%	90.8%	91.8%	91.5%	87.9%	
B	23	風景美術館認知度	64.6%	70.2%	66.4%	73.5%	73.4%	
C	25	情報が「入手しやすい」	73.0%	70.6%	68.4%	74.5%	70.0%	
	26	公共交通機関アクセス満足度	74.6%	76.0%	75.7%	76.8%	75.5%	
	27	自家用車アクセス満足度	84.2%	78.3%	76.8%	76.9%	83.6%	
	29	スタッフ対応満足度	85.5%	84.3%	84.9%	85.2%	82.0%	
	34	レストラン満足度	73.1%	65.7%				
	36	ミュージアム・ショップ満足度	87.2%	92.1%				
D	46	ホームページ満足度	72.5%	70.7%				
	51	展覧会での新規観覧者の割合	28.7%	19.8%	22.8%	16.6%	18.3%	
	52	展覧会での新規観覧者満足度	96.1%	95.3%	95.6%	95.5%	94.2%	
	53	地域別利用者割合	東部	16.0%	17.2%	14.9%	20.5%	16.9%
			中部	52.7%	57.8%	58.9%	55.9%	58.2%
			西部	13.6%	14.7%	16.5%	12.9%	13.8%
			県外	17.6%	10.3%	9.7%	10.6%	11.0%
54	2・3世代観覧割合	35.2%	32.4%	40.1%	22.9%	27.2%		

※) 展覧会 A・・・スイスデザイン展
 展覧会 B・・・富士山－信仰と芸術－
 展覧会 C・・・写真家の眼／版画家の眼

4 展覧会アンケート結果

(1) 回収状況

		観覧者数 (人)	回収数 (件)	回収率 (%)
平成 27 年度	スイスデザイン展	15,337	601	3.9
	富士山ー信仰と芸術ー	13,404	404	3.0
	写真家の眼／版画家の眼	4,126	290	7.0
経 年	平成 27 年度平均	10,956	432	3.9
	平成 26 年度平均	15,343	480	3.1
平成 26 年度	アニマルワールド	18,065	601	3.3
	美少女の美術史	21,147	508	2.4
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	6,817	331	4.9



(2) 観覧者の属性

① 性別

全体

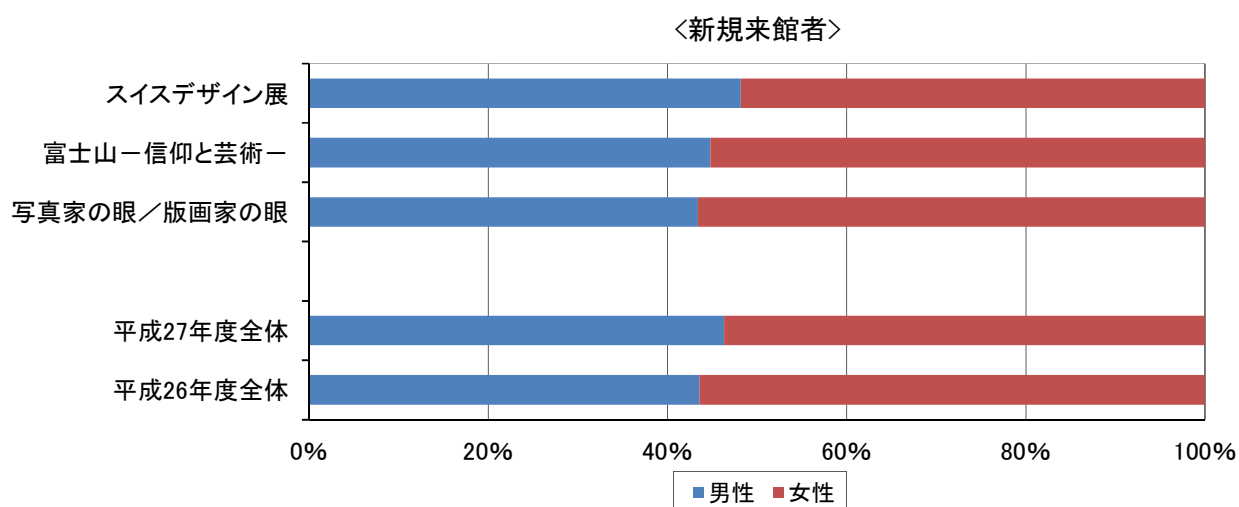
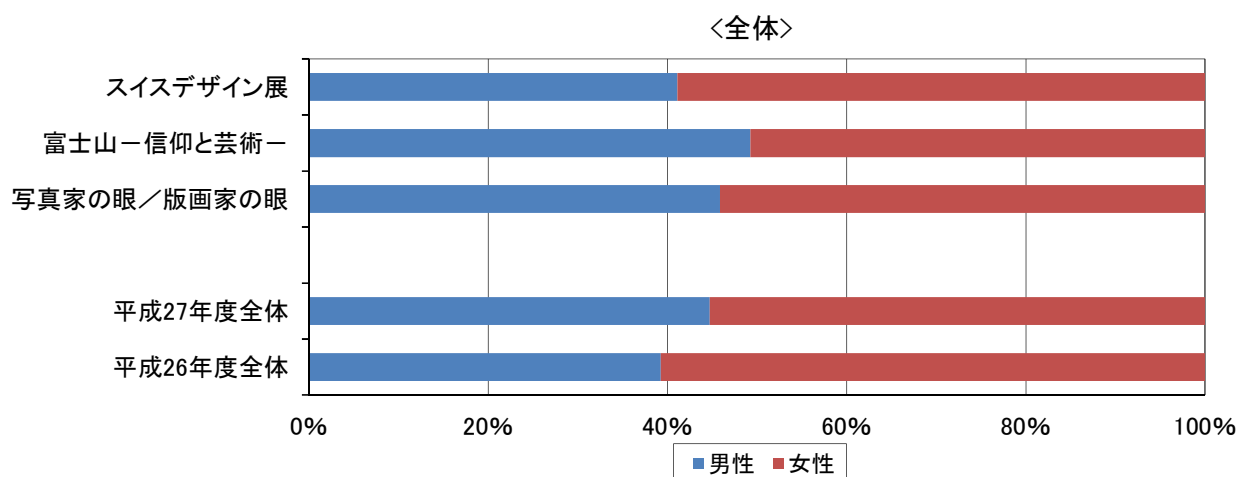
		件数 (件)	男性	女性
平成 27 年度	スイスデザイン展	601	41.1	58.9
	富士山－信仰と芸術－	404	49.3	50.7
	写真家の眼／版画家の眼	290	45.9	54.1
経 年	平成 27 年度全体		44.7	55.3
	平成 26 年度全体		39.2	60.8
平成 26 年度	アニマルワールド	601	36.6	63.4
	美少女の美術史	508	36.0	64.0
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	331	48.9	51.1

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	男性	女性
平成 27 年度	スイスデザイン展	137	48.2	51.8
	富士山－信仰と芸術－	67	44.8	55.2
	写真家の眼／版画家の眼	53	43.4	56.6
経 年	平成 27 年度全体		46.3	53.7
	平成 26 年度全体		43.6	56.4
平成 26 年度	アニマルワールド	178	40.4	59.6
	美少女の美術史	154	44.2	55.8
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	79	49.4	50.6

単位：%



性別について〈全体〉は、平成 27 年度全体は、「男性」が 44.7%、「女性」が 55.3%と、平成 26 年度全体より「男性」が 5.5 ポイント高くなり、「女性」が 5.5 ポイント低くなっている。3つの展覧会の中で「女性」が最も高いのは、『スイスデザイン展』58.9%、次いで『写真家の眼／版画家の眼』54.1%となっている。「男性」が最も高いのは、『富士山ー信仰と芸術ー』49.3%となっている。

〈新規来館者〉は、平成 27 年度全体は、「男性」が 46.3%、「女性」が 53.7%と、平成 26 年度全体より「男性」が 2.7 ポイント高くなっている。3つの展覧会の中で「男性」が最も高いのは、『スイスデザイン展』48.2%、「女性」が最も高いのは、『写真家の眼／版画家の眼』56.6%となっている。

② 年齢層

全体

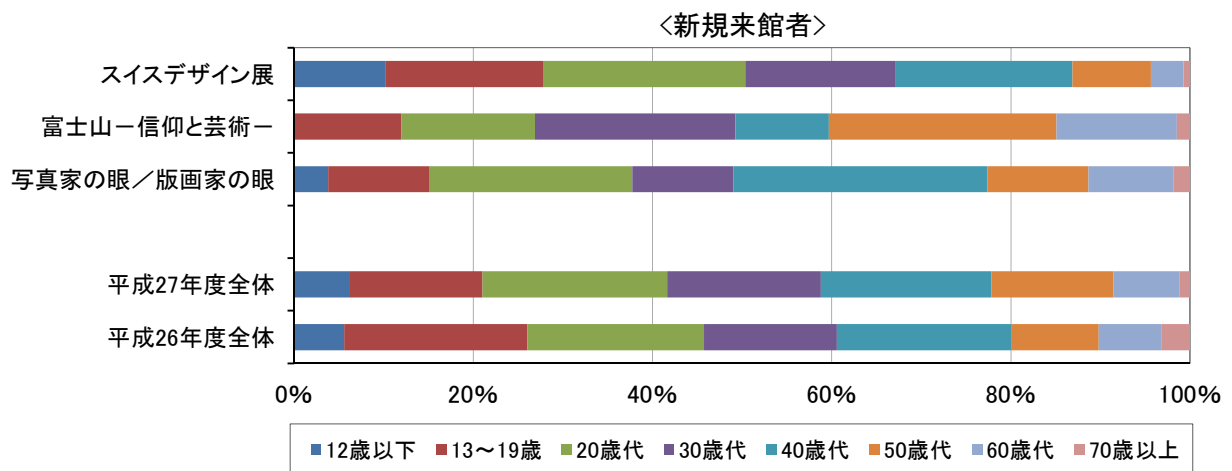
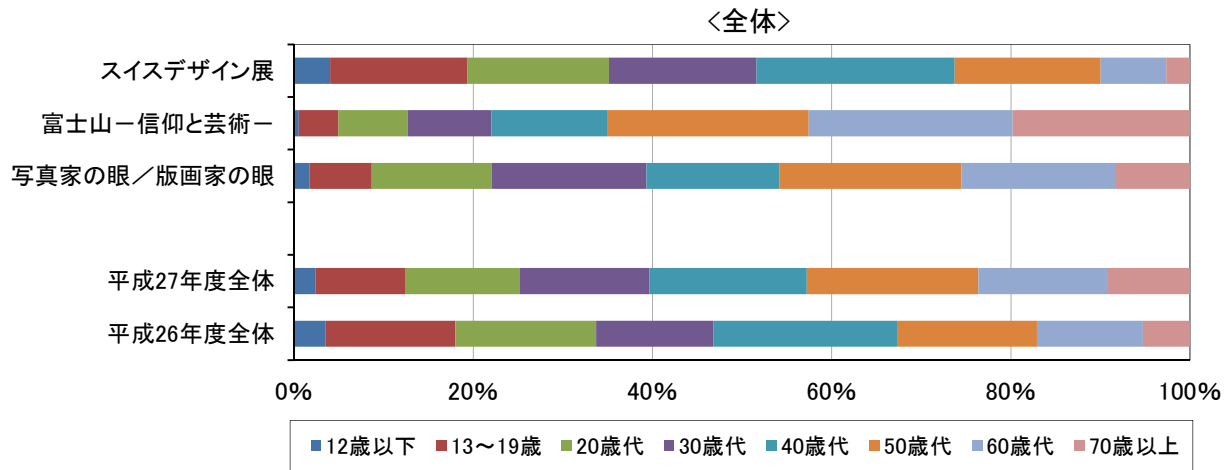
		件数 (件)	12 歳 以下	13 ～ 19 歳	20 歳 代	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以上
平成 27 年度	スイスデザイン展	601	4.0	15.3	15.8	16.5	22.1	16.3	7.3	2.7
	富士山－信仰と芸術－	404	0.5	4.5	7.7	9.4	12.9	22.5	22.8	19.8
	写真家の眼／版画家の眼	290	1.7	6.9	13.4	17.2	14.8	20.3	17.2	8.3
経 年	平成 27 年度全体		2.4	10.0	12.7	14.4	17.6	19.2	14.4	9.3
	平成 26 年度全体		3.5	14.5	15.7	13.1	20.5	15.6	11.8	5.3
平成 26 年度	アニマルワールド	601	4.2	8.8	8.7	15.5	25.1	17.3	15.5	5.0
	美少女の美術史	508	3.9	21.5	24.6	13.2	18.9	9.6	5.3	3.0
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	331	1.5	14.2	14.8	8.8	14.5	21.8	15.1	9.4

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	12 歳 以下	13 ～ 19 歳	20 歳 代	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以上
平成 27 年度	スイスデザイン展	137	10.2	17.5	22.6	16.8	19.7	8.8	3.6	0.7
	富士山－信仰と芸術－	67	0.0	11.9	14.9	22.4	10.4	25.4	13.4	1.5
	写真家の眼／版画家の眼	53	3.8	11.3	22.6	11.3	28.3	11.3	9.4	1.9
経 年	平成 27 年度全体		6.2	14.8	20.6	17.1	19.1	13.6	7.4	1.2
	平成 26 年度全体		5.6	20.4	19.7	14.8	19.5	9.7	7.1	3.2
平成 26 年度	アニマルワールド	178	6.7	13.5	7.9	18.0	24.2	14.0	11.2	4.5
	美少女の美術史	154	7.1	24.7	28.6	13.0	17.5	4.5	2.6	1.9
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	79	0.0	27.8	29.1	11.4	12.7	10.1	6.3	2.5

単位：%



年齢層について〈全体〉は、平成27年度で多い年代は「50歳代」19.2%、「40歳代」17.6%、「30歳代」「60歳代」14.4%の順となっている。『スイスデザイン展』は他の展覧会と比べて「40歳代」22.1%、「13～19歳」15.3%と多く、また『富士山ー信仰と芸術ー』は「70歳以上」19.8%と多くなっている。

〈新規来館者〉は、平成27年度で多い年代は「20歳代」20.6%、「40歳代」19.1%、「30歳代」17.1%の順となっている。展覧会別でみると、特に『富士山ー信仰と芸術ー』では「50歳代」25.4%が多く、『写真家の眼／版画家の眼』では「40歳代」28.3%と新規来館者が多くなっている。

③ 居住地

全体

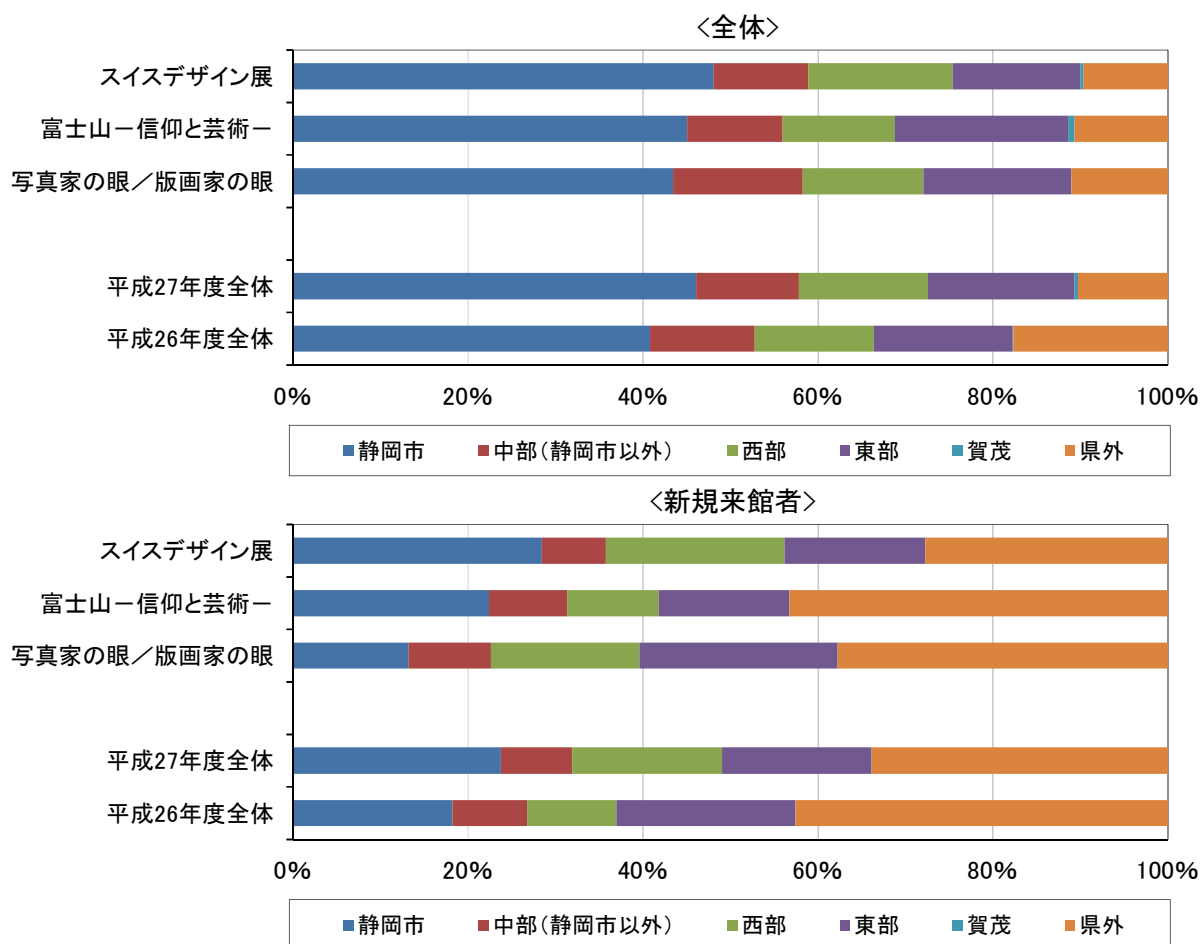
		件数 (件)	静岡市	中部 (静岡 市以外)	西部	東部	賀茂	県外
平成 27 年度	スイスデザイン展	601	48.1	10.8	16.5	14.6	0.3	9.7
	富士山－信仰と芸術－	404	45.0	10.9	12.9	19.8	0.7	10.6
	写真家の眼／版画家の眼	290	43.4	14.8	13.8	16.9	0.0	11.0
経 年	平成 27 年度全体		46.1	11.7	14.7	16.8	0.4	10.3
	平成 26 年度全体		40.8	11.9	13.6	15.9	0.1	17.6
平成 26 年度	アニマルワールド	601	37.4	9.2	15.5	14.8	0.0	23.1
	美少女の美術史	508	37.6	17.1	12.0	16.5	0.2	16.5
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	331	52.0	9.1	12.7	16.9	0.0	9.4

単位：％

新規来館者

		件数 (件)	静岡市	中部 (静岡 市以外)	西部	東部	賀茂	県外
平成 27 年度	スイスデザイン展	137	28.5	7.3	20.4	16.1	0.0	27.7
	富士山－信仰と芸術－	67	22.4	9.0	10.4	14.9	0.0	43.3
	写真家の眼／版画家の眼	53	13.2	9.4	17.0	22.6	0.0	37.7
経 年	平成 27 年度全体		23.7	8.2	17.1	17.1	0.0	33.9
	平成 26 年度全体		18.2	8.5	10.2	20.4	0.0	42.6
平成 26 年度	アニマルワールド	178	11.8	3.9	13.5	14.6	0.0	56.2
	美少女の美術史	154	20.1	16.2	6.5	25.3	0.0	31.8
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	79	29.1	3.8	10.1	24.1	0.0	32.9

単位：％



居住地について〈全体〉は、「静岡市」が46.1%と最も高く、「東部」16.8%、「西部」14.7%の順となっている。どの展覧会でも「静岡市」と「中部（静岡市以外）」を合わせた「中部」が半数を超えている。『富士山－信仰と芸術－』では「東部」19.8%となっている。

〈新規来館者〉は、〈全体〉に比べて「県外」来館者が多い傾向にあり、『富士山－信仰と芸術－』43.3%となっている。「静岡市」は平成27年度全体23.7%は、平成26年度全体18.2%より5.5ポイント高くなっている。

美術館カルテ 53

地域別の利用者の割合

		中部	西部	東部
平成 27 年度	スイスデザイン展	58.9	16.5	14.9
	富士山－信仰と芸術－	55.9	12.9	20.5
	写真家の眼／版画家の眼	58.2	13.8	16.9
経 年	平成27年度全体	57.8	14.7	17.2
	平成26年度全体	52.7	13.6	16.0
平成 26 年度	アニマルワールド	46.6	15.5	14.8
	美少女の美術史	54.7	12.0	16.7
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	61.1	12.7	16.9

単位：%

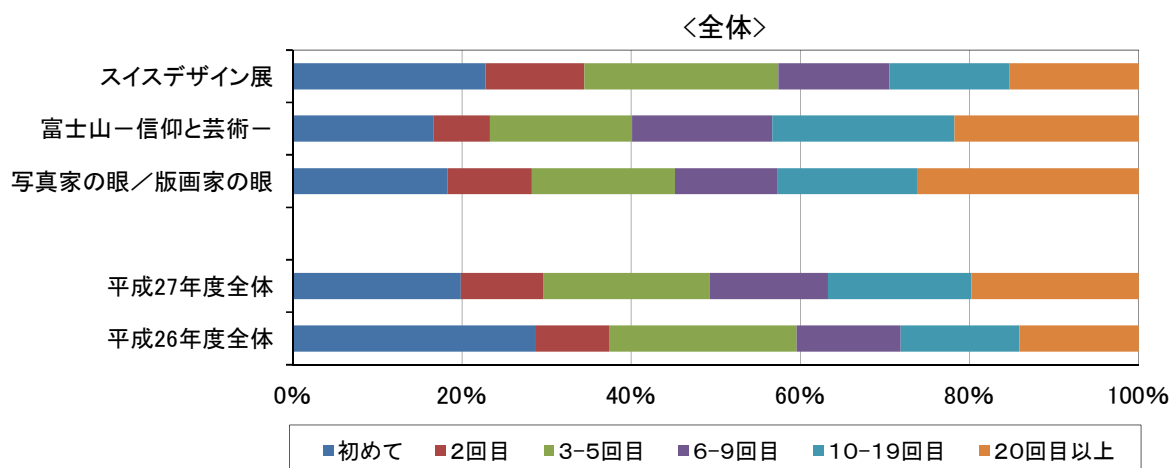
(3) 観覧者の行動

① 来館回数

全体

		件数 (件)	初めて	2 回目	3 - 5 回目	6 - 9 回目	10 - 19 回目	20 回目 以上
平成 27 年度	スイスデザイン展	601	22.8	11.6	23.0	13.1	14.1	15.3
	富士山ー信仰と芸術ー	404	16.6	6.7	16.8	16.6	21.5	21.8
	写真家の眼／版画家の眼	290	18.3	10.0	16.9	12.1	16.6	26.2
経 年	平成 27 年度全体		19.8	9.7	19.7	14.0	17.0	19.8
	平成 26 年度全体		28.7	8.7	22.2	12.3	14.0	14.1
平成 26 年度	アニマルワールド	597	29.8	7.5	20.6	13.4	13.7	14.9
	美少女の美術史	508	30.3	12.4	24.6	11.6	11.6	9.4
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	329	24.0	5.2	21.3	11.6	18.2	19.8

単位：%



来館回数について〈全体〉は、平成27年度の「初めて」は19.8%と平成26年度より8.9ポイント低くなっている。「20回目以上」は19.8%と前年度より5.7ポイント高くなっている。展覧会別にみると、「初めて」が最も高いのは『スイスデザイン展』の22.8%、次いで『写真家の眼／版画家の眼』18.3%、『富士山ー信仰と芸術ー』16.6%の順となっている。

評価指標 4

新規来館者の割合

美術館カルテ 2

リピート率

		新規来館者の割合	リピート率
平成27年度	スイスデザイン展	22.8	77.2
	富士山ー信仰と芸術ー	16.6	83.4
	写真家の眼／版画家の眼	18.3	81.7
経年	平成27年度全体	19.8	80.2
	平成26年度全体	28.7	71.3
平成26年度	アニマルワールド	29.8	70.2
	美少女の美術史	30.3	69.7
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	24.0	76.0

単位：%

② 来館人数

全体

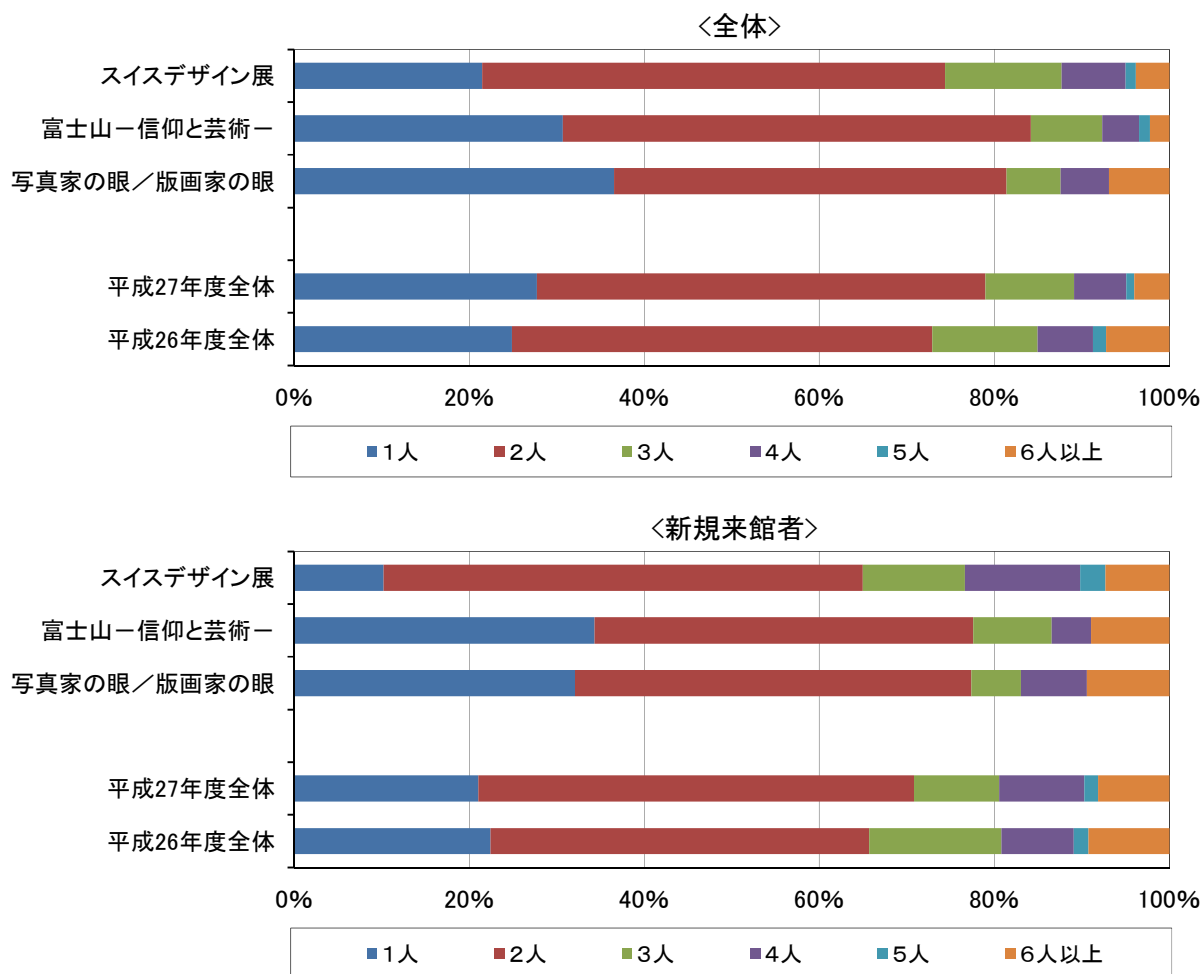
		件数 (件)	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人 以上
平成 27 年度	スイスデザイン展	601	21.5	52.9	13.3	7.3	1.2	3.8
	富士山－信仰と芸術－	404	30.7	53.5	8.2	4.2	1.2	2.2
	写真家の眼／版画家の眼	290	36.6	44.8	6.2	5.5	0.0	6.9
経 年	平成 27 年度全体		27.7	51.3	10.1	5.9	0.9	4.0
	平成 26 年度全体		24.9	48.1	12.0	6.3	1.5	7.2
平成 26 年度	アニマルワールド	601	22.0	50.2	15.6	6.8	3.2	2.2
	美少女の美術史	508	26.2	44.5	9.8	8.7	0.6	10.2
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	331	28.1	49.5	8.8	1.8	0.0	11.8

単位：％

新規来館者

		件数 (件)	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人 以上
平成 27 年度	スイスデザイン展	137	10.2	54.7	11.7	13.1	2.9	7.3
	富士山－信仰と芸術－	67	34.3	43.3	9.0	4.5	0.0	9.0
	写真家の眼／版画家の眼	53	32.1	45.3	5.7	7.5	0.0	9.4
経 年	平成 27 年度全体		21.0	49.8	9.7	9.7	1.6	8.2
	平成 26 年度全体		22.4	43.3	15.1	8.3	1.7	9.2
平成 26 年度	アニマルワールド	178	17.4	49.4	19.7	10.1	2.8	0.6
	美少女の美術史	154	26.0	35.7	12.3	10.4	1.3	14.3
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	79	26.6	44.3	10.1	0.0	0.0	19.0

単位：％



来館人数について〈全体〉は、平成27年度は「2人」が51.3%と最も高くなっている。次いで「1人」27.7%、「3人」10.1%の順となっている。『スイスデザイン展』、『富士山ー信仰と芸術ー』では「2人」が高くなっている。『写真家の眼／版画家の眼』では「1人」が36.6%と他の展覧会より高くなっている。

〈新規来館者〉でも、平成27年度は「2人」が49.8%と最も高くなっている。次いで「1人」21.0%、「3人」「4人」9.7%の順になっている。『スイスデザイン展』では「2人」での来館が高くなっている。『富士山ー信仰と芸術ー』、『写真家の眼／版画家の眼』では「1人」での来館が『スイスデザイン展』より高くなっている。

③ 来館時の同伴者

全体

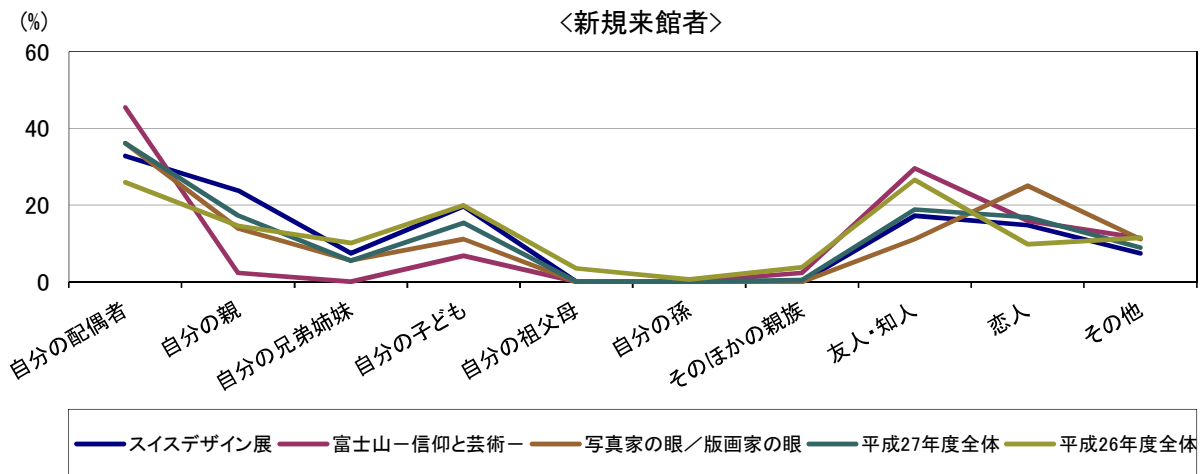
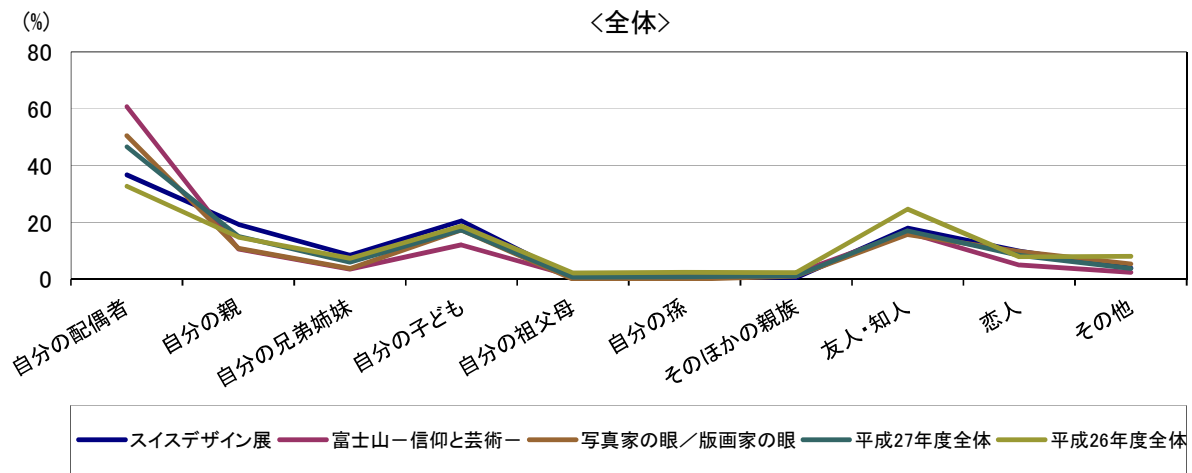
		件数 (件)	自分の 配偶者	自分の 親	姉妹 自分の 兄弟	自分の 子ども	自分の 祖父母	自分の 孫	親族 そのほかの	友人・ 知人	恋人	その他
平成 27 年度	スイスデザイン展	471	36.7	19.3	8.5	20.6	0.8	0.8	0.6	18.0	10.0	4.0
	富士山－信仰と芸術－	280	60.7	10.7	3.6	12.1	1.1	1.8	2.1	16.4	5.0	2.5
	写真家の眼／版画家の眼	184	50.5	10.9	3.8	17.4	0.0	0.0	1.1	15.8	9.8	5.4
経 年	平成 27 年度全体		46.6	15.1	6.1	17.4	0.7	1.0	1.2	17.1	8.4	3.9
	平成 26 年度全体		32.7	14.9	7.4	18.8	2.2	2.5	2.3	24.7	7.9	8.2
平成 26 年度	アニマルワールド	466	44.4	16.3	7.7	23.4	3.0	4.1	2.1	16.3	6.9	2.6
	美少女の美術史	373	18.2	16.6	9.4	17.2	1.9	1.3	1.6	33.5	8.6	11.8
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	238	32.4	9.2	3.8	12.2	1.3	1.3	3.8	27.3	8.8	13.4

単位：％

新規来館者

		件数 (件)	自分の 配偶者	自分の 親	姉妹 自分の 兄弟	自分の 子ども	自分の 祖父母	自分の 孫	親族 そのほかの	友人・ 知人	恋人	その他
平成 27 年度	スイスデザイン展	122	32.8	23.8	7.4	19.7	0.0	0.0	0.0	17.2	14.8	7.4
	富士山－信仰と芸術－	44	45.5	2.3	0.0	6.8	0.0	0.0	2.3	29.5	15.9	11.4
	写真家の眼／版画家の眼	36	36.1	13.9	5.6	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	25.0	11.1
経 年	平成 27 年度全体		36.1	17.3	5.4	15.3	0.0	0.0	0.5	18.8	16.8	8.9
	平成 26 年度全体		25.9	14.6	10.1	19.9	3.5	0.6	3.8	26.6	9.8	11.4
平成 26 年度	アニマルワールド	145	38.6	21.4	13.1	30.3	4.8	1.4	4.1	13.1	6.2	1.4
	美少女の美術史	113	14.2	12.4	9.7	15.9	3.5	0.0	2.7	39.8	11.5	15.9
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	58	17.2	1.7	3.4	1.7	0.0	0.0	5.2	34.5	15.5	27.6

単位：％



来館時の同伴者について〈全体〉は、平成 27 年度は「自分の配偶者」46.6%、次いで「自分の子ども」17.4%、「友人・知人」17.1%の順となっている。『富士山-信仰と芸術-』では、「自分の配偶者」が60.7%と高くなっている。

〈新規来館者〉は、「自分の配偶者」36.1%が最も高く、次いで「友人・知人」18.8%、「自分の親」17.3%の順となっている。

美術館カルテ 54

2・3世代で一緒に観覧に来ている割合

平成 27 年 度	スイスデザイン展	40.1
	富士山-信仰と芸術-	22.9
	写真家の眼/版画家の眼	27.2
経 年	平成 27 年度全体	32.4
	平成 26 年度全体	35.2
平成 26 年 度	アニマルワールド	42.5
	美少女の美術史	35.1
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	21.0

単位：%

④ 来館のきっかけ

全体

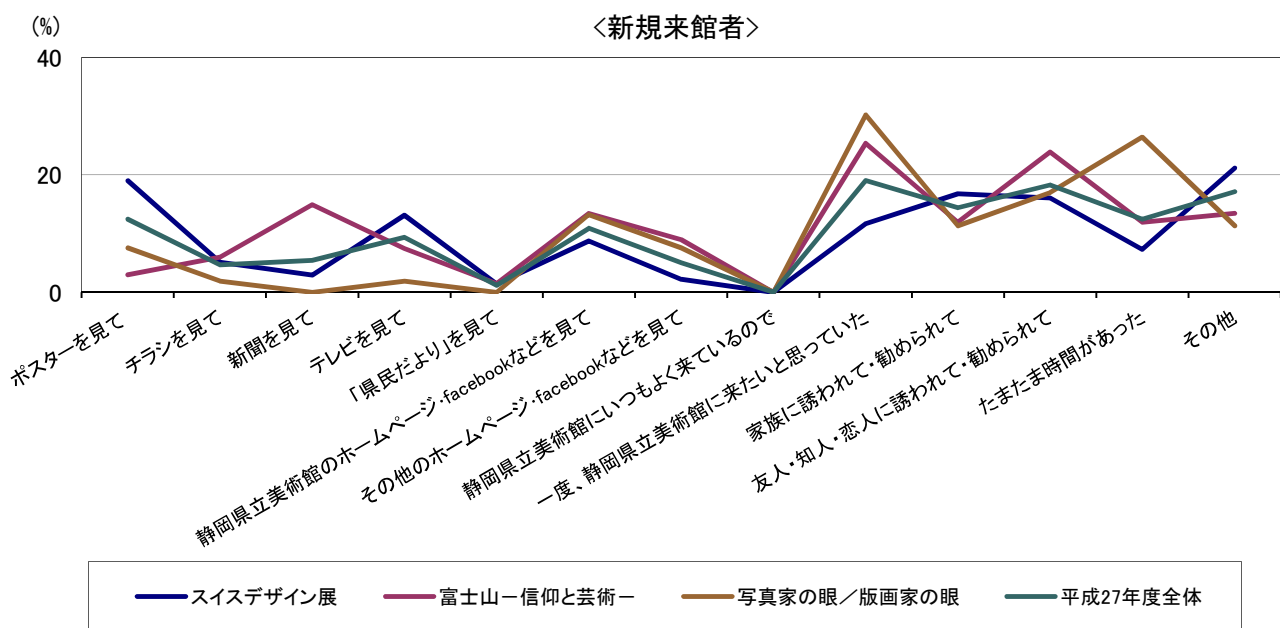
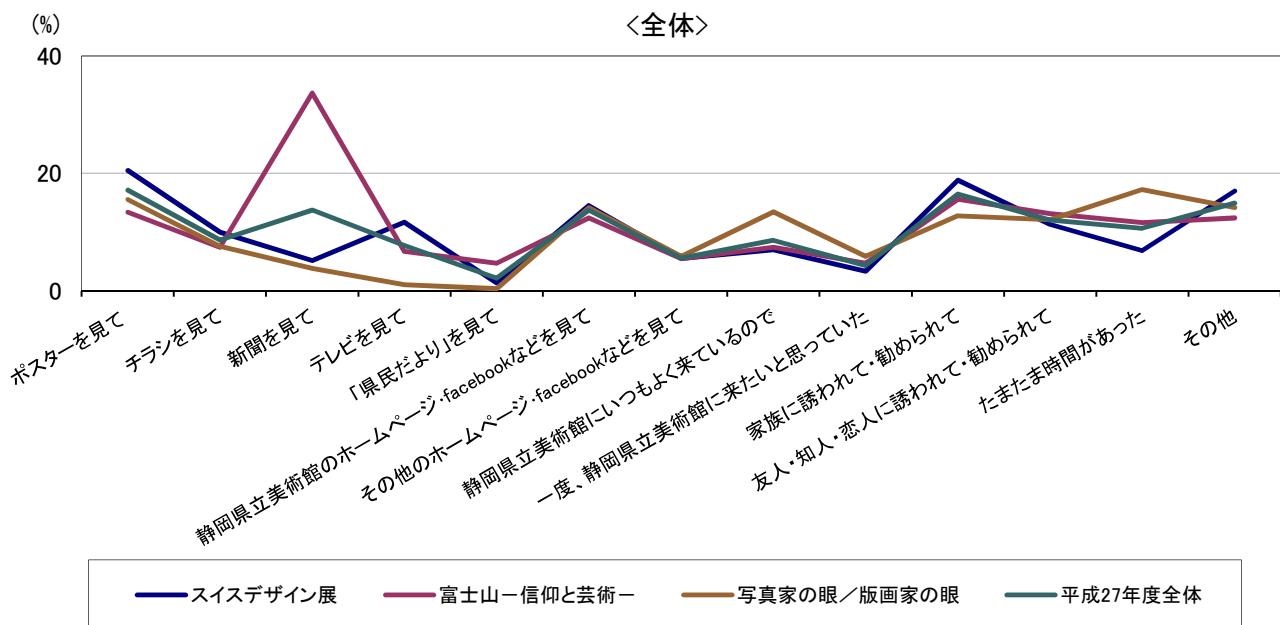
		件数 (件)	ポスター を見て	チラシ を見て	新聞 を見て	テレビ を見て	「県民 だより」 を見て	静岡県立 美術館の ホームページ を見て	その他の ホームページ を見て	静岡県立 美術館に いつもよく 来ている ので	一度、静 岡県立美 術館に 来たいと 思ってい た	家族に 誘われ て・勧め られて	友人・知 人・恋人 に誘われ て・勧め られて	たまたま 時間があ った	その他
平成 27年 度	スイスデザイン展	600	20.5	10.0	5.2	11.7	1.3	14.5	5.5	7.0	3.3	18.8	11.3	6.8	17.0
	富士山 —信仰と芸術—	404	13.4	7.4	33.7	6.7	4.7	12.4	5.4	7.4	4.7	15.6	13.1	11.6	12.4
	写真家の眼／版画家 の眼	290	15.5	7.6	3.8	1.0	0.3	14.1	5.9	13.4	5.9	12.8	12.1	17.2	14.1
経 年	平成 27 年度全体		17.2	8.7	13.8	7.7	2.2	13.8	5.6	8.6	4.3	16.5	12.1	10.7	14.9
	平成 26 年度全体		20.8	7.5	10.0	6.3	2.0		18.9	10.7	4.2	15.3	13.9	10.0	16.8
平成 26年 度	アニマルワールド	599	16.7	6.8	11.7	11.5	2.0		20.7	10.7	4.7	18.4	11.0	6.2	12.9
	美少女の美術史	507	31.2	9.5	10.1	2.6	1.0		18.5	5.9	3.0	15.4	18.7	10.7	15.6
	静岡県立美術館コレク ション展 風景解剖学	329	12.5	5.8	6.7	2.7	3.3		16.1	17.9	5.2	9.7	11.6	15.8	25.8

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	ポスター を見て	チラシ を見て	新聞 を見て	テレビ を見て	「県民 だより」 を見て	静岡県立 美術館の ホームページ を見て	その他の ホームページ を見て	静岡県立 美術館に いつもよく 来ている ので	一度、静 岡県立美 術館に 来たいと 思ってい た	家族に 誘われ て・勧め られて	友人・知 人・恋人 に誘われ て・勧め られて	たまたま 時間があ った	その他
平成 27年 度	スイスデザイン展	137	19.0	5.1	2.9	13.1	1.5	8.8	2.2	0.0	11.7	16.8	16.1	7.3	21.2
	富士山 —信仰と芸術—	67	3.0	6.0	14.9	7.5	1.5	13.4	9.0	0.0	25.4	11.9	23.9	11.9	13.4
	写真家の眼／版画家 の眼	53	7.5	1.9	0.0	1.9	0.0	13.2	7.5	0.0	30.2	11.3	17.0	26.4	11.3
経 年	平成 27 年度全体		12.5	4.7	5.4	9.3	1.2	10.9	5.1	0.0	19.1	14.4	18.3	12.5	17.1
	平成 26 年度全体		14.3	3.7	7.4	4.9	0.2		18.7	0.0	13.5	15.7	18.7	7.9	21.9
平成 26年 度	アニマルワールド	176	6.3	3.4	10.8	8.0	0.0		23.9	0.0	14.2	23.3	10.8	4.5	19.9
	美少女の美術史	153	26.8	4.6	6.5	2.0	0.0		16.3	0.0	8.5	13.7	26.8	8.5	15.7
	静岡県立美術館コレク ション展 風景解剖学	78	7.7	2.6	1.3	3.8	1.3		11.5	0.0	21.8	2.6	20.5	14.1	38.5

単位：%



※今年度は選択肢を増やしたため、平成26年度はグラフ化していない。

来館のきっかけについて〈全体〉は、平成27年度は「ポスターを見て」17.2%と最も高く、次いで「家族に誘われて・勧められて」16.5%、「その他」14.9%、「新聞を見て」「静岡県立美術館のホームページ・facebookなどを見て」13.8%の順になっている。展覧会別にみると、『スイスデザイン展』は「ポスターを見て」20.5%と最も高く、『富士山ー信仰と芸術ー』は「新聞を見て」33.7%、『写真家の眼／版画家の眼』は「たまたま時間があった」17.2%となっている。特に、「新聞を見て」「テレビを見て」は展覧会により差が大きく、『スイスデザイン展』16.9%、『富士山ー信仰と芸術ー』40.4%、『写真家の眼／版画家の眼』4.8%となっている。

〈新規来館者〉は、平成27年度は〈全体〉は、「一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた」が19.1%と最も高く、次いで「友人・知人・恋人に誘われて・勧められて」18.3%、「その他」17.1%の順になっている。展覧会別にみると、『スイスデザイン展』は「その他」21.2%と最も高く、『富士山ー信仰と芸術ー』は「一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた」25.4%、『写真家の眼／版画家の眼』も「一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた」30.2%となっている。『スイスデザイン展』は、「ポスターを見て」は19.0%と他の展覧会と比較し高くなっている。

来館時期別来館のきっかけ

展覧会	件数(件)			ポスターを見て			チラシを見て			新聞を見て			テレビを見て		
	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*
全体	600	404	290	20.5	13.4	15.5	10.0	7.4	7.6	5.2	33.7	3.8	11.7	6.7	1.0
序盤	162	123	81	17.3	12.2	17.3	14.2	4.9	4.9	5.6	33.3	6.2	6.2	9.8	0.0
中盤	200	134	106	24.0	16.4	12.3	5.5	9.7	10.4	6.0	47.0	2.8	12.0	6.0	1.9
終盤	238	147	103	19.7	11.6	17.5	10.9	7.5	6.8	4.2	21.8	2.9	15.1	4.8	1.0
	「県民だより」を見て			静岡県立美術館のホームページ・facebookなどを見て			その他のホームページ・facebookなどを見て			静岡県立美術館にいつもよく来ているので			一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた		
展覧会	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*
全体	1.3	4.7	0.3	14.5	12.4	14.1	5.5	5.4	5.9	7.0	7.4	13.4	3.3	4.7	5.9
序盤	2.5	3.3	0.0	15.4	15.4	16.0	10.5	6.5	6.2	13.6	9.8	14.8	2.5	9.8	3.7
中盤	0.5	6.7	0.0	17.5	10.4	11.3	4.0	7.5	5.7	3.0	9.0	12.3	3.5	1.5	3.8
終盤	1.3	4.1	1.0	11.3	11.6	15.5	3.4	2.7	5.8	5.9	4.1	13.6	3.8	3.4	9.7
	家族に誘われて・勧められて			友人・知人・恋人に誘われて・勧められて			たまたま時間があつた			その他					
展覧会	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*			
全体	18.8	15.6	12.8	11.3	13.1	12.1	6.8	11.6	17.2	17.0	12.4	14.1			
序盤	13.6	15.4	12.3	11.7	8.1	11.1	9.9	19.5	29.6	16.7	6.5	6.2			
中盤	19.0	12.7	14.2	12.5	12.7	9.4	7.0	9.0	16.0	15.5	8.2	14.2			
終盤	22.3	18.4	11.7	10.1	17.7	15.5	4.6	7.5	8.7	18.5	21.1	20.4			

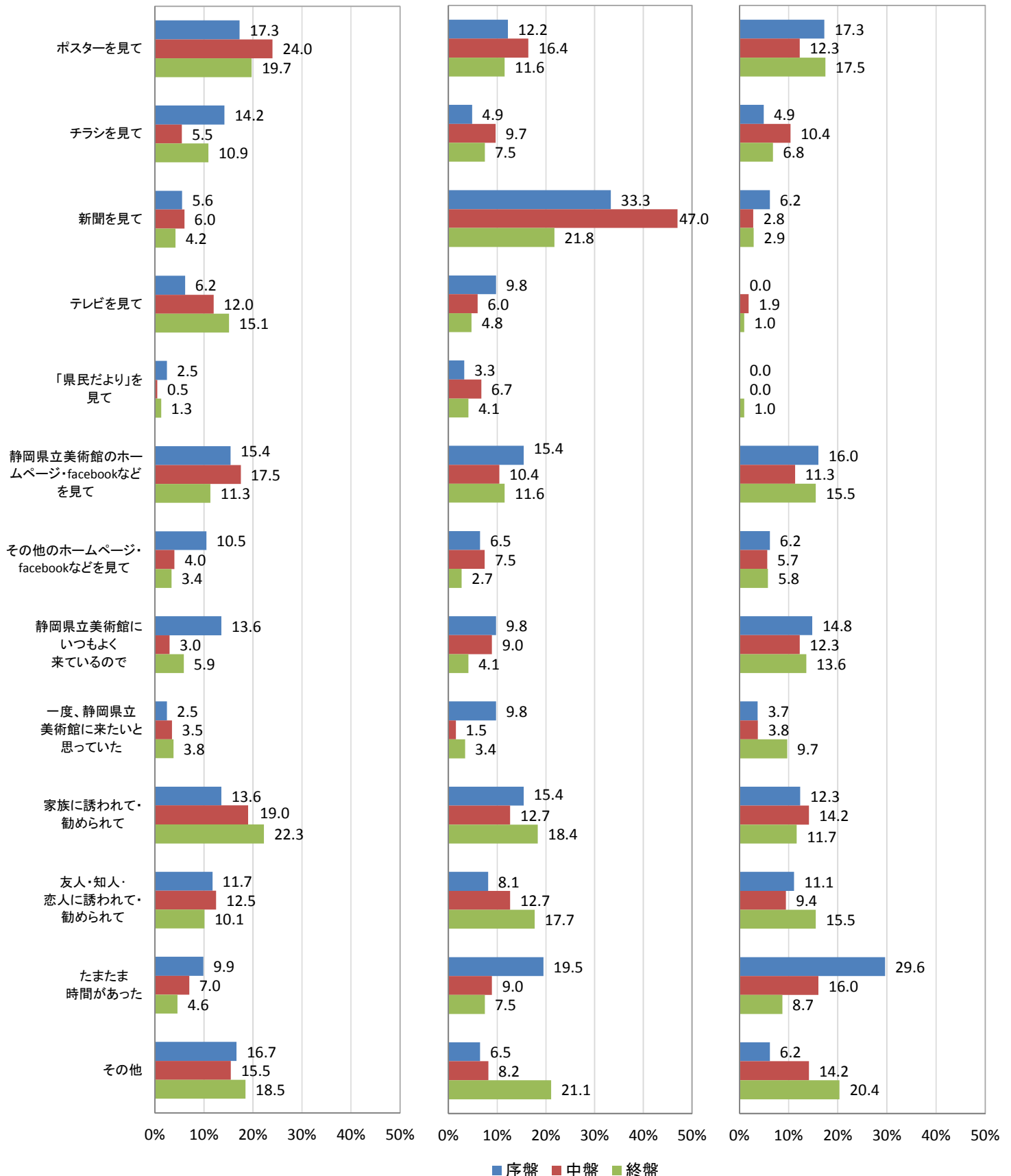
単位：%

- ※) 展覧会A・・・スイスデザイン展
 展覧会B・・・富士山－信仰と芸術－
 展覧会C・・・写真家の眼／版画家の眼

<スイスデザイン展>

<富士山ー信仰と芸術ー>

<写真家の眼/版画家の眼>



来館時期別来館のきっかけについては、『スイスデザイン展』では「ポスターを見て」が<全体>20.5%と最も高く、<序盤>17.3%、<中盤>24.0%、<終盤>19.7%となっている。『富士山ー信仰と芸術ー』では、「新聞を見て」が<全体>33.7%と最も高く、<序盤>33.3%、<中盤>47.0%、<終盤>21.8%となっている。『写真家の眼/版画家の眼』では、「たまたま時間があった」が<全体>17.2%と最も高く、<序盤>29.6%、<中盤>16.0%、<終盤>8.7%となっている。

④ 来館を誘われた手段

全体

		件数 (件)	直接 会って	電話 で	SNS など	携帯 メール	eメール (パソコン)	その他
平成 27 年度	スイスデザイン展	178	81.5	1.7	7.3	7.3	2.2	2.2
	富士山－信仰と芸術－	108	78.7	3.7	8.3	4.6	0.0	9.3
	写真家の眼／版画家の眼	72	86.1	4.2	5.6	6.9	0.0	2.8
経 年	平成 27 年度全体		81.6	2.8	7.3	6.4	1.1	4.5
	平成 26 年度全体		80.9	6.0	8.4	5.0	0.7	3.5
平成 26 年度	アニマルワールド	169	82.2	4.7	4.7	5.9	0.6	4.1
	美少女の美術史	169	79.3	4.1	13.6	5.3	0.6	1.8
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	65	81.5	13.8	4.6	1.5	1.5	6.2

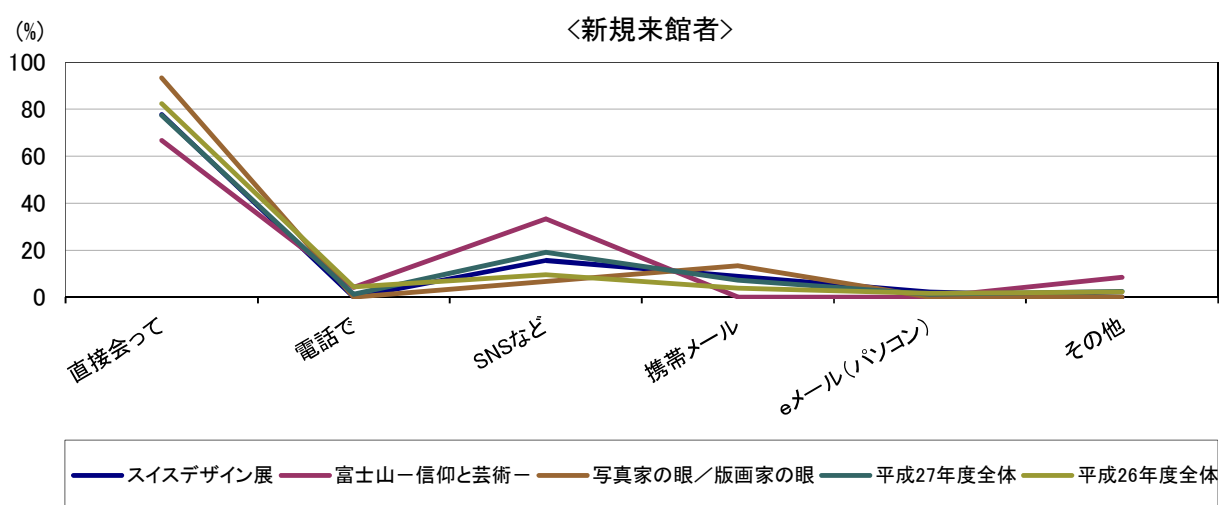
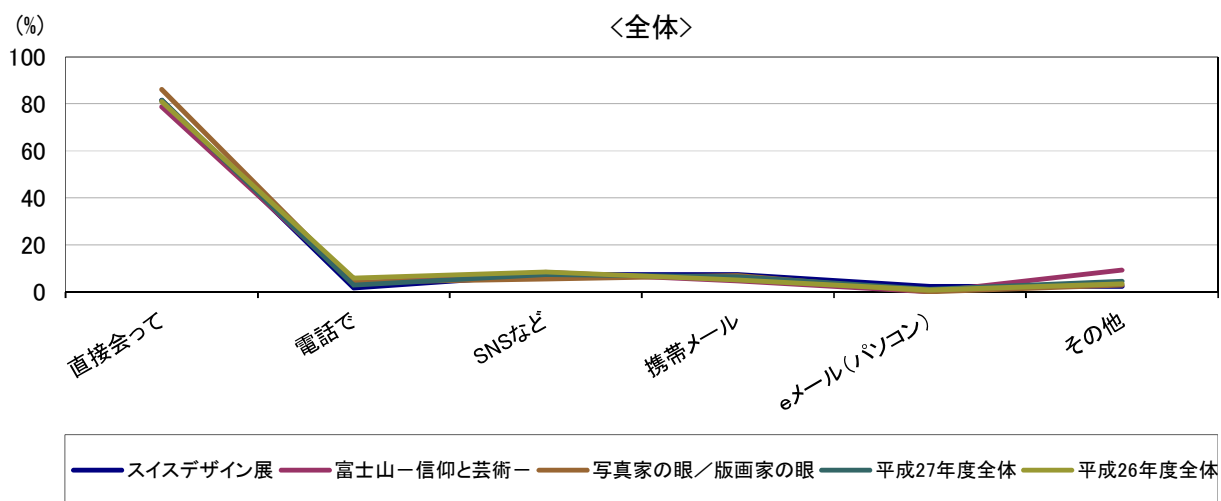
単位：％

新規来館者

		件数 (件)	直接 会って	電話 で	SNS など	携帯 メール	eメール (パソコン)	その他
平成 27 年度	スイスデザイン展	45	77.8	0.0	15.6	8.9	2.2	0.0
	富士山－信仰と芸術－	24	66.7	4.2	33.3	0.0	0.0	8.3
	写真家の眼／版画家の眼	15	93.3	0.0	6.7	13.3	0.0	0.0
経 年	平成 27 年度全体		77.4	1.2	19.0	7.1	1.2	2.4
	平成 26 年度全体		82.4	4.4	9.6	3.7	1.5	2.2
平成 26 年度	アニマルワールド	58	84.5	5.2	5.2	1.7	1.7	1.7
	美少女の美術史	61	80.3	1.6	14.8	4.9	1.6	1.6
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	17	82.4	11.8	5.9	5.9	0.0	5.9

単位：％

※SNS などは SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) LINE・facebook・twitter・mixi などを示す。



来館を誘われた手段について〈全体〉は、平成 27 年度は「直接会って」81.6%と最も高く、次いで「SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）LINE・facebook・twitter・mixi など」7.3%、「携帯メール」6.4%の順になっている。

〈新規来館者〉は、平成 27 年度は〈全体〉同様、「直接会って」77.4%と最も高く、次いで「SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）LINE・facebook・twitter・mixi など」19.0%、「携帯メール」7.1%の順になっている。

(4) 展覧会の評価

① 作品やテーマについての興味・関心の深まり

全体

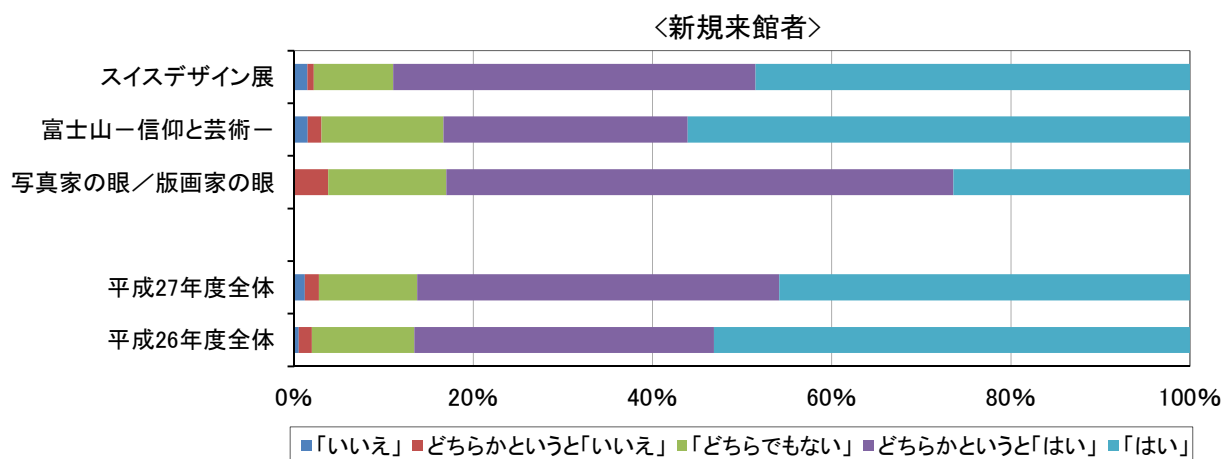
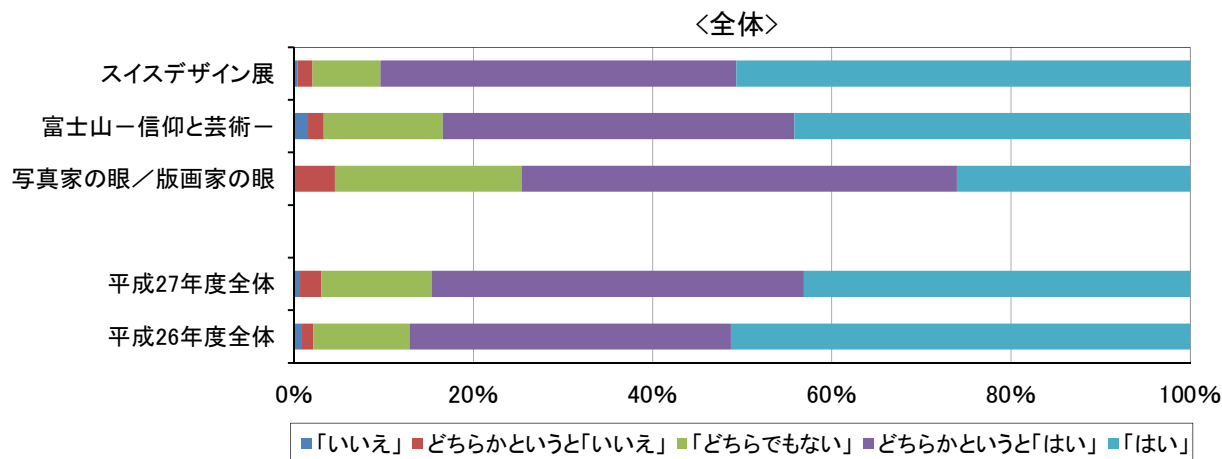
		件数 (件)	「いいえ」	どちらかとい うと「いいえ」	「どちら でも ない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 27 年度	スイスデザイン展	594	0.3	1.7	7.6	39.7	50.7
	富士山－信仰と芸術－	398	1.5	1.8	13.3	39.2	44.2
	写真家の眼／版画家の眼	288	0.0	4.5	20.8	48.6	26.0
経 年	平成 27 年度全体		0.6	2.3	12.3	41.6	43.1
	平成 26 年度全体		0.8	1.3	10.7	35.9	51.3
平成 26 年度	アニマルワールド	593	0.3	0.7	10.1	35.1	53.8
	美少女の美術史	506	1.2	1.6	10.7	33.2	53.4
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	327	1.2	1.8	11.9	41.6	43.4

単位：％

新規来館者

		件数 (件)	「いいえ」	どちらかとい うと「いいえ」	「どちら でも ない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 27 年度	スイスデザイン展	136	1.5	0.7	8.8	40.4	48.5
	富士山－信仰と芸術－	66	1.5	1.5	13.6	27.3	56.1
	写真家の眼／版画家の眼	53	0.0	3.8	13.2	56.6	26.4
経 年	平成 27 年度全体		1.2	1.6	11.0	40.4	45.9
	平成 26 年度全体		0.5	1.5	11.5	33.4	53.2
平成 26 年度	アニマルワールド	177	0.6	1.1	13.0	31.6	53.7
	美少女の美術史	154	0.6	1.3	10.4	29.2	58.4
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	79	0.0	2.5	10.1	45.6	41.8

単位：％



作品やテーマについての興味・関心の深まりについて〈全体〉は、平成27年度は「どちらかという」と「はい」「はい」を合わせた肯定的評価が84.7%となっている。肯定的評価は『スイスデザイン展』90.4%、『富士山ー信仰と芸術ー』83.4%、『写真家の眼／版画家の眼』74.6%の順になっている。一方、「いいえ」「どちらかという」と「いいえ」を合わせた否定的評価は2.9%となっている。

〈新規来館者〉は、平成27年度は肯定的評価が86.3%となっている。肯定的評価は『スイスデザイン展』88.9%、『富士山ー信仰と芸術ー』83.4%、『写真家の眼／版画家の眼』83.0%の順になっている。否定的評価は2.8%となっている。

評価指標 3

作品やテーマに興味を持った人の割合

平成27年度	スイスデザイン展	90.4
	富士山ー信仰と芸術ー	83.4
	写真家の眼／版画家の眼	74.6
経年	平成27年度全体	84.7
	平成26年度全体	87.2
平成26年度	アニマルワールド	88.9
	美少女の美術史	86.6
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	85.0

単位：%

② 展覧会の会場で心地よく観覧できたか

全体

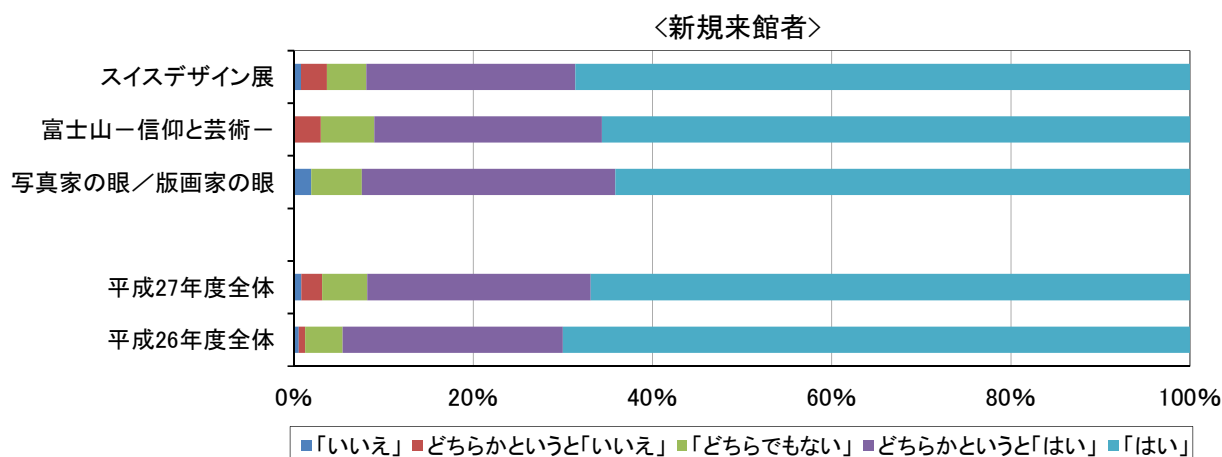
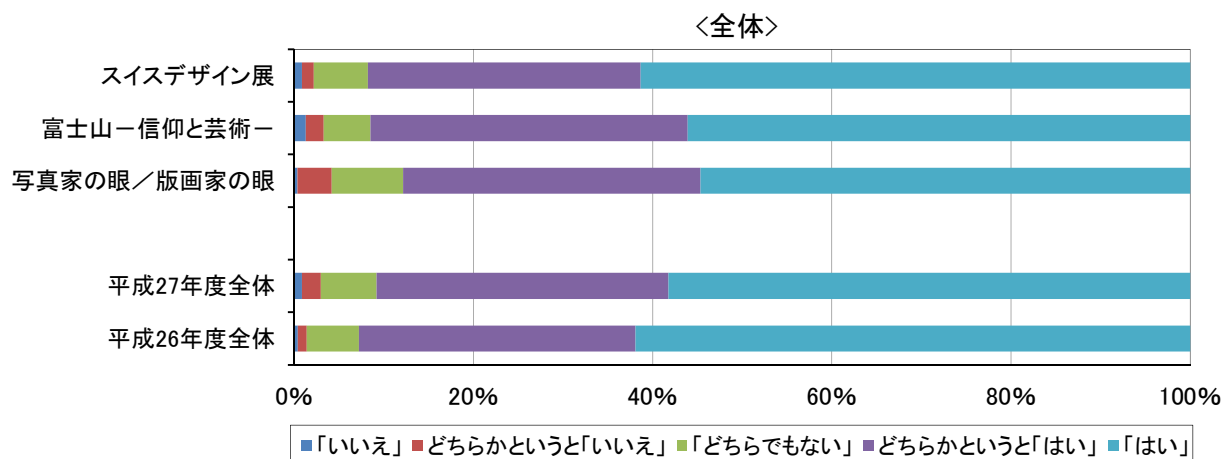
		件数 (件)	「いいえ」	どちらかとい うと「いいえ」	「どちららで もない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 27 年度	スイスデザイン展	598	0.8	1.3	6.0	30.4	61.4
	富士山－信仰と芸術－	401	1.2	2.0	5.2	35.4	56.1
	写真家の眼／版画家の眼	289	0.3	3.8	8.0	33.2	54.7
経 年	平成 27 年度全体		0.9	2.1	6.2	32.6	58.2
	平成 26 年度全体		0.3	1.0	5.8	30.9	61.9
平成 26 年度	アニマルワールド	597	0.0	1.2	4.4	28.8	65.7
	美少女の美術史	508	0.6	0.4	6.5	31.3	61.2
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	329	0.6	1.8	7.3	34.0	56.2

単位：％

新規来館者

		件数 (件)	「いいえ」	どちらかとい うと「いいえ」	「どちららで もない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 27 年度	スイスデザイン展	137	0.7	2.9	4.4	23.4	68.6
	富士山－信仰と芸術－	67	0.0	3.0	6.0	25.4	65.7
	写真家の眼／版画家の眼	53	1.9	0.0	5.7	28.3	64.2
経 年	平成 27 年度全体		0.8	2.3	5.1	24.9	66.9
	平成 26 年度全体		0.5	0.7	4.1	24.6	70.0
平成 26 年度	アニマルワールド	177	0.0	0.6	2.3	22.6	74.6
	美少女の美術史	154	1.3	0.0	4.5	26.0	68.2
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	79	0.0	2.5	7.6	26.6	63.3

単位：％



展覧会の会場で心地よく観覧できたかについて〈全体〉は、平成27年度は「どちらかというとはいはい」「はい」を合わせた肯定的評価が90.8%となっている。肯定的評価は『スイスデザイン展』91.8%、『富士山ー信仰と芸術ー』91.5%、『写真家の眼／版画家の眼』87.9%の順になっている。一方、「いいえ」「どちらかというといいえ」を合わせた否定的評価は3.0%となっている。

〈新規来館者〉は、平成27年度は肯定的評価が91.8%となっている。肯定的評価は『写真家の眼／版画家の眼』92.5%、『スイスデザイン展』92.0%、『富士山ー信仰と芸術ー』91.1%の順になっている。否定的評価は3.1%となっている。

美術館カルテ 32

鑑賞環境に対する満足度

平成27年度	スイスデザイン展	91.8
	富士山ー信仰と芸術ー	91.5
	写真家の眼／版画家の眼	87.9
経年	平成27年度全体	90.8
	平成26年度全体	92.8
平成26年度	アニマルワールド	94.5
	美少女の美術史	92.5
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	90.2

単位：%

③ スタッフの対応は適切であったか

全体

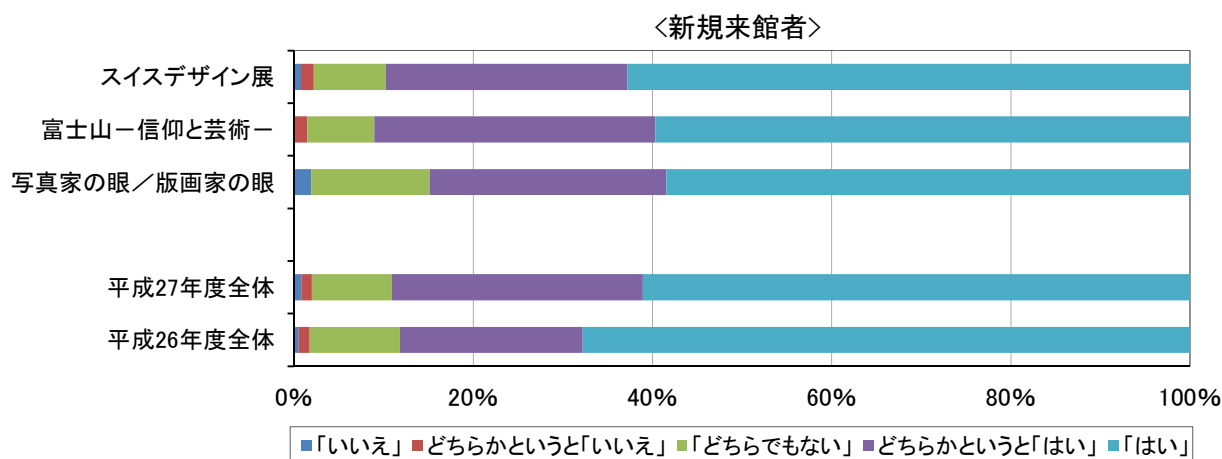
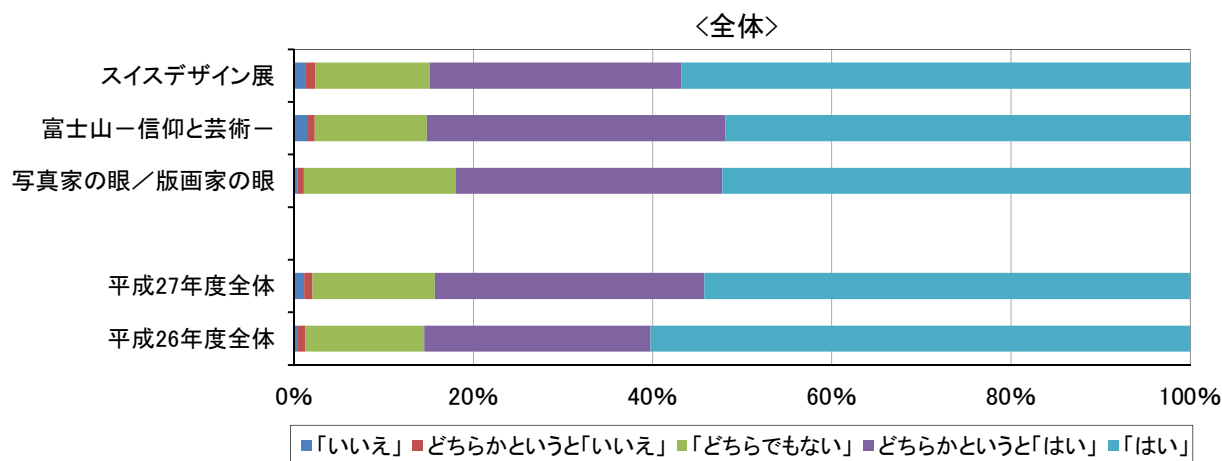
		件数 (件)	「いいえ」	「どちらかとい うと」「はい」	「どちらかとい もない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」
平成 27 年度	スイスデザイン展	597	1.2	1.2	12.7	28.1	56.8
	富士山－信仰と芸術－	399	1.5	0.8	12.5	33.3	51.9
	写真家の眼／版画家の眼	289	0.3	0.7	17.0	29.8	52.2
経 年	平成 27 年度全体		1.1	0.9	13.6	30.1	54.2
	平成 26 年度全体		0.3	0.9	13.3	25.3	60.2
平成 26 年度	アニマルワールド	591	0.2	0.5	13.7	25.2	60.4
	美少女の美術史	505	0.4	1.2	13.7	23.6	61.2
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	325	0.3	1.2	12.0	28.0	58.5

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「いいえ」	「どちらかとい うと」「はい」	「どちらかとい もない」	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」
平成 27 年度	スイスデザイン展	137	0.7	1.5	8.0	27.0	62.8
	富士山－信仰と芸術－	67	0.0	1.5	7.5	31.3	59.7
	写真家の眼／版画家の眼	53	1.9	0.0	13.2	26.4	58.5
経 年	平成 27 年度全体		0.8	1.2	8.9	28.0	61.1
	平成 26 年度全体		0.5	1.2	10.1	20.4	67.8
平成 26 年度	アニマルワールド	175	0.6	0.0	12.6	20.6	66.3
	美少女の美術史	153	0.7	2.6	8.5	20.9	67.3
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	79	0.0	1.3	7.6	19.0	72.2

単位：%



スタッフの対応は適切であったかについて〈全体〉は、平成27年度は「どちらかという はい」を合わせた肯定的評価が84.3%となっている。肯定的評価は『富士山ー信仰と芸術ー』85.2%、『スイスデザイン展』84.9%、『写真家の眼／版画家の眼』82.0%の順になっている。一方、「いいえ」「どちらかという いいえ」を合わせた否定的評価は2.0%となっている。

〈新規来館者〉は、平成27年度は肯定的評価が89.1%となっている。肯定的評価は『富士山ー信仰と芸術ー』91.0%、『スイスデザイン展』89.8%、『写真家の眼／版画家の眼』84.9%の順になっている。否定的評価は2.0%となっている。

美術館カルテ 29

美術館スタッフの対応に満足した人の割合

平成27年度	スイスデザイン展	84.9
	富士山ー信仰と芸術ー	85.2
	写真家の眼／版画家の眼	82.0
経年	平成27年度全体	84.3
	平成26年度全体	85.5
平成26年度	アニマルワールド	85.6
	美少女の美術史	84.8
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	86.5

単位：%

④ この展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいか

全体

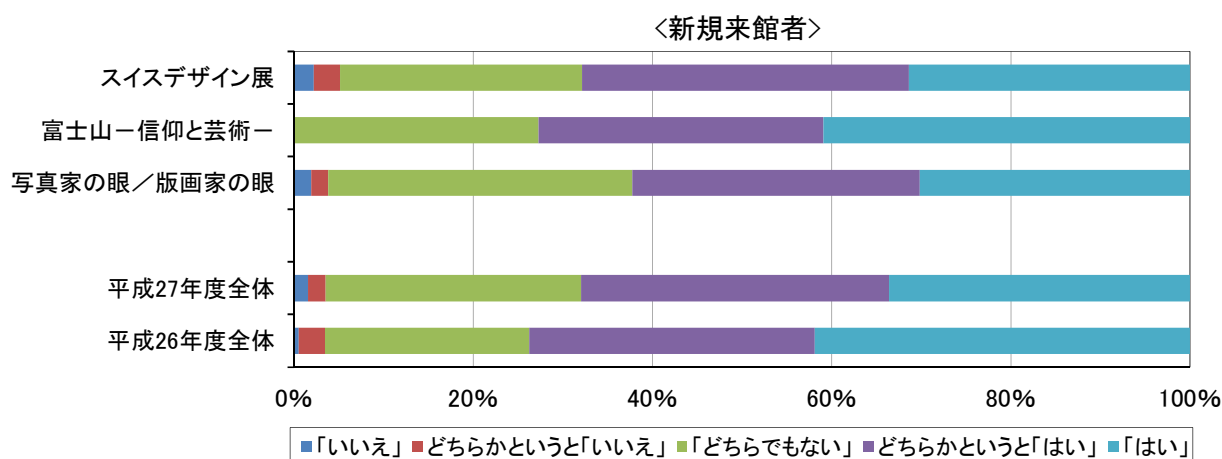
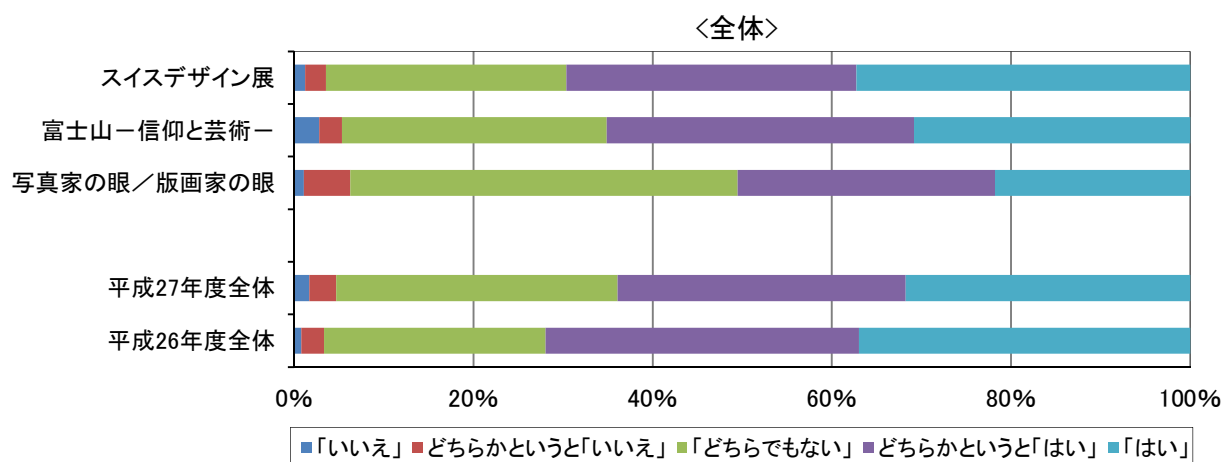
		件数 (件)	「いいえ」	どちらかとい うと「いいえ」	「どちららで もない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 27 年度	スイスデザイン展	596	1.2	2.3	26.8	32.4	37.2
	富士山ー信仰と芸術ー	396	2.8	2.5	29.5	34.3	30.8
	写真家の眼／版画家の眼	289	1.0	5.2	43.3	28.7	21.8
経 年	平成 27 年度全体		1.6	3.0	31.4	32.2	31.8
	平成 26 年度全体		0.8	2.5	24.7	35.0	37.0
平成 26 年度	アニマルワールド	591	0.5	1.9	21.7	37.2	38.7
	美少女の美術史	507	1.2	3.0	22.5	34.7	38.7
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	326	0.6	3.1	33.7	31.3	31.3

単位：％

新規来館者

		件数 (件)	「いいえ」	どちらかとい うと「いいえ」	「どちららで もない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 27 年度	スイスデザイン展	137	2.2	2.9	27.0	36.5	31.4
	富士山ー信仰と芸術ー	66	0.0	0.0	27.3	31.8	40.9
	写真家の眼／版画家の眼	53	1.9	1.9	34.0	32.1	30.2
経 年	平成 27 年度全体		1.6	2.0	28.5	34.4	33.6
	平成 26 年度全体		0.5	2.9	22.8	31.9	41.9
平成 26 年度	アニマルワールド	175	0.0	3.4	20.6	31.4	44.6
	美少女の美術史	154	1.3	1.3	20.1	37.7	39.6
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	79	0.0	5.1	32.9	21.5	40.5

単位：％



この展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいかについて〈全体〉は、平成27年度は「どちらかという はい」「はい」を合わせた肯定的評価が64.0%となっている。肯定的評価は『スイスデザイン展』69.6%、『富士山ー信仰と芸術ー』65.1%、『写真家の眼／版画家の眼』50.5%の順になっている。一方、「いいえ」「どちらかという いいえ」を合わせた否定的評価は4.6%となっている。

〈新規来館者〉は、平成27年度は肯定的評価が68.0%となっている。肯定的評価は『富士山ー信仰と芸術ー』72.7%、『スイスデザイン展』67.9%、『写真家の眼／版画家の眼』62.3%の順になっている。否定的評価は3.6%となっている。

⑤ 当美術館に関する情報は入手しやすいか

全体

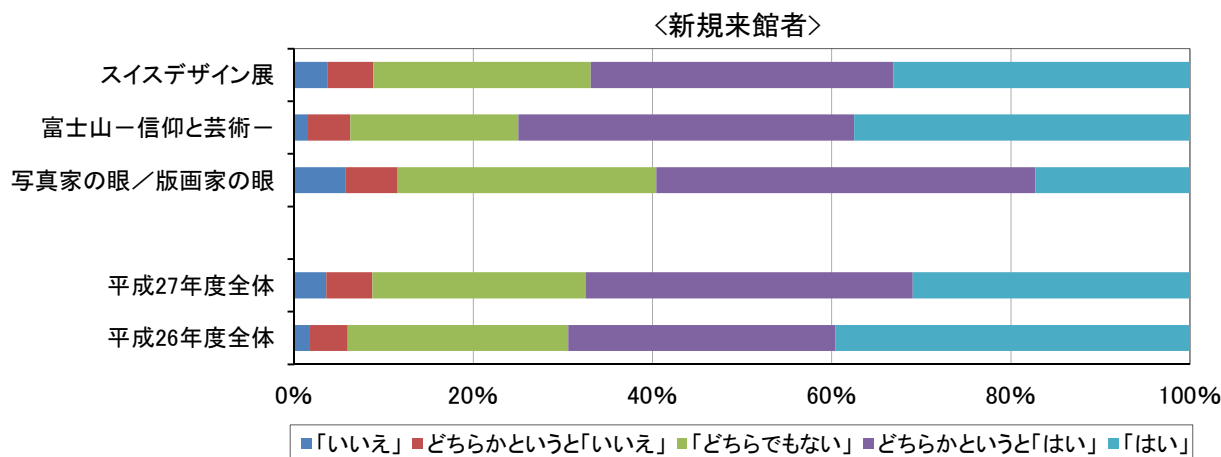
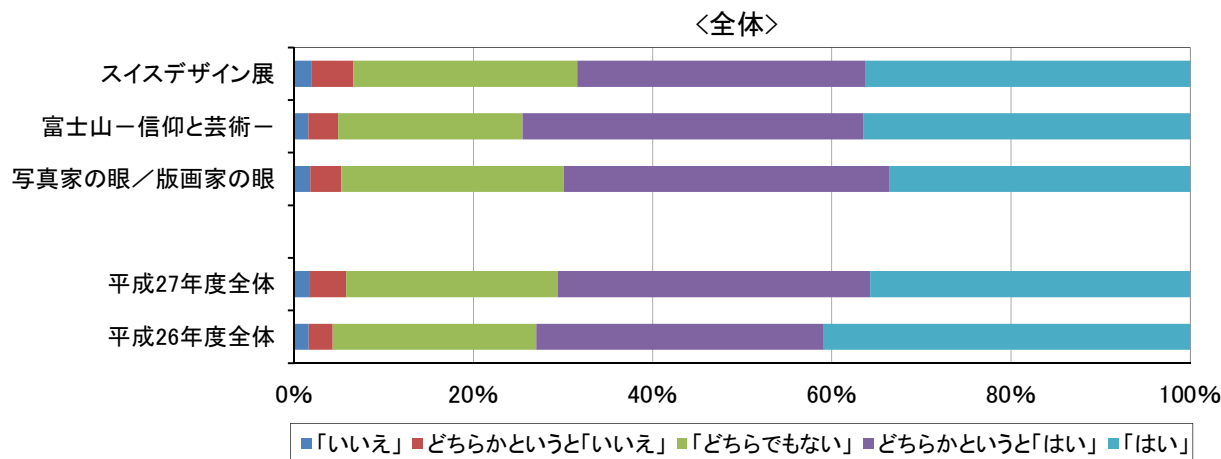
		件数 (件)	「いいえ」	どちらかとい うと「いいえ」	「どちららで もない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 27 年度	スイスデザイン展	595	1.8	4.7	25.0	32.1	36.3
	富士山－信仰と芸術－	389	1.5	3.3	20.6	38.0	36.5
	写真家の眼／版画家の眼	286	1.7	3.5	24.8	36.4	33.6
経 年	平成 27 年度全体		1.7	4.0	23.6	34.9	35.7
	平成 26 年度全体		1.6	2.7	22.7	32.1	40.9
平成 26 年度	アニマルワールド	581	0.9	2.2	23.1	31.2	42.7
	美少女の美術史	503	2.0	3.2	21.5	32.8	40.6
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	319	2.2	2.8	24.1	32.6	38.2

単位：％

新規来館者

		件数 (件)	「いいえ」	どちらかとい うと「いいえ」	「どちららで もない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 27 年度	スイスデザイン展	136	3.7	5.1	24.3	33.8	33.1
	富士山－信仰と芸術－	64	1.6	4.7	18.8	37.5	37.5
	写真家の眼／版画家の眼	52	5.8	5.8	28.8	42.3	17.3
経 年	平成 27 年度全体		3.6	5.2	23.8	36.5	31.0
	平成 26 年度全体		1.7	4.2	24.6	29.9	39.6
平成 26 年度	アニマルワールド	171	1.2	3.5	21.6	29.2	44.4
	美少女の美術史	153	2.6	4.6	24.8	31.4	36.6
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	78	1.3	5.1	30.8	28.2	34.6

単位：％



当美術館に関する情報は入手しやすいかについて〈全体〉は、平成27年度は「どちらかというとはいはい」「はい」を合わせた肯定的評価が70.6%となっている。肯定的評価は『富士山ー信仰と芸術ー』74.5%、『写真家の眼／版画家の眼』70.0%、『スイスデザイン展』68.4%の順になっている。一方、「いいえ」「どちらかというといいえ」を合わせた否定的評価は5.7%となっている。

〈新規来館者〉は、平成27年度は肯定的評価が67.5%となっている。肯定的評価は『富士山ー信仰と芸術ー』75.0%、『スイスデザイン展』66.9%、『写真家の眼／版画家の眼』59.6%の順になっている。否定的評価は8.8%となっている。

評価指標 24

当館に関する情報が入手しやすいとする人の割合

平成27年度	スイスデザイン展	68.4
	富士山ー信仰と芸術ー	74.5
	写真家の眼／版画家の眼	70.0
経年	平成27年度全体	70.6
	平成26年度全体	73.0
平成26年度	アニマルワールド	73.9
	美少女の美術史	73.4
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	70.8

単位：%

⑥-1 利用交通機関

全体

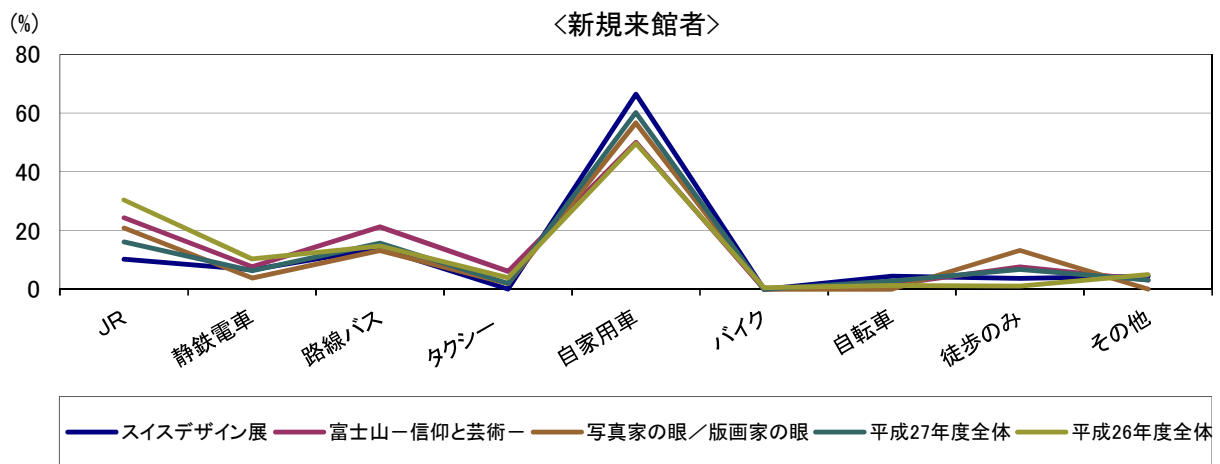
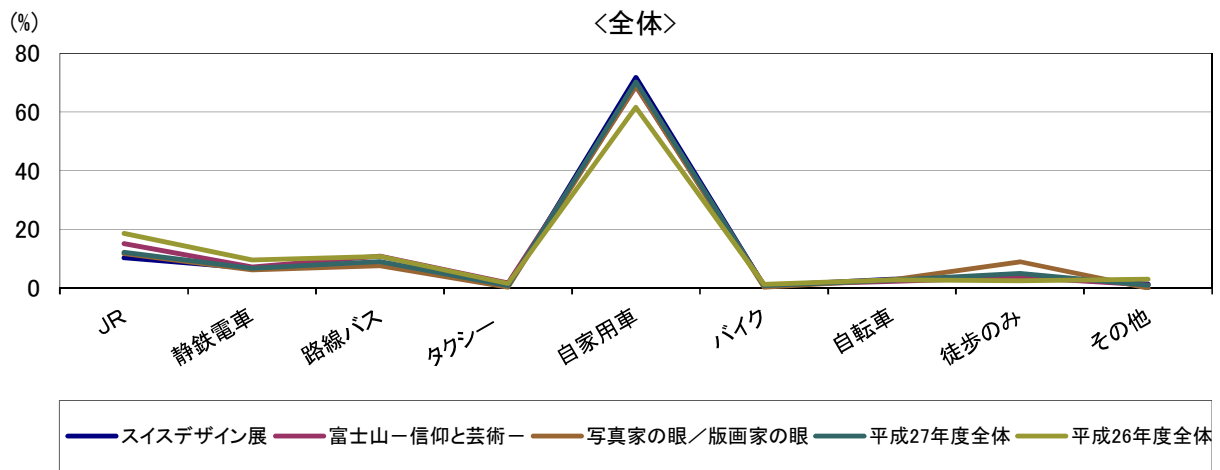
		件数 (件)	J R	静 鉄 電 車	路 線 バ ス	タ ク シ ー	自 家 用 車	バ イ ク	自 転 車	徒 歩 の み	そ の 他
平成 27 年度	スイスデザイン展	601	10.3	6.7	8.5	0.5	71.7	0.8	3.0	3.8	1.3
	富士山ー信仰と芸術ー	403	15.1	7.2	10.9	1.7	68.7	1.0	2.2	3.7	1.0
	写真家の眼／版画家の眼	290	11.7	6.2	7.6	0.3	69.0	0.3	2.8	9.0	0.0
経 年	平成 27 年度全体		12.1	6.7	9.0	0.9	70.2	0.8	2.7	4.9	0.9
	平成 26 年度全体		18.6	9.6	10.8	1.5	61.5	1.3	2.8	2.4	3.0
平成 26 年度	アニマルワールド	599	19.0	6.5	13.0	2.8	67.8	0.3	2.8	1.5	0.3
	美少女の美術史	508	22.6	13.8	10.2	0.4	54.1	2.4	2.8	2.8	1.6
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	331	11.8	8.8	7.6	0.9	61.6	1.2	2.7	3.6	10.0

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	J R	静 鉄 電 車	路 線 バ ス	タ ク シ ー	自 家 用 車	バ イ ク	自 転 車	徒 歩 の み	そ の 他
平成 27 年度	スイスデザイン展	137	10.2	6.6	13.9	0.0	66.4	0.0	4.4	3.6	4.4
	富士山ー信仰と芸術ー	66	24.2	7.6	21.2	6.1	50.0	0.0	1.5	7.6	3.0
	写真家の眼／版画家の眼	53	20.8	3.8	13.2	1.9	56.6	0.0	0.0	13.2	0.0
経 年	平成 27 年度全体		16.0	6.3	15.6	2.0	60.2	0.0	2.7	6.6	3.1
	平成 26 年度全体		30.3	10.3	14.7	3.9	49.6	0.5	1.2	1.0	4.9
平成 26 年度	アニマルワールド	176	26.1	6.3	18.8	6.8	60.2	0.0	0.6	0.0	1.1
	美少女の美術史	154	38.3	14.3	13.0	0.6	42.2	1.3	1.9	1.3	1.9
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	79	24.1	11.4	8.9	3.8	40.5	0.0	1.3	2.5	19.0

単位：%



利用交通機関について〈全体〉は、平成27年度は「自家用車」が70.2%と最も高く、次いで「JR」12.1%、「路線バス」9.0%の順になっている。

〈新規来館者〉は、平成27年度は「自家用車」が60.2%と最も高く、次いで「JR」16.0%、「路線バス」15.6%の順になっている。

⑥-2 公共交通機関の利用はスムーズであったか

全体

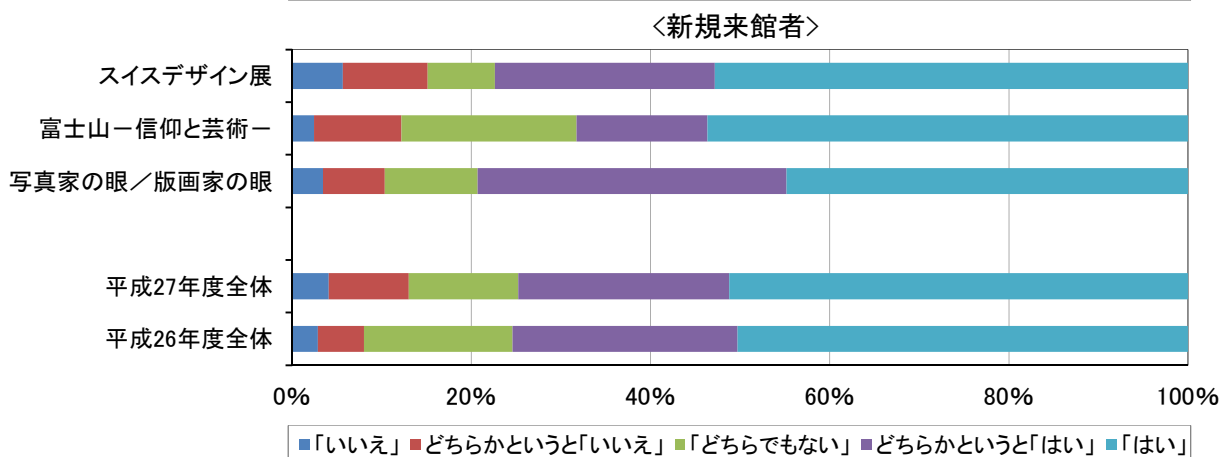
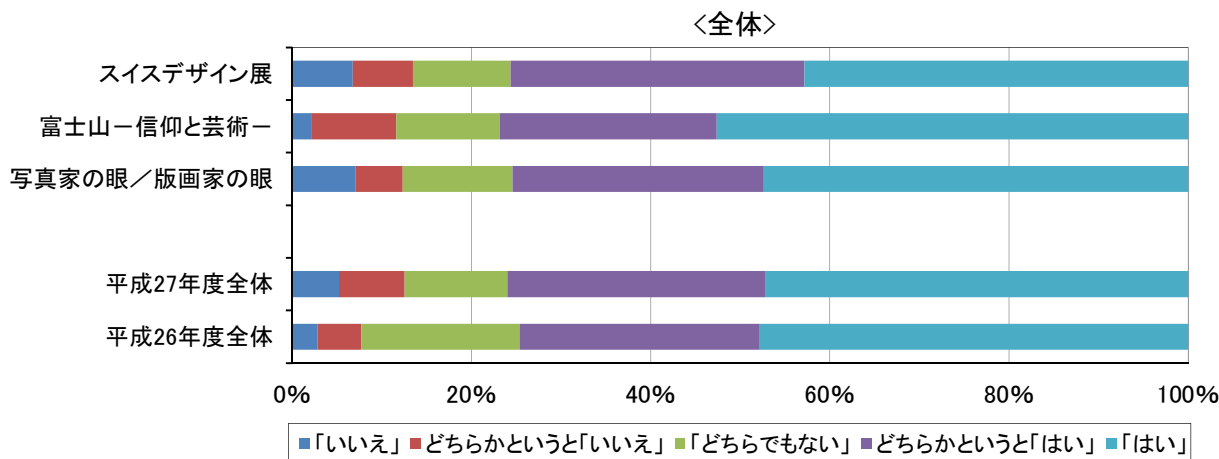
		件数 (件)	「はい」	「どちらかとい うと」「はい」	「どちらかとい うと」「はい」 でもない	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」
平成 27 年度	スイスデザイン展	119	6.7	6.7	10.9	32.8	42.9
	富士山－信仰と芸術－	95	2.1	9.5	11.6	24.2	52.6
	写真家の眼／版画家の眼	57	7.0	5.3	12.3	28.1	47.4
経 年	平成 27 年度全体		5.2	7.4	11.4	28.8	47.2
	平成 26 年度全体		2.8	4.9	17.7	26.7	47.9
平成 26 年度	アニマルワールド	165	2.4	7.3	19.4	26.7	44.2
	美少女の美術史	189	0.0	2.6	16.4	30.2	50.8
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	76	10.5	5.3	17.1	18.4	48.7

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「はい」	「どちらかとい うと」「はい」	「どちらかとい うと」「はい」 でもない	「どちらかとい うと」「はい」	「はい」
平成 27 年度	スイスデザイン展	53	5.7	9.4	7.5	24.5	52.8
	富士山－信仰と芸術－	41	2.4	9.8	19.5	14.6	53.7
	写真家の眼／版画家の眼	29	3.4	6.9	10.3	34.5	44.8
経 年	平成 27 年度全体		4.1	8.9	12.2	23.6	51.2
	平成 26 年度全体		2.9	5.1	16.6	25.1	50.3
平成 26 年度	アニマルワールド	67	4.5	6.0	19.4	28.4	41.8
	美少女の美術史	78	0.0	3.8	15.4	25.6	55.1
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	30	6.7	6.7	13.3	16.7	56.7

単位：%



公共交通機関の利用はスムーズであったかについて〈全体〉は、平成27年度は「どちらかという」「はい」「はい」を合わせた肯定的評価が76.0%となっている。肯定的評価は『富士山ー信仰と芸術ー』76.8%、『スイスデザイン展』75.7%、『写真家の眼／版画家の眼』75.5%の順になっている。一方、「いいえ」「どちらかという」「いいえ」を合わせた否定的評価は12.6%となっている。

〈新規来館者〉は、平成27年度は肯定的評価が74.8%となっている。肯定的評価は『写真家の眼／版画家の眼』79.3%、『スイスデザイン展』77.3%、『富士山ー信仰と芸術ー』68.3%の順になっている。否定的評価は13.0%となっている。

評価指標 35

公共交通機関で来館した人のアクセス満足度

美術館カルテ 26

公共交通機関で来館した人のアクセス満足度

平成27年度	スイスデザイン展	75.7
	富士山ー信仰と芸術ー	76.8
	写真家の眼／版画家の眼	75.5
経年	平成27年度全体	76.0
	平成26年度全体	74.6
平成26年度	アニマルワールド	70.9
	美少女の美術史	81.0
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	67.1

単位：%

⑥-3 自家用車の利用はスムーズであったか

全体

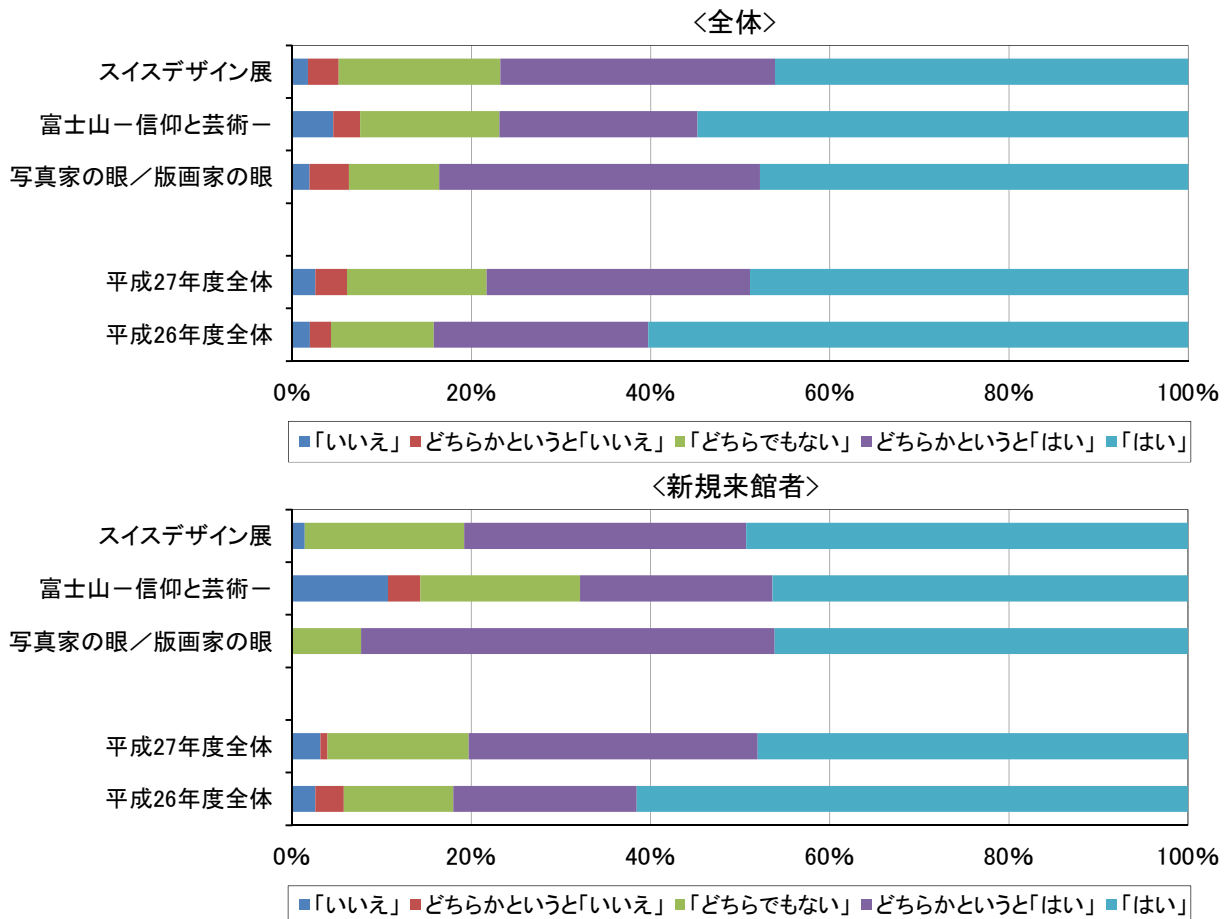
		件数 (件)	「はい」	「どちらか うと」「はい」	「どちら でもなく」	「どちらか うと」「はい」	「はい」
平成 27 年度	スイスデザイン展	349	1.7	3.4	18.1	30.7	46.1
	富士山－信仰と芸術－	199	4.5	3.0	15.6	22.1	54.8
	写真家の眼／版画家の眼	159	1.9	4.4	10.1	35.8	47.8
経 年	平成 27 年度全体		2.5	3.5	15.6	29.4	48.9
	平成 26 年度全体		1.9	2.4	11.5	23.9	60.3
平成 26 年度	アニマルワールド	315	2.9	2.5	11.4	25.7	57.5
	美少女の美術史	217	0.9	3.2	13.8	23.0	59.0
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	145	1.4	0.7	8.3	21.4	68.3

単位：%

新規来館者

		件数 (件)	「はい」	「どちらか うと」「はい」	「どちら でもなく」	「どちらか うと」「はい」	「はい」
平成 27 年度	スイスデザイン展	73	1.4	0.0	17.8	31.5	49.3
	富士山－信仰と芸術－	28	10.7	3.6	17.9	21.4	46.4
	写真家の眼／版画家の眼	26	0.0	0.0	7.7	46.2	46.2
経 年	平成 27 年度全体		3.1	0.8	15.7	32.3	48.0
	平成 26 年度全体		2.6	3.2	12.2	20.5	61.5
平成 26 年度	アニマルワールド	84	1.2	2.4	10.7	23.8	61.9
	美少女の美術史	49	2.0	6.1	18.4	20.4	53.1
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	23	8.7	0.0	4.3	8.7	78.3

単位：%



自家用車の利用はスムーズであったかについて〈全体〉は、平成 27 年度は「どちらかというとはいはい」「はい」を合わせた肯定的評価が 78.3%となっている。肯定的評価は『写真家の眼／版画家の眼』83.6%、『富士山－信仰と芸術－』76.9%、『スイスデザイン展』76.8%の順になっている。一方、「いいえ」「どちらかというといいえ」を合わせた否定的評価は 6.0%となっている。

〈新規来館者〉は、平成 27 年度は肯定的評価が 80.3%となっている。肯定的評価は『写真家の眼／版画家の眼』92.4%、『スイスデザイン展』80.8%、『富士山－信仰と芸術－』67.8%の順になっている。否定的評価は 3.9%となっている。

評価指標 35

自家用車で来館した人のアクセス満足度

美術館カルテ 27

自家用車で来館した人のアクセス満足度

平成 27 年度	スイスデザイン展	76.8
	富士山－信仰と芸術－	76.9
	写真家の眼／版画家の眼	83.6
経 年	平成 27 年度全体	78.3
	平成 26 年度全体	84.2
平成 26 年度	アニマルワールド	83.2
	美少女の美術史	82.0
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	89.7

単位：%

⑦ 全体的に見て、今回の来館は満足いただけたか（総合満足度）

全体

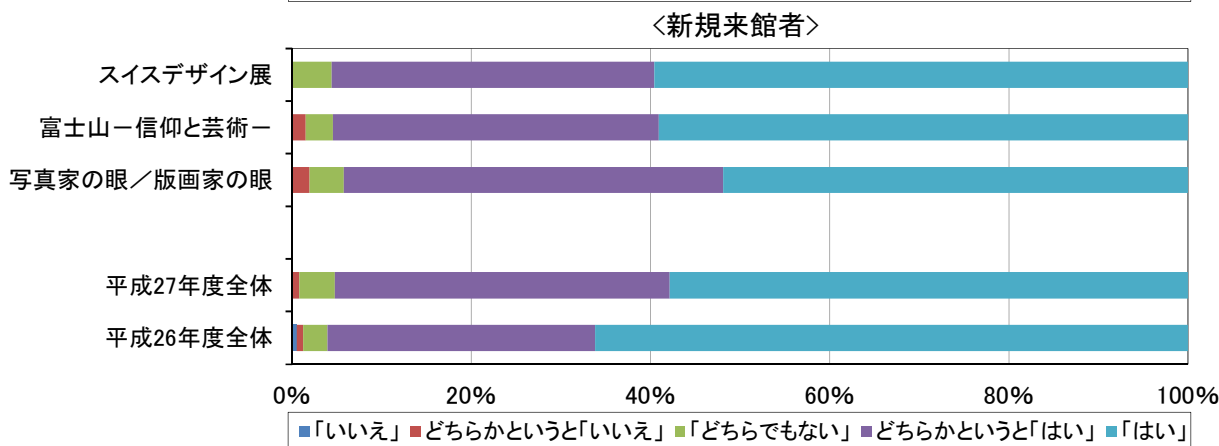
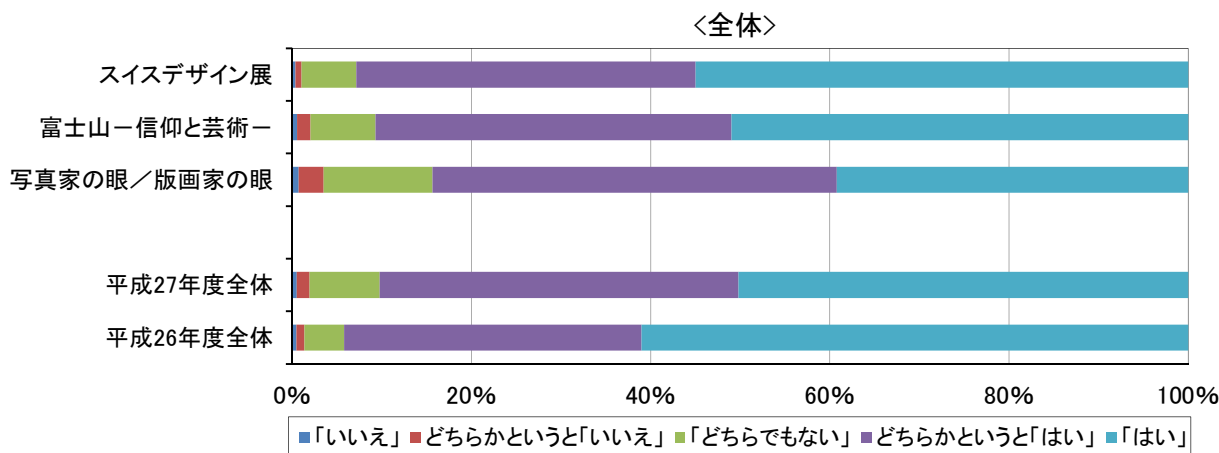
		件数 (件)	「いいえ」	どちらかとい うと「いいえ」	「どちららで もない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 27 年度	スイスデザイン展	591	0.3	0.7	6.1	37.9	55.0
	富士山－信仰と芸術－	398	0.5	1.5	7.3	39.7	51.0
	写真家の眼／版画家の眼	288	0.7	2.8	12.2	45.1	39.2
経 年	平成 27 年度全体		0.5	1.4	7.8	40.1	50.2
	平成 26 年度全体		0.4	0.9	4.4	33.2	61.0
平成 26 年度	アニマルワールド	596	0.0	0.3	4.0	29.4	66.3
	美少女の美術史	503	1.0	1.0	4.2	34.6	59.2
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	328	0.3	1.8	5.5	38.1	54.3

単位：％

新規来館者

		件数 (件)	「いいえ」	どちらかとい うと「いいえ」	「どちららで もない」	どちらかとい うと「はい」	「はい」
平成 27 年度	スイスデザイン展	136	0.0	0.0	4.4	36.0	59.6
	富士山－信仰と芸術－	66	0.0	1.5	3.0	36.4	59.1
	写真家の眼／版画家の眼	52	0.0	1.9	3.8	42.3	51.9
経 年	平成 27 年度全体		0.0	0.8	3.9	37.4	57.9
	平成 26 年度全体		0.5	0.7	2.7	29.9	66.2
平成 26 年度	アニマルワールド	177	0.0	0.0	2.3	28.8	68.9
	美少女の美術史	154	1.3	0.0	3.2	29.9	65.6
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	77	0.0	3.9	2.6	32.5	61.0

単位：％



総合満足度について〈全体〉は、平成27年度は「どちらかという はい」「はい」を合わせた肯定的評価が90.3%となっている。肯定的評価は『スイスデザイン展』92.9%、『富士山ー信仰と芸術ー』90.7%、『写真家の眼／版画家の眼』84.3%の順になっている。一方、「いいえ」「どちらかという いいえ」を合わせた否定的評価は1.9%となっている。

〈新規来館者〉は、平成27年度は肯定的評価が95.3%となっている。肯定的評価は『スイスデザイン展』95.6%、『富士山ー信仰と芸術ー』95.5%、『写真家の眼／版画家の眼』94.2%の順になっている。否定的評価は0.8%となっている。

美術館カルテ5

展覧会の満足度

美術館カルテ52

展覧会における新規観覧者の満足度

		展覧会の満足度	展覧会の満足度 (新規来館者)
平成27年度	スイスデザイン展	92.9	95.6
	富士山ー信仰と芸術ー	90.7	95.5
	写真家の眼／版画家の眼	84.3	94.2
経年	平成27年度全体	90.3	95.3
	平成26年度全体	94.2	96.1
平成26年度	アニマルワールド	95.7	97.7
	美少女の美術史	93.8	95.5
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	92.4	93.5

単位：%

⑧ 「風景の美術館」であることを知っているか

全体

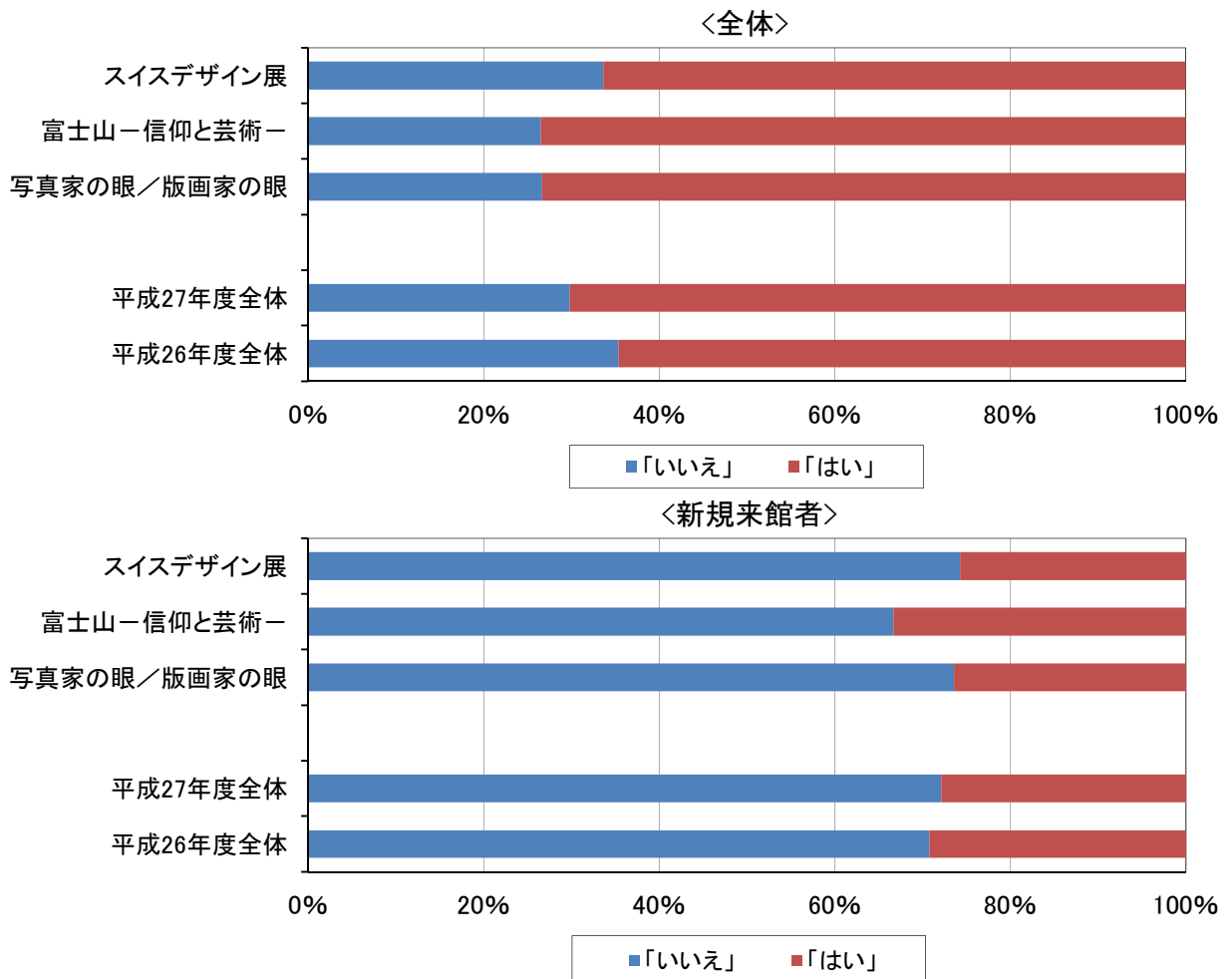
		件数 (件)	「いいえ」	「はい」
平成 27 年度	スイスデザイン展	598	33.6	66.4
	富士山－信仰と芸術－	400	26.5	73.5
	写真家の眼／版画家の眼	289	26.6	73.4
経 年	平成 27 年度全体		29.8	70.2
	平成 26 年度全体		35.4	64.6
平成 26 年度	アニマルワールド	598	33.9	66.1
	美少女の美術史	504	35.7	64.3
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	329	37.4	62.6

単位：％

新規来館者

		件数 (件)	「いいえ」	「はい」
平成 27 年度	スイスデザイン展	136	74.3	25.7
	富士山－信仰と芸術－	66	66.7	33.3
	写真家の眼／版画家の眼	53	73.6	26.4
経 年	平成 27 年度全体		72.2	27.8
	平成 26 年度全体		70.8	29.2
平成 26 年度	アニマルワールド	178	71.9	28.1
	美少女の美術史	154	68.2	31.8
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	79	73.4	26.6

単位：％



「風景とロダンの美術館」の認知について〈全体〉は、平成27年度は「はい」70.2%、「いいえ」29.8%となっている。

〈新規来館者〉は、平成27年度は「はい」27.8%、「いいえ」72.2%となっている。

美術館カルテ 23

風景の美術館としての認知度

平成27年度	スイスデザイン展	66.4
	富士山ー信仰と芸術ー	73.5
	写真家の眼／版画家の眼	73.4
経年	平成27年度全体	70.2
	平成26年度全体	64.6
平成26年度	アニマルワールド	66.1
	美少女の美術史	64.3
	静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学	62.6

単位：%

5 レストランアンケート結果

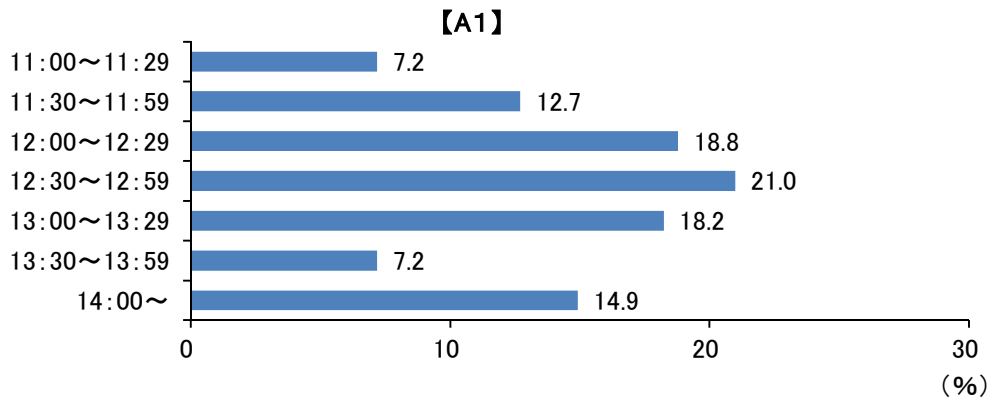
(1) 実施数 (回答数)

スイスデザイン展	59 件
富士山－信仰と芸術－	62 件
写真家の眼／版画家の眼	60 件
合計	181 件

(2) アンケート結果

A 1 入店時刻

		全 体	11:00 ～11:29	11:30 ～11:59	12:00 ～12:29	12:30 ～12:59	13:00 ～13:29	13:30 ～13:59	14:00 ～
平成 27 年度	回答数 (件)	181	13	23	34	38	33	13	27
	割合 (%)	100.0	7.2	12.7	18.8	21.0	18.2	7.2	14.9
平成 26 年度	回答数 (件)	193	8	31	39	34	34	27	20
	割合 (%)	100.0	4.1	16.1	20.2	17.6	17.6	14.0	10.4



A 2 注文内容

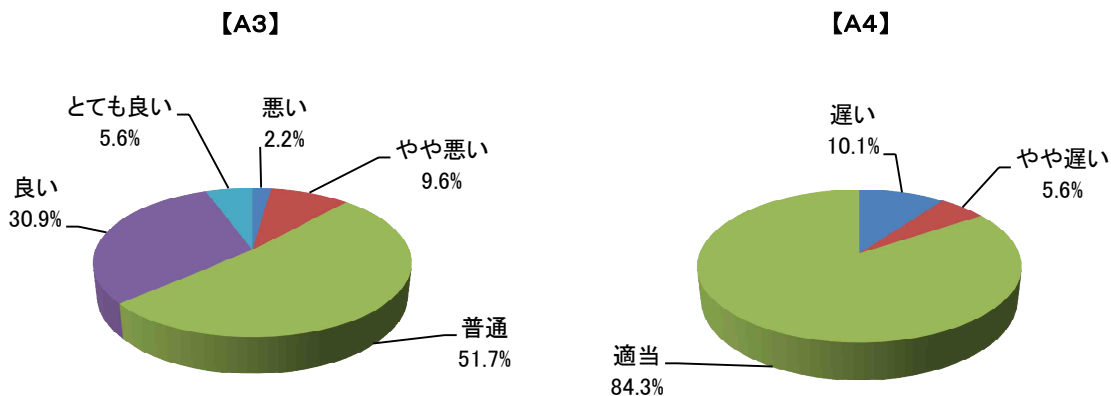
注文した料理	回答数 (件)	注文した料理	回答数 (件)
エスタセット	86 件	静岡県産牛肉の赤ワイン煮込み	3 件
ロダンセット	38 件	デザートプレート	3 件
富士サーモンのムニエル	13 件	ケーキセット	2 件
本日のパスタ	12 件	アップルタイザー	1 件
有頭海老のカダイフ巻きと帆立貝柱の炙り	9 件	季節の地場野菜彩りサラダ	1 件
ミュゼスペシャリテ	6 件	オレンジジュース	1 件
コーヒー	5 件	グレープフルーツジュース	1 件
デザートセット	5 件	紅茶	1 件
お子様ランチ	4 件	ワイン	1 件
バルバリー種鴨胸肉のコンフィ	4 件		

A 3 案内表示のわかりやすさ

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
平成 27年度	回答数(件)	178	4	17	92	55	10
	割合(%)	100.0	2.2	9.6	51.7	30.9	5.6
平成 26年度	回答数(件)	190	4	32	96	45	13
	割合(%)	100.0	2.1	16.8	50.5	23.7	6.8

A 4 席に案内するまでの時間

		全体	遅い	やや遅い	適当
平成 27年度	回答数(件)	178	18	10	150
	割合(%)	100.0	10.1	5.6	84.3
平成 26年度	回答数(件)	190	4	11	175
	割合(%)	100.0	2.1	5.8	92.1



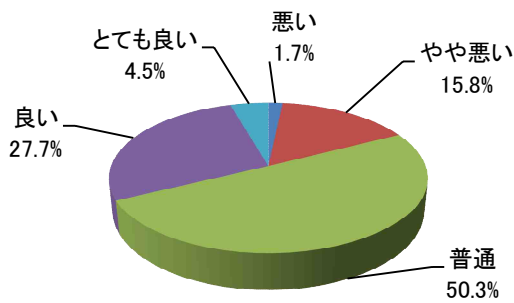
A 5 メニューの種類

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
平成 27年度	回答数(件)	177	3	28	89	49	8
	割合(%)	100.0	1.7	15.8	50.3	27.7	4.5
平成 26年度	回答数(件)	192	5	23	88	61	15
	割合(%)	100.0	2.6	12.0	45.8	31.8	7.8

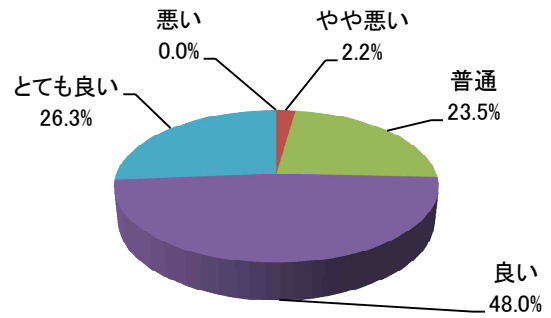
A 6 味

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
平成 27年度	回答数(件)	179	0	4	42	86	47
	割合(%)	100.0	0.0	2.2	23.5	48.0	26.3
平成 26年度	回答数(件)	192	1	7	32	98	54
	割合(%)	100.0	0.5	3.6	16.7	51.0	28.1

【A5】



【A6】



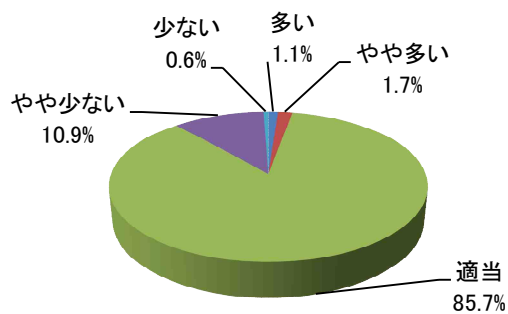
A7 量

		全体	多い	やや多い	適当	やや少ない	少ない
平成 27年度	回答数(件)	175	2	3	150	19	1
	割合(%)	100.0	1.1	1.7	85.7	10.9	0.6
平成 26年度	回答数(件)	191	2	4	163	21	1
	割合(%)	100.0	1.0	2.1	85.3	11.0	0.5

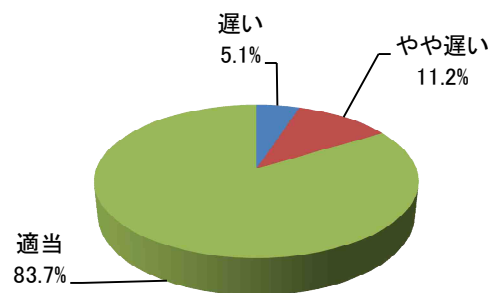
A8 料理が出るまでの時間

		全体	遅い	やや遅い	適当
平成 27年度	回答数(件)	178	9	20	149
	割合(%)	100.0	5.1	11.2	83.7
平成 26年度	回答数(件)	192	6	11	175
	割合(%)	100.0	3.1	5.7	91.1

【A7】



【A8】



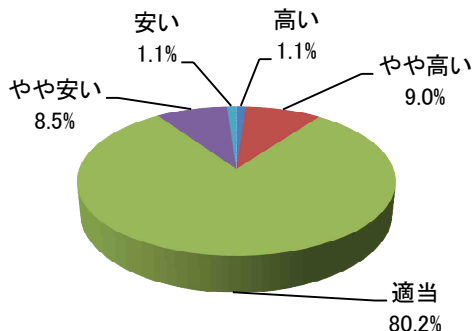
A9 値段

		全体	高い	やや高い	適当	やや安い	安い
平成 27年度	回答数(件)	177	2	16	142	15	2
	割合(%)	100.0	1.1	9.0	80.2	8.5	1.1
平成 26年度	回答数(件)	189	0	21	149	13	6
	割合(%)	100.0	0.0	11.1	78.8	6.9	3.2

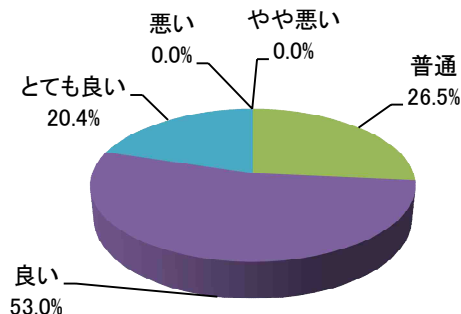
A10 店の雰囲気、清潔さ

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
平成27年度	回答数(件)	181	0	0	48	96	37
	割合(%)	100.0	0.0	0.0	26.5	53.0	20.4
平成26年度	回答数(件)	192	0	2	37	97	56
	割合(%)	100.0	0.0	1.0	19.3	50.5	29.2

【A9】



【A10】



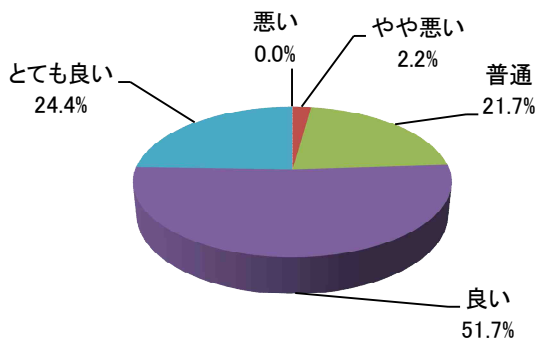
A11 従業員の言葉遣いや態度

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
平成27年度	回答数(件)	180	0	4	39	93	44
	割合(%)	100.0	0.0	2.2	21.7	51.7	24.4
平成26年度	回答数(件)	193	2	3	34	93	61
	割合(%)	100.0	1.0	1.6	17.6	48.2	31.6

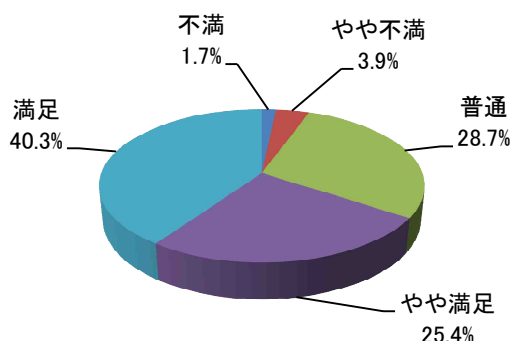
A12 満足度

		全体	不満	やや不満	普通	やや満足	満足
平成27年度	回答数(件)	181	3	7	52	46	73
	割合(%)	100.0	1.7	3.9	28.7	25.4	40.3
平成26年度	回答数(件)	193	3	10	39	50	91
	割合(%)	100.0	1.6	5.2	20.2	25.9	47.2

【A11】



【A12】



A13 不満や改善点（略）

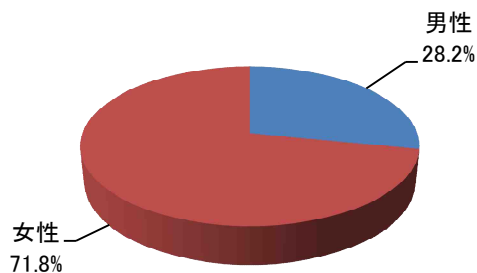
B 1 性別

		全体	男性	女性
平成 27年度	回答数（件）	181	51	130
	割合（％）	100.0	28.2	71.8
平成 26年度	回答数（件）	193	54	139
	割合（％）	100.0	28.0	72.0

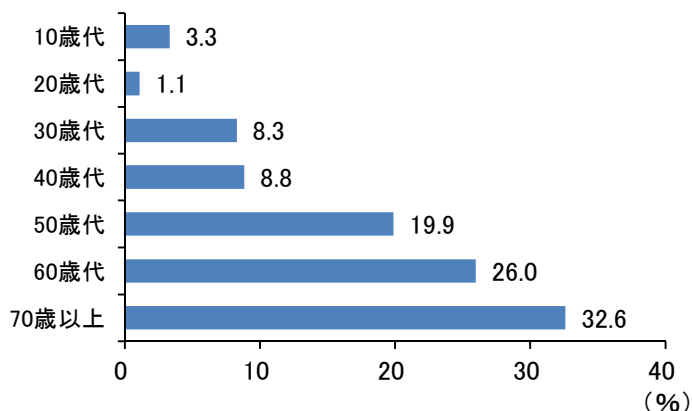
B 2 年齢

		全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
平成 27年度	回答数（件）	181	6	2	15	16	36	47	59
	割合（％）	100.0	3.3	1.1	8.3	8.8	19.9	26.0	32.6
平成 26年度	回答数（件）	193	9	14	13	25	28	59	45
	割合（％）	100.0	4.7	7.3	6.7	13.0	14.5	30.6	23.3

【B1】



【B2】

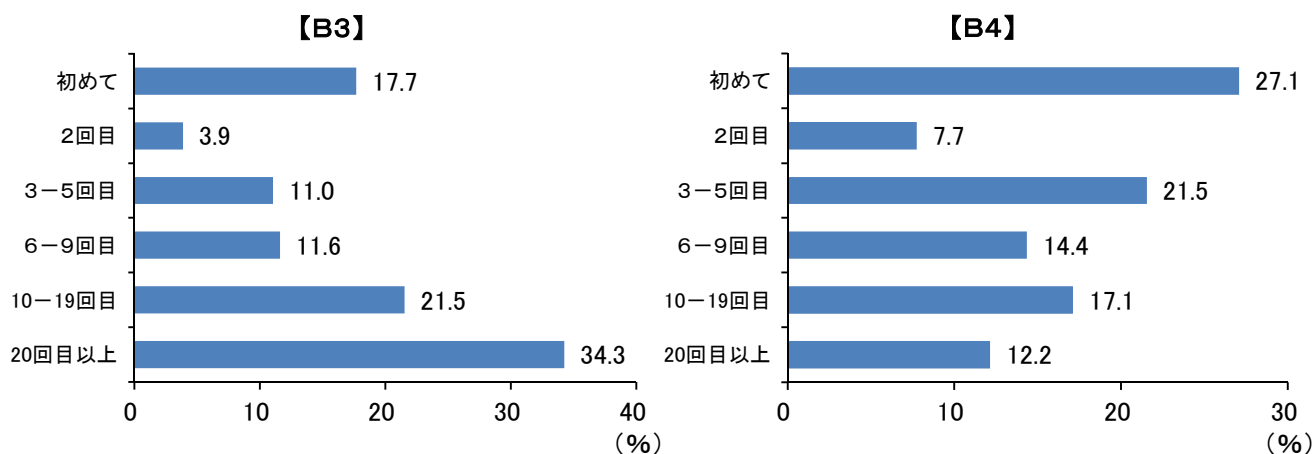


B 3 来館回数

		全体	初めて	2回目	3-5回目	6-9回目	10-19回目	20回目以上
平成 27年度	回答数（件）	181	32	7	20	21	39	62
	割合（％）	100.0	17.7	3.9	11.0	11.6	21.5	34.3
平成 26年度	回答数（件）	193	37	19	34	25	31	47
	割合（％）	100.0	19.2	9.8	17.6	13.0	16.1	24.4

B 4 レストランの利用回数

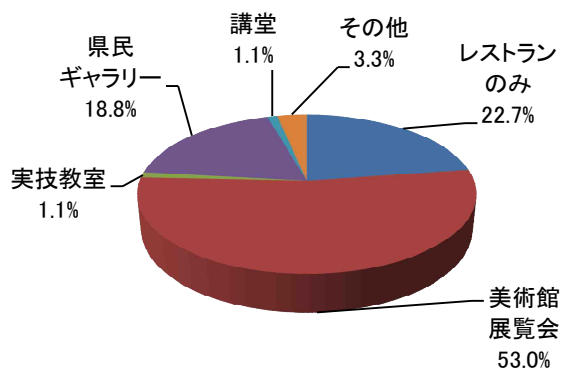
		全体	初めて	2回目	3-5回目	6-9回目	10-19回目	20回目以上
平成 27年度	回答数（件）	181	49	14	39	26	31	22
	割合（％）	100.0	27.1	7.7	21.5	14.4	17.1	12.2
平成 26年度	回答数（件）	193	76	25	40	17	18	17
	割合（％）	100.0	39.4	13.0	20.7	8.8	9.3	8.8



B 5 主な来館目的

		全体	レストランのみ	美術館 展覧会	実技教室	県民ギャ ラリー	講堂	その他
平成 27年度	回答数(件)	181	41	96	2	34	2	6
	割合 (%)	100.0	22.7	53.0	1.1	18.8	1.1	3.3
平成 26年度	回答数(件)	193	33	134	0	17	1	8
	割合 (%)	100.0	17.1	69.4	0.0	8.8	0.5	4.1

【B5】



6 カフェアンケート結果

(1) 実施数 (回答数)

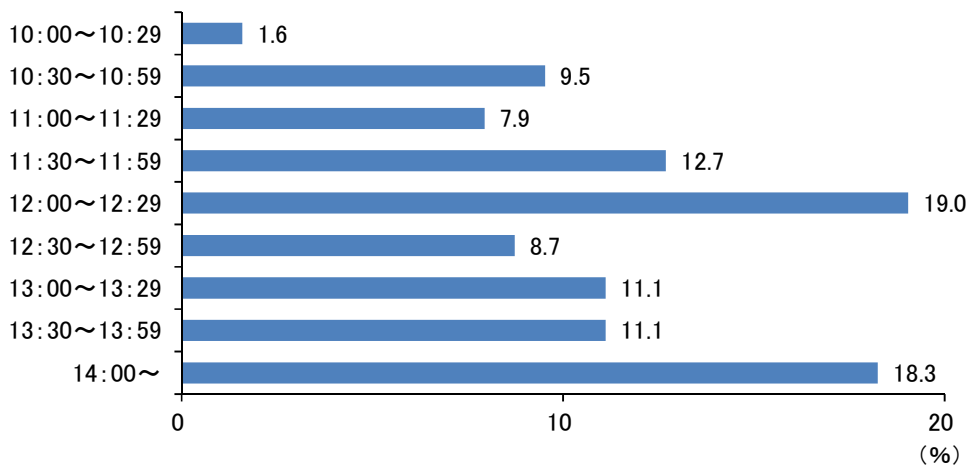
スイスデザイン展	42 件
富士山ー信仰と芸術ー	48 件
写真家の眼／版画家の眼	36 件
合計	126 件

(2) アンケート結果

A 1 入店時刻

		全体	10:00 ～ 10:29	10:30 ～ 10:59	11:00 ～ 11:29	11:30 ～ 11:59	12:00 ～ 12:29	12:30 ～ 12:59	13:00 ～ 13:29	13:30 ～ 13:59	14:00 ～
平成 27年度	回答数 (件)	126	2	12	10	16	24	11	14	14	23
	割合 (%)	100.0	1.6	9.5	7.9	12.7	19.0	8.7	11.1	11.1	18.3
平成 26年度	回答数 (件)	121	2	2	2	9	20	24	19	13	30
	割合 (%)	100.0	1.7	1.7	1.7	7.4	16.5	19.8	15.7	10.7	24.8

【A1】



A 2 注文内容

注文した料理	回答数 (件)	注文した料理	回答数 (件)
コーヒー	61 件	アイスクリーム	2 件
ホットプレスサンド	30 件	クリームソーダ	2 件
サンドイッチ	14 件	コーヒーフロート	2 件
アイスコーヒー	10 件	ジュース	2 件
紅茶	10 件	静岡県産豚のリエット	2 件
ケーキ	9 件	ペッパーポークホットプレスサンド	2 件
お茶のシフォンケーキ	9 件	アイスカフェオレ	1 件
ドリンクセット	8 件	アイ스티ー	1 件
プリン	8 件	あんぱん	1 件
カフェオレ	7 件	グレープフルーツジュース	1 件
パン	4 件	ゼリー	1 件
オレンジジュース	3 件	デザート	1 件
ツナホットプレスサンド	3 件	ミルクティー	1 件
ドーナツ	3 件	レモンティー	1 件
ベーグル	3 件		

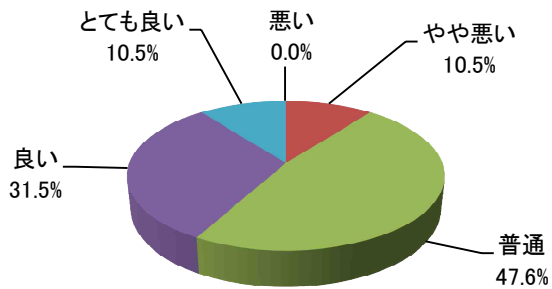
A 3 案内表示のわかりやすさ

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
平成 27年度	回答数(件)	124	0	13	59	39	13
	割合(%)	100.0	0.0	10.5	47.6	31.5	10.5
平成 26年度	回答数(件)	119	1	15	48	43	12
	割合(%)	100.0	0.8	12.6	40.3	36.1	10.1

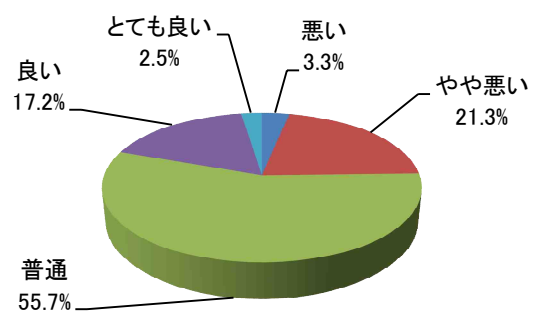
A 4 メニューの種類

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
平成 27年度	回答数(件)	122	4	26	68	21	3
	割合(%)	100.0	3.3	21.3	55.7	17.2	2.5
平成 26年度	回答数(件)	116	0	36	65	13	2
	割合(%)	100.0	0.0	31.0	56.0	11.2	1.7

【A3】



【A4】

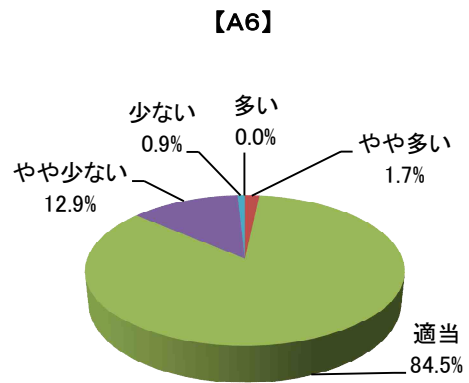
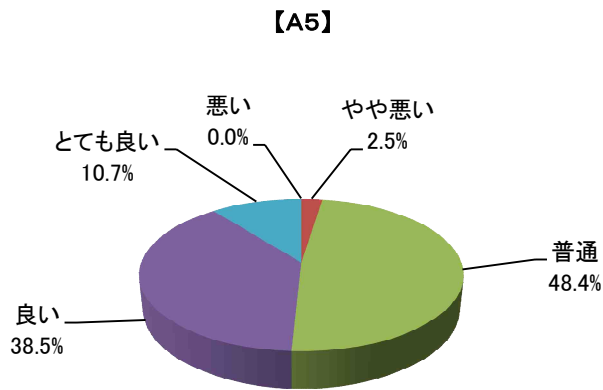


A 5 味

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
平成 27年度	回答数(件)	122	0	3	59	47	13
	割合(%)	100.0	0.0	2.5	48.4	38.5	10.7
平成 26年度	回答数(件)	115	0	3	34	59	19
	割合(%)	100.0	0.0	2.6	29.6	51.3	16.5

A 6 量

		全体	多い	やや多い	適当	やや少ない	少ない
平成 27年度	回答数(件)	116	0	2	98	15	1
	割合(%)	100.0	0.0	1.7	84.5	12.9	0.9
平成 26年度	回答数(件)	114	1	1	80	26	6
	割合(%)	100.0	0.9	0.9	70.2	22.8	5.3

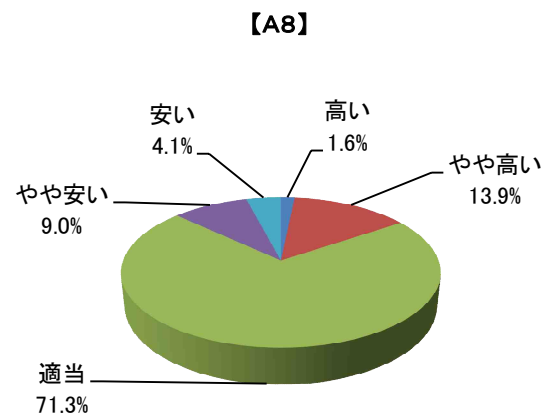
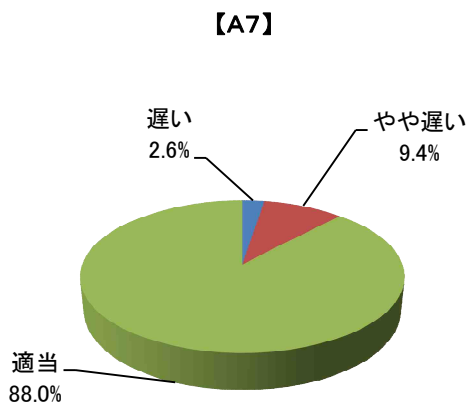


A 7 料理が出るまでの時間

		全体	遅い	やや遅い	適当
平成 27年度	回答数(件)	117	3	11	103
	割合(%)	100.0	2.6	9.4	88.0
平成 26年度	回答数(件)	113	3	10	100
	割合(%)	100.0	2.7	8.8	88.5

A 8 値段

		全体	高い	やや高い	適当	やや安い	安い
平成 27年度	回答数(件)	122	2	17	87	11	5
	割合(%)	100.0	1.6	13.9	71.3	9.0	4.1
平成 26年度	回答数(件)	116	0	16	86	8	6
	割合(%)	100.0	0.0	13.8	74.1	6.9	5.2



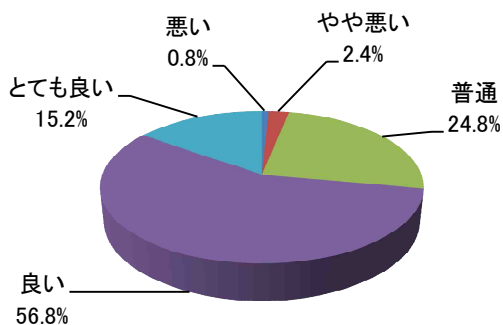
A 9 店の雰囲気、清潔さ

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
平成 27年度	回答数(件)	125	1	3	31	71	19
	割合(%)	100.0	0.8	2.4	24.8	56.8	15.2
平成 26年度	回答数(件)	120	0	2	18	69	31
	割合(%)	100.0	0.0	1.7	15.0	57.5	25.8

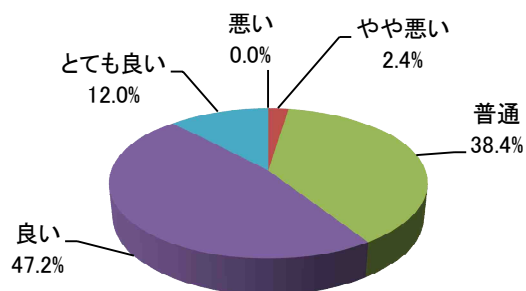
A 10 従業員の言葉遣いや態度

		全体	悪い	やや悪い	普通	良い	とても良い
平成 27年度	回答数(件)	125	0	3	48	59	15
	割合(%)	100.0	0.0	2.4	38.4	47.2	12.0
平成 26年度	回答数(件)	116	0	3	43	51	19
	割合(%)	100.0	0.0	2.6	37.1	44.0	16.4

【A9】



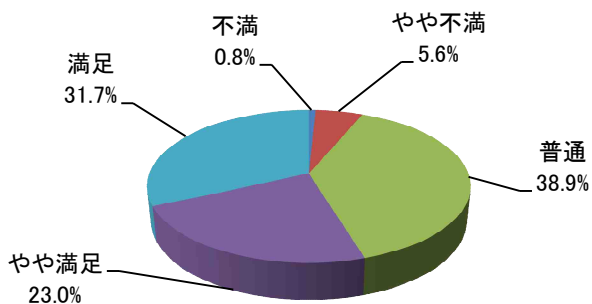
【A10】



A 11 満足度

		全体	不満	やや不満	普通	やや満足	満足
平成 27年度	回答数(件)	126	1	7	49	29	40
	割合(%)	100.0	0.8	5.6	38.9	23.0	31.7
平成 26年度	回答数(件)	121	1	4	36	45	35
	割合(%)	100.0	0.8	3.3	29.8	37.2	28.9

【A11】



A 12 不満や改善点 (略)

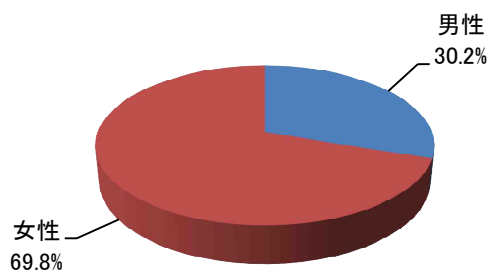
B 1 性別

		全体	男性	女性
平成 27年度	回答数(件)	126	38	88
	割合(%)	100.0	30.2	69.8
平成 26年度	回答数(件)	121	31	90
	割合(%)	100.0	25.6	74.4

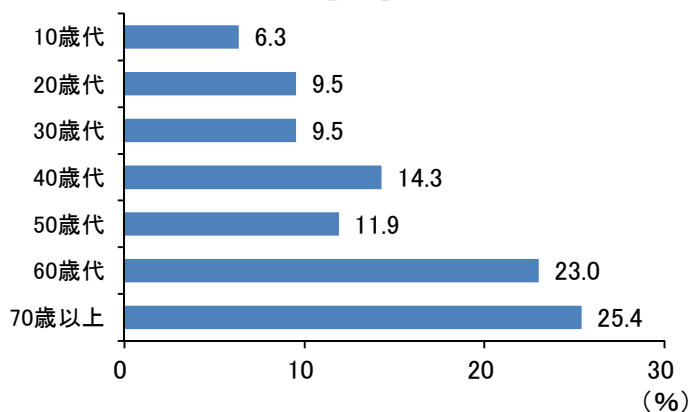
B 2 年齢

		全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
平成 27年度	回答数(件)	126	8	12	12	18	15	29	32
	割合(%)	100.0	6.3	9.5	9.5	14.3	11.9	23.0	25.4
平成 26年度	回答数(件)	121	5	12	15	19	14	33	23
	割合(%)	100.0	4.1	9.9	12.4	15.7	11.6	27.3	19.0

【B1】



【B2】

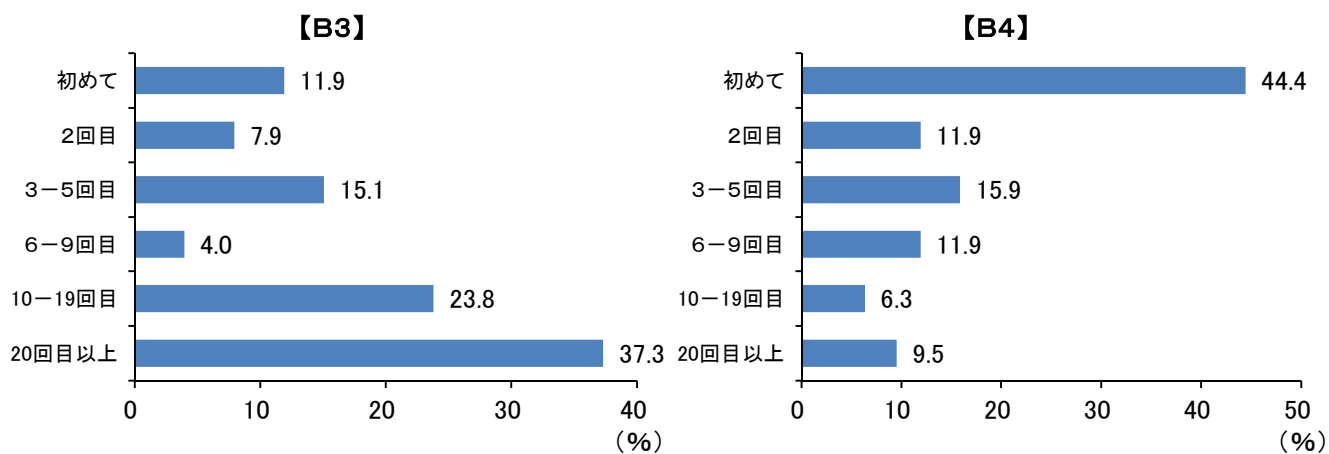


B 3 来館回数

		全体	初めて	2回目	3-5回目	6-9回目	10-19回目	20回目以上
平成 27年度	回答数(件)	126	15	10	19	5	30	47
	割合(%)	100.0	11.9	7.9	15.1	4.0	23.8	37.3
平成 26年度	回答数(件)	121	19	8	17	21	23	33
	割合(%)	100.0	15.7	6.6	14.0	17.4	19.0	27.3

B 4 カフェの利用回数

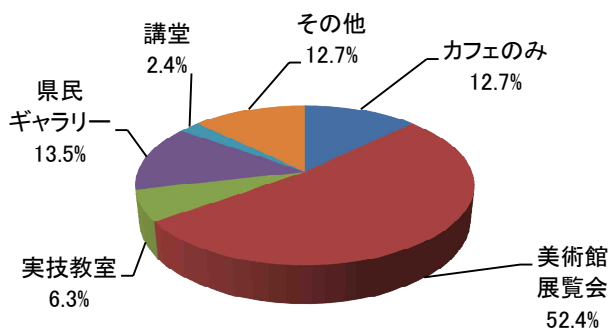
		全体	初めて	2回目	3-5回目	6-9回目	10-19回目	20回目以上
平成 27年度	回答数(件)	126	56	15	20	15	8	12
	割合(%)	100.0	44.4	11.9	15.9	11.9	6.3	9.5
平成 26年度	回答数(件)	121	60	18	26	11	5	1
	割合(%)	100.0	49.6	14.9	21.5	9.1	4.1	0.8



B 5 主な来館目的

		全体	カフェのみ	美術館 展覧会	実技教室	県民ギャ ラリー	講堂	その他
平成 27年度	回答数(件)	126	16	66	8	17	3	16
	割合(%)	100.0	12.7	52.4	6.3	13.5	2.4	12.7
平成 26年度	回答数(件)	121	25	59	2	18	3	14
	割合(%)	100.0	20.7	48.8	1.7	14.9	2.5	11.6

【B5】



7 ミュージアム・ショップアンケート結果

(1) 実施数 (回答数)

スイスデザイン展	88 件
富士山－信仰と芸術－	50 件
写真家の眼／版画家の眼	53 件
合計	191 件

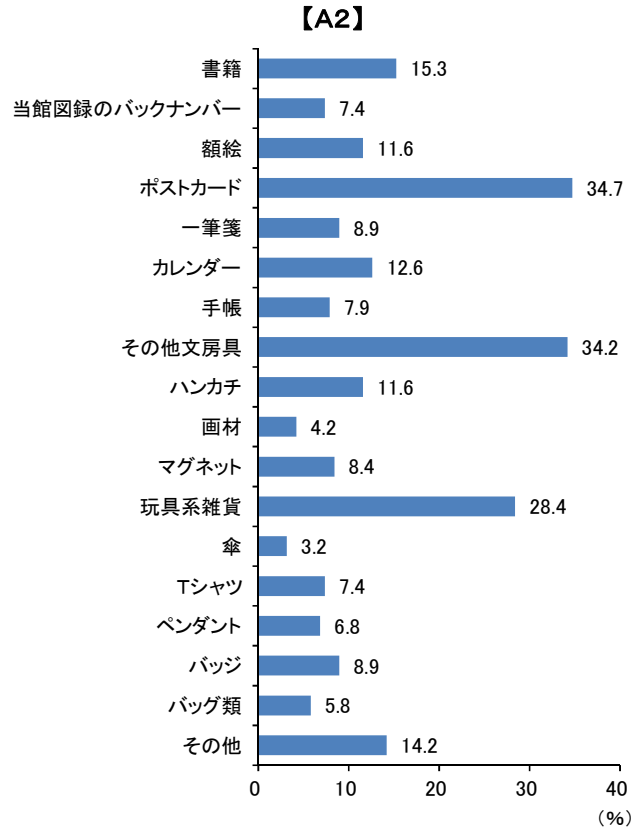
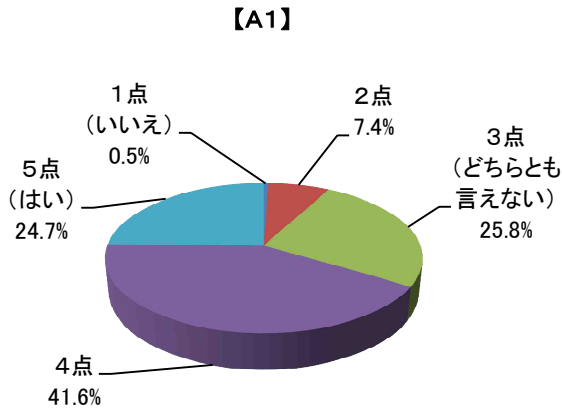
(2) アンケート結果

A 1 品揃えの充実

		全体	1 点 (いいえ)	2 点	3 点 (どちらとも 言えない)	4 点	5 点 (はい)
平成 27 年度	回答数 (件)	190	1	14	49	79	47
	割合 (%)	100.0	0.5	7.4	25.8	41.6	24.7
平成 26 年度	回答数 (件)	186	3	6	58	75	44
	割合 (%)	100.0	1.6	3.2	31.2	40.3	23.7

A 2 充実してほしい商品 (複数回答)

		全体	書籍	当館図録 のバック ナンバー	額絵	ポストカ ード	一筆箋	カレンダ ー
平成 27 年度	回答数 (件)	190	29	14	22	66	17	24
	割合 (%)	100.0	15.3	7.4	11.6	34.7	8.9	12.6
平成 26 年度	回答数 (件)	187	42	20	19	72	20	26
	割合 (%)	100.0	22.5	10.7	10.2	38.5	10.7	13.9
		手帳	その他文 房具	ハンカチ	画材	マグネッ ト	玩具系雑 貨	傘
平成 27 年度	回答数 (件)	15	65	22	8	16	54	6
	割合 (%)	7.9	34.2	11.6	4.2	8.4	28.4	3.2
平成 26 年度	回答数 (件)	8	53	23	15	13	30	9
	割合 (%)	4.3	28.3	12.3	8.0	7.0	16.0	4.8
		T シャツ	ペンダント	バッジ	バッグ類	その他		
平成 27 年度	回答数 (件)	14	13	17	11	27		
	割合 (%)	7.4	6.8	8.9	5.8	14.2		
平成 26 年度	回答数 (件)	15	13	13	18	24		
	割合 (%)	8.0	7.0	7.0	9.6	12.8		

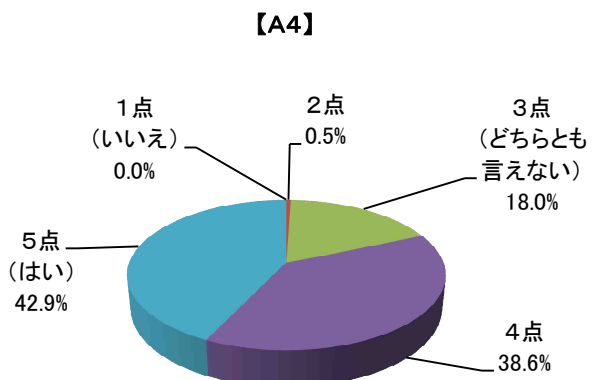
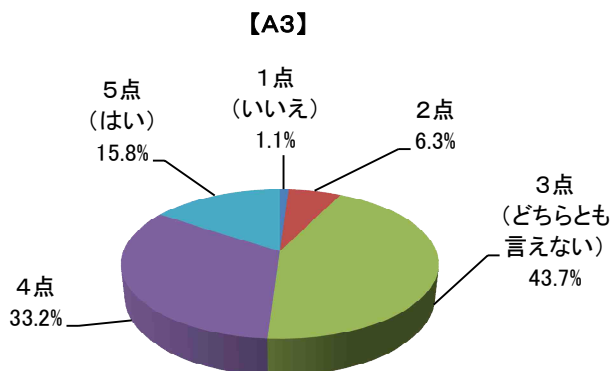


A 3 価格は適当か

		全体	1点 (いいえ)	2点	3点 (どちらとも言えない)	4点	5点 (はい)
平成27年度	回答数 (件)	190	2	12	83	63	30
	割合 (%)	100.0	1.1	6.3	43.7	33.2	15.8
平成26年度	回答数 (件)	191	3	10	83	62	33
	割合 (%)	100.0	1.6	5.2	43.5	32.5	17.3

A 4 従業員の対応

		全体	1点 (いいえ)	2点	3点 (どちらとも言えない)	4点	5点 (はい)
平成27年度	回答数 (件)	189	0	1	34	73	81
	割合 (%)	100.0	0.0	0.5	18.0	38.6	42.9
平成26年度	回答数 (件)	188	1	3	31	65	88
	割合 (%)	100.0	0.5	1.6	16.5	34.6	46.8



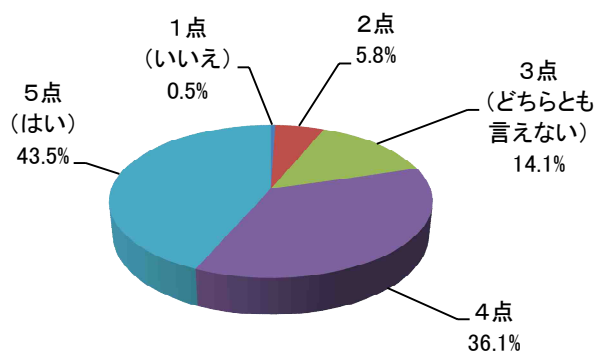
A 5 静岡県立美術館にふさわしい雰囲気か

		全体	1点 (いいえ)	2点	3点 (どちらとも 言えない)	4点	5点 (はい)
平成 27年度	回答数(件)	191	1	11	27	69	83
	割合(%)	100.0	0.5	5.8	14.1	36.1	43.5
平成 26年度	回答数(件)	189	0	5	24	74	86
	割合(%)	100.0	0.0	2.6	12.7	39.2	45.5

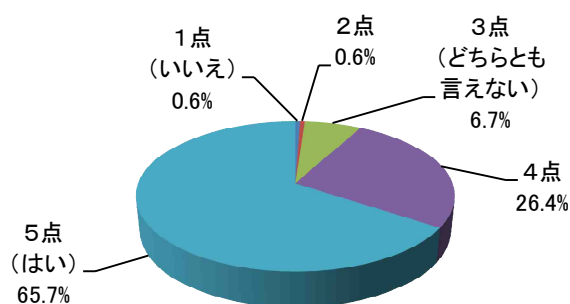
A 6 次回も来店したいか(満足度)

		全体	1点 (いいえ)	2点	3点 (どちらとも 言えない)	4点	5点 (はい)
平成 27年度	回答数(件)	178	1	1	12	47	117
	割合(%)	100.0	0.6	0.6	6.7	26.4	65.7
平成 26年度	回答数(件)	187	1	5	18	52	111
	割合(%)	100.0	0.5	2.7	9.6	27.8	59.4

【A5】



【A6】



A 7 ご意見・ご感想(略)

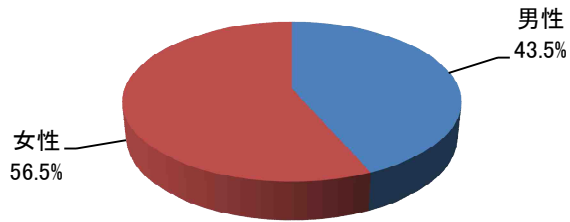
B 1 性別

		全体	男性	女性
平成 27年度	回答数(件)	191	83	108
	割合(%)	100.0	43.5	56.5
平成 26年度	回答数(件)	191	67	124
	割合(%)	100.0	35.1	64.9

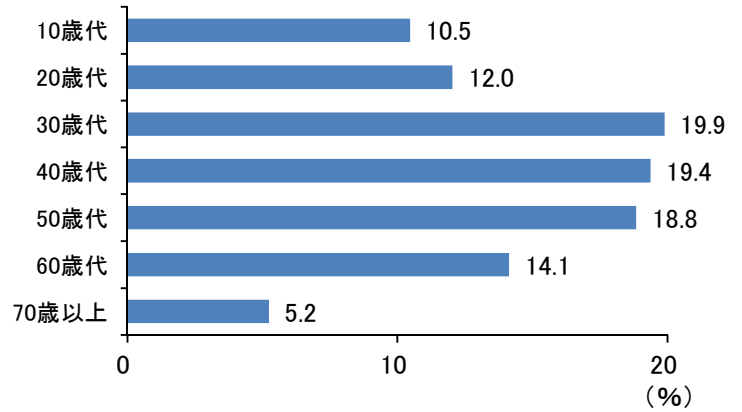
B 2 年齢

		全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
平成 27年度	回答数(件)	191	20	23	38	37	36	27	10
	割合(%)	100.0	10.5	12.0	19.9	19.4	18.8	14.1	5.2
平成 26年度	回答数(件)	191	29	16	17	48	35	30	16
	割合(%)	100.0	15.2	8.4	8.9	25.1	18.3	15.7	8.4

【B1】



【B2】



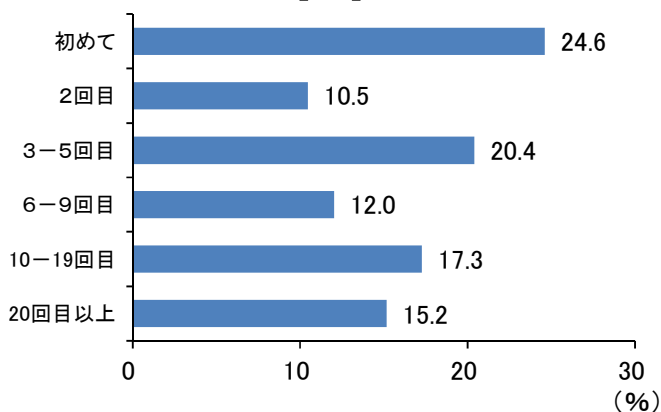
B3 来館回数

		全体	初めて	2回目	3-5回目	6-9回目	10-19回目	20回目以上
平成27年度	回答数(件)	191	47	20	39	23	33	29
	割合(%)	100.0	24.6	10.5	20.4	12.0	17.3	15.2
平成26年度	回答数(件)	191	65	10	26	28	34	28
	割合(%)	100.0	34.0	5.2	13.6	14.7	17.8	14.7

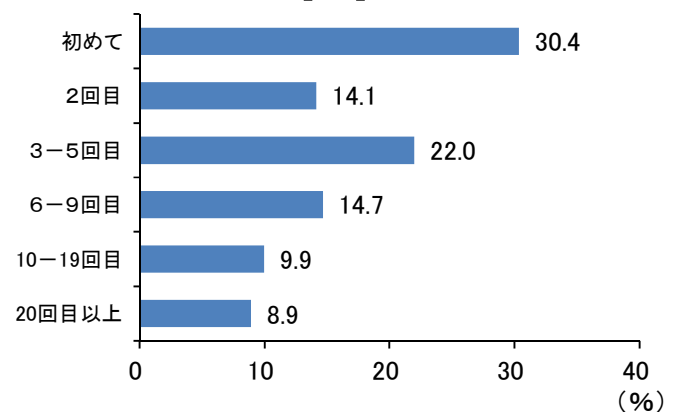
B4 ミュージアム・ショップの利用回数

		全体	初めて	2回目	3-5回目	6-9回目	10-19回目	20回目以上
平成27年度	回答数(件)	191	58	27	42	28	19	17
	割合(%)	100.0	30.4	14.1	22.0	14.7	9.9	8.9
平成26年度	回答数(件)	190	74	14	33	31	23	15
	割合(%)	100.0	38.9	7.4	17.4	16.3	12.1	7.9

【B3】



【B4】



8 美術館ホームページアンケート結果

(1) 実施数 (回答数)

75 件

(2) アンケート結果

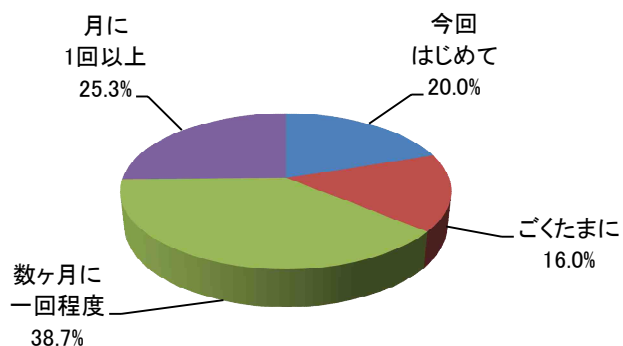
問1. 当ホームページをどのくらいの頻度でご覧になりますか？

		全体	今回 はじめて	ごくたまに	数ヶ月に 1回程度	月に1回 以上
平成 27年度	回答数(件)	75	15	12	29	19
	割合(%)	100.0	20.0	16.0	38.7	25.3
平成 26年度	回答数(件)	189	47	29	53	60
	割合(%)	100.0	24.9	15.3	28.0	31.7

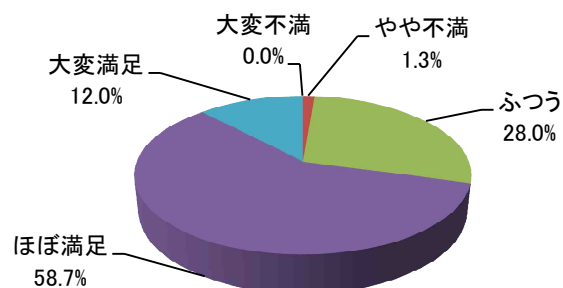
問2. 当ホームページの情報内容について

		全体	大変不満	やや不満	ふつう	ほぼ満足	大変満足
平成 27年度	回答数(件)	75	0	1	21	44	9
	割合(%)	100.0	0.0	1.3	28.0	58.7	12.0
平成 26年度	回答数(件)	189	1	7	44	105	32
	割合(%)	100.0	0.5	3.7	23.3	55.6	16.9

【問1】



【問2】



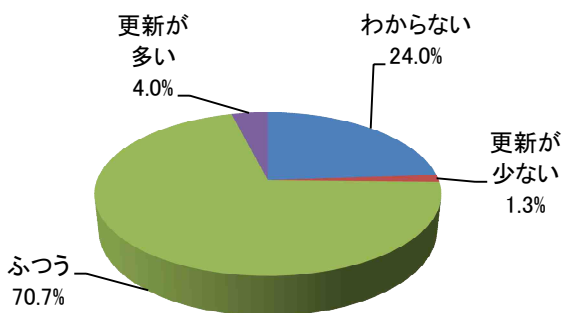
問3. 当ホームページの更新頻度について

		全体	わからない	更新が少ない	ふつう	更新が多い
平成27年度	回答数(件)	75	18	1	53	3
	割合(%)	100.0	24.0	1.3	70.7	4.0
平成26年度	回答数(件)	189	57	3	117	12
	割合(%)	100.0	30.2	1.6	61.9	6.3

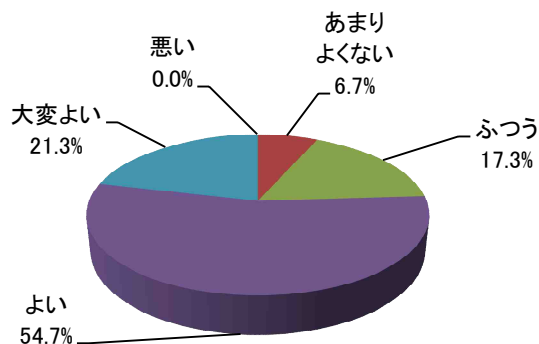
問4. 当ホームページのデザインについて

		全体	悪い	あまりよくない	ふつう	よい	大変よい
平成27年度	回答数(件)	75	0	5	13	41	16
	割合(%)	100.0	0.0	6.7	17.3	54.7	21.3
平成26年度	回答数(件)	189	0	7	38	91	53
	割合(%)	100.0	0.0	3.7	20.1	48.1	28.0

【問3】



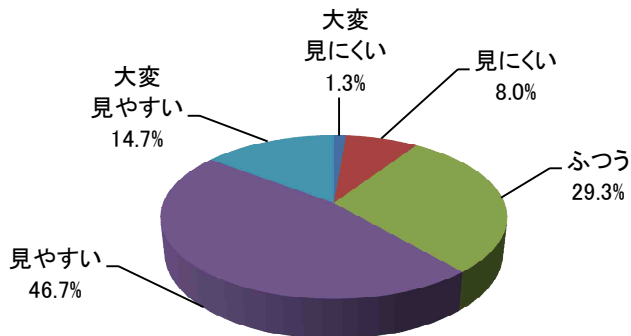
【問4】



問5. 当ホームページの見やすさについて

		全体	大変見にくい	見にくい	ふつう	見やすい	大変見やすい
平成27年度	回答数(件)	75	1	6	22	35	11
	割合(%)	100.0	1.3	8.0	29.3	46.7	14.7
平成26年度	回答数(件)	189	0	5	51	110	23
	割合(%)	100.0	0.0	2.6	27.0	58.2	12.2

【問5】



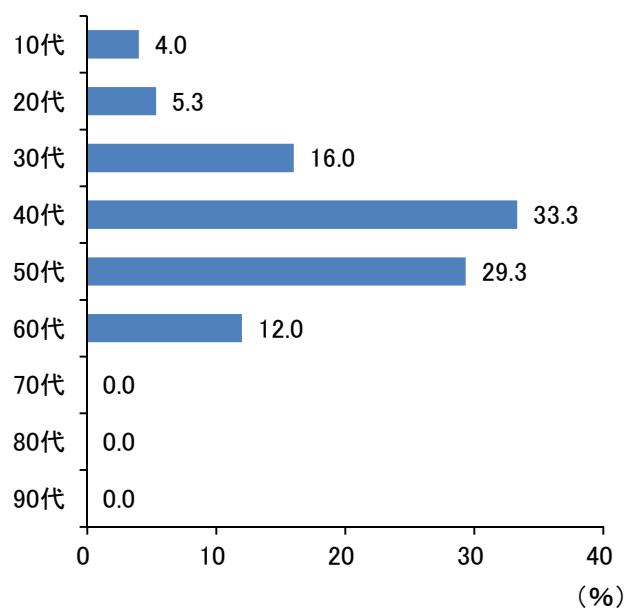
※1 年齢

		全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
平成27年度	回答数(件)	75	3	4	12	25	22	9	0	0	0
	割合(%)	100.0	4.0	5.3	16.0	33.3	29.3	12.0	0.0	0.0	0.0
平成26年度	回答数(件)	189	6	17	47	51	46	19	2	1	0
	割合(%)	100.0	3.2	9.0	24.9	27.0	24.3	10.1	1.1	0.5	0.0

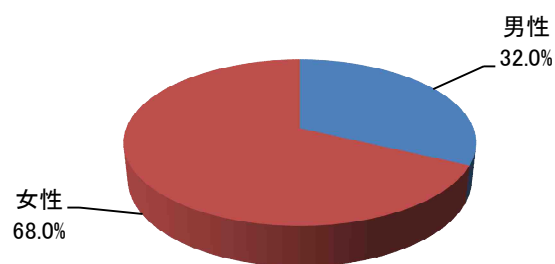
※2 性別

		全体	男性	女性
平成27年度	回答数(件)	75	24	51
	割合(%)	100.0	32.0	68.0
平成26年度	回答数(件)	189	50	139
	割合(%)	100.0	26.5	73.5

【※1】



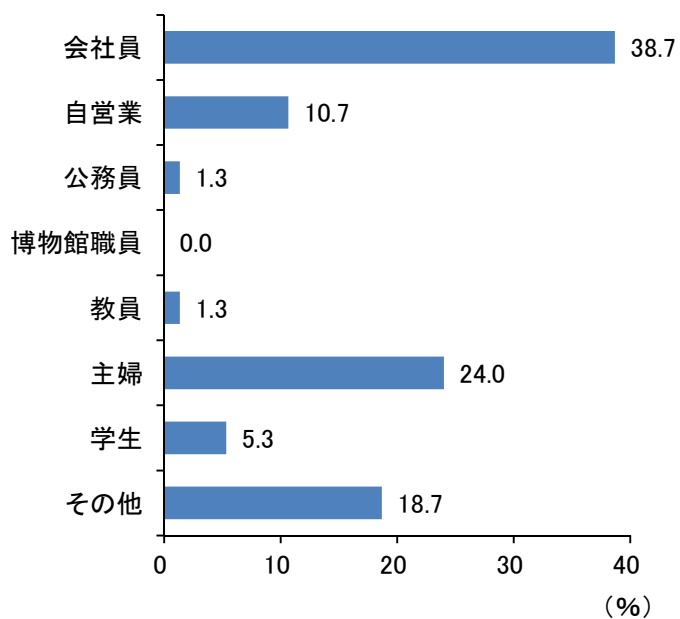
【※2】



※3 職業

		全体	会社員	自営業	公務員	博物館職員	教員	主婦	学生	その他
平成 27年度	回答数(件)	75	29	8	1	0	1	18	4	14
	割合(%)	100.0	38.7	10.7	1.3	0.0	1.3	24.0	5.3	18.7
平成 26年度	回答数(件)	189	67	9	6	0	4	65	9	29
	割合(%)	100.0	35.4	4.8	3.2	0.0	2.1	34.4	4.8	15.3

【※3】



9 自由意見

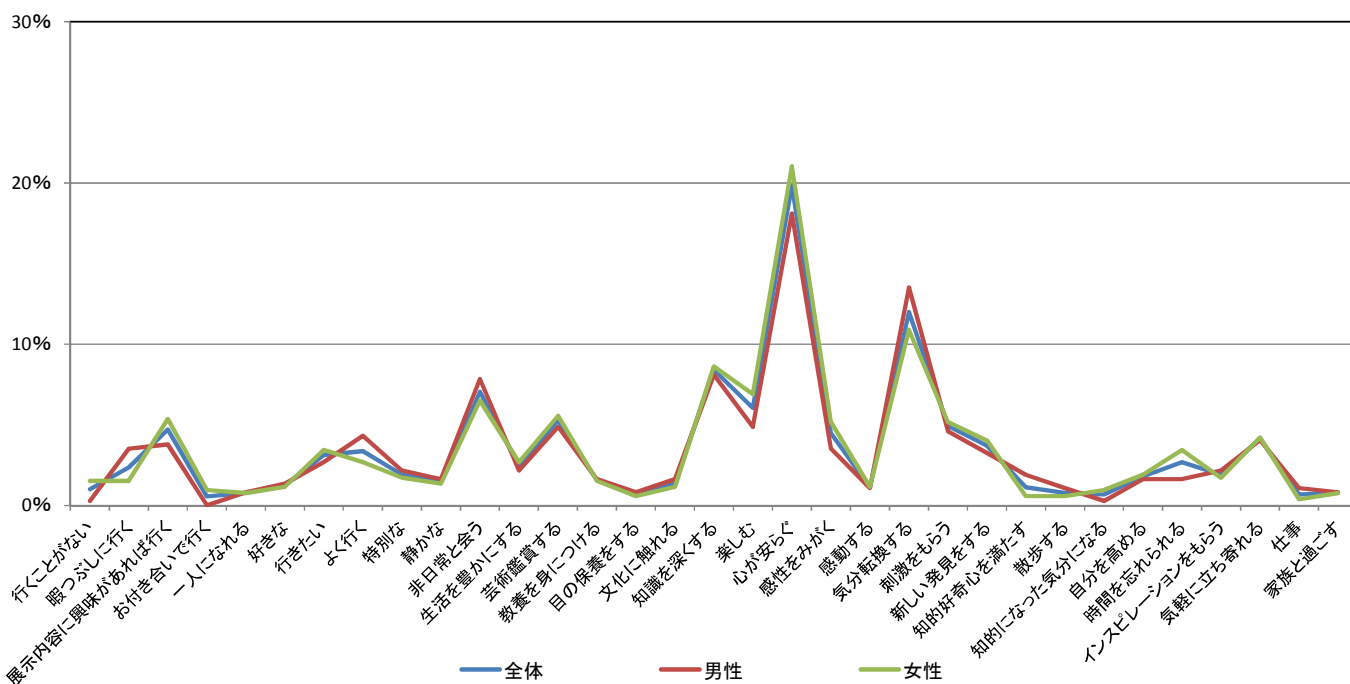
(1) 生活において「美術館」の存在・位置付け

あなたの生活において「美術館」はどのような存在・位置付けですか。とたずねたところ、893 件の自由意見があり、主要なキーワードを元に分類した。74 項目の分類の内、少数回答を除いた 33 項目について集計し掲載する。

<性別による比較>

分類	全体	男性	女性
件数(件)	893	370	523
行くことがない	1.0	0.3	1.5
暇つぶしに行く	2.4	3.5	1.5
展示内容に興味があれば行く	4.7	3.8	5.4
お付き合いで行く	0.6	0.0	1.0
一人になれる	0.8	0.8	0.8
好きな	1.2	1.4	1.1
行きたい	3.1	2.7	3.4
よく行く	3.4	4.3	2.7
特別な	1.9	2.2	1.7
静かな	1.5	1.6	1.3
非日常と会う	7.1	7.8	6.5
生活を豊かにする	2.5	2.2	2.7
芸術鑑賞する	5.3	4.9	5.5
教養を身につける	1.6	1.6	1.5
目の保養をする	0.7	0.8	0.6
文化に触れる	1.3	1.6	1.1
知識を深くする	8.4	8.1	8.6
楽しむ	6.0	4.9	6.9
心が安らぐ	19.8	18.1	21.0
感性をみがく	4.5	3.5	5.2
感動する	1.1	1.1	1.1
気分転換する	12.0	13.5	10.9
刺激をもらう	4.9	4.6	5.2
新しい発見をする	3.7	3.2	4.0
知的好奇心を満たす	1.1	1.9	0.6
散歩する	0.8	1.1	0.6
知的になった気分になる	0.7	0.3	1.0
自分を高める	1.8	1.6	1.9
時間を忘れられる	2.7	1.6	3.4
インスピレーションをもらう	1.9	2.2	1.7
気軽に立ち寄れる	4.1	4.1	4.2
仕事	0.7	1.1	0.4
家族と過ごす	0.8	0.8	0.8

単位：%



	全体		男性		女性	
1位	心が安らぐ	19.8	心が安らぐ	18.1	心が安らぐ	21.0
2位	気分転換する	12.0	気分転換する	13.5	気分転換する	10.9
3位	知識を深くする	8.4	知識を深くする	8.1	知識を深くする	8.6
4位	非日常と会う	7.1	非日常と会う	7.8	楽しむ	6.9
5位	楽しむ	6.0	芸術鑑賞する	4.9	非日常と会う	6.5
			楽しむ			

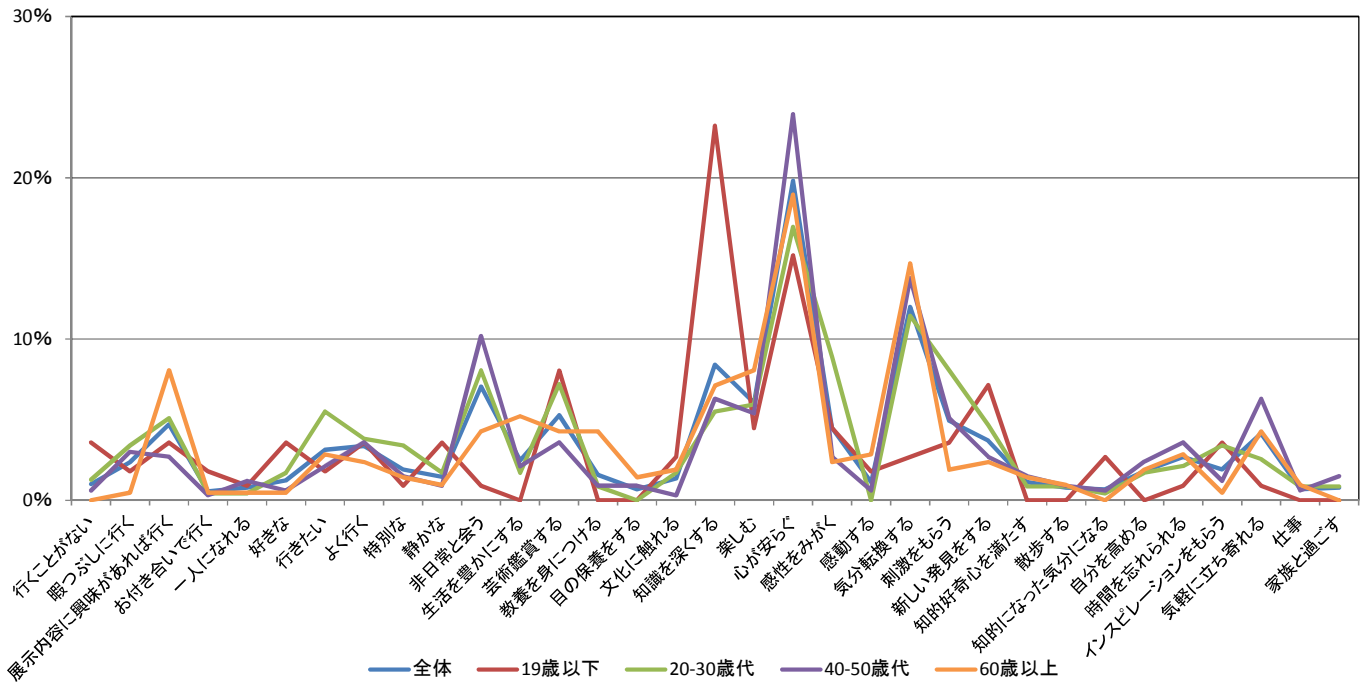
単位：%

性別による比較は、＜男性＞では、「心が安らぐ」18.1%、「気分転換する」13.5%、「知識を深くする」8.1%、「非日常と会う」7.8%、「芸術鑑賞する」「楽しむ」4.9%の順になっている。＜女性＞では、「心が安らぐ」21.0%、「気分転換する」10.9%、「知識を深くする」8.6%、「楽しむ」6.9%、「非日常と会う」6.5%の順になっている。＜全体＞との差異は、＜男性＞では5位「芸術鑑賞する」4.9%となっている。＜女性＞では、4位「楽しむ」6.9%、5位「非日常と会う」6.5%となっている。

<年齢層による比較>

分類	全体	19歳以下	20-30歳代	40-50歳代	60歳以上
件数(件)	893	112	236	334	211
行くことがない	1.0	3.6	1.3	0.6	0.0
暇つぶしに行く	2.4	1.8	3.4	3.0	0.5
展示内容に興味があれば行く	4.7	3.6	5.1	2.7	8.1
お付き合いで行く	0.6	1.8	0.4	0.3	0.5
一人になれる	0.8	0.9	0.4	1.2	0.5
好きな	1.2	3.6	1.7	0.6	0.5
行きたい	3.1	1.8	5.5	2.1	2.8
よく行く	3.4	3.6	3.8	3.6	2.4
特別な	1.9	0.9	3.4	1.5	1.4
静かな	1.5	3.6	1.7	0.9	0.9
非日常と会う	7.1	0.9	8.1	10.2	4.3
生活を豊かにする	2.5	0.0	1.7	2.1	5.2
芸術鑑賞する	5.3	8.0	7.2	3.6	4.3
教養を身につける	1.6	0.0	0.8	0.9	4.3
目の保養をする	0.7	0.0	0.0	0.9	1.4
文化に触れる	1.3	2.7	1.7	0.3	1.9
知識を深くする	8.4	23.2	5.5	6.3	7.1
楽しむ	6.0	4.5	5.9	5.4	8.1
心が安らぐ	19.8	15.2	16.9	24.0	19.0
感性をみがく	4.5	4.5	8.9	2.7	2.4
感動する	1.1	1.8	0.0	0.6	2.8
気分転換する	12.0	2.7	11.4	13.8	14.7
刺激をもらう	4.9	3.6	8.1	5.1	1.9
新しい発見をする	3.7	7.1	4.7	2.7	2.4
知的好奇心を満たす	1.1	0.0	0.8	1.5	1.4
散歩する	0.8	0.0	0.8	0.9	0.9
知的になった気分になる	0.7	2.7	0.4	0.6	0.0
自分を高める	1.8	0.0	1.7	2.4	1.9
時間を忘れられる	2.7	0.9	2.1	3.6	2.8
インスピレーションをもらう	1.9	3.6	3.4	1.2	0.5
気軽に立ち寄れる	4.1	0.9	2.5	6.3	4.3
仕事	0.7	0.0	0.8	0.6	0.9
家族と過ごす	0.8	0.0	0.8	1.5	0.0

単位：%



	全体		19歳以下		20-30歳代		40-50歳代		60歳以上	
1位	心が安らぐ	19.8	知識を深くする	23.2	心が安らぐ	16.9	心が安らぐ	24.0	心が安らぐ	19.0
2位	気分転換する	12.0	心が安らぐ	15.2	気分転換する	11.4	気分転換する	13.8	気分転換する	14.7
3位	知識を深くする	8.4	芸術鑑賞する	8.0	感性をみがく	8.9	非日常と会う	10.2	楽しむ	8.1
4位	非日常と会う	7.1	新しい発見をする	7.1	非日常と会う	8.1	知識を深くする	6.3	展示内容に興味があれば行く	
5位	楽しむ	6.0	楽しむ 感性をみがく	4.5	刺激をもらう		気軽に立ち寄れる		知識を深くする	7.1

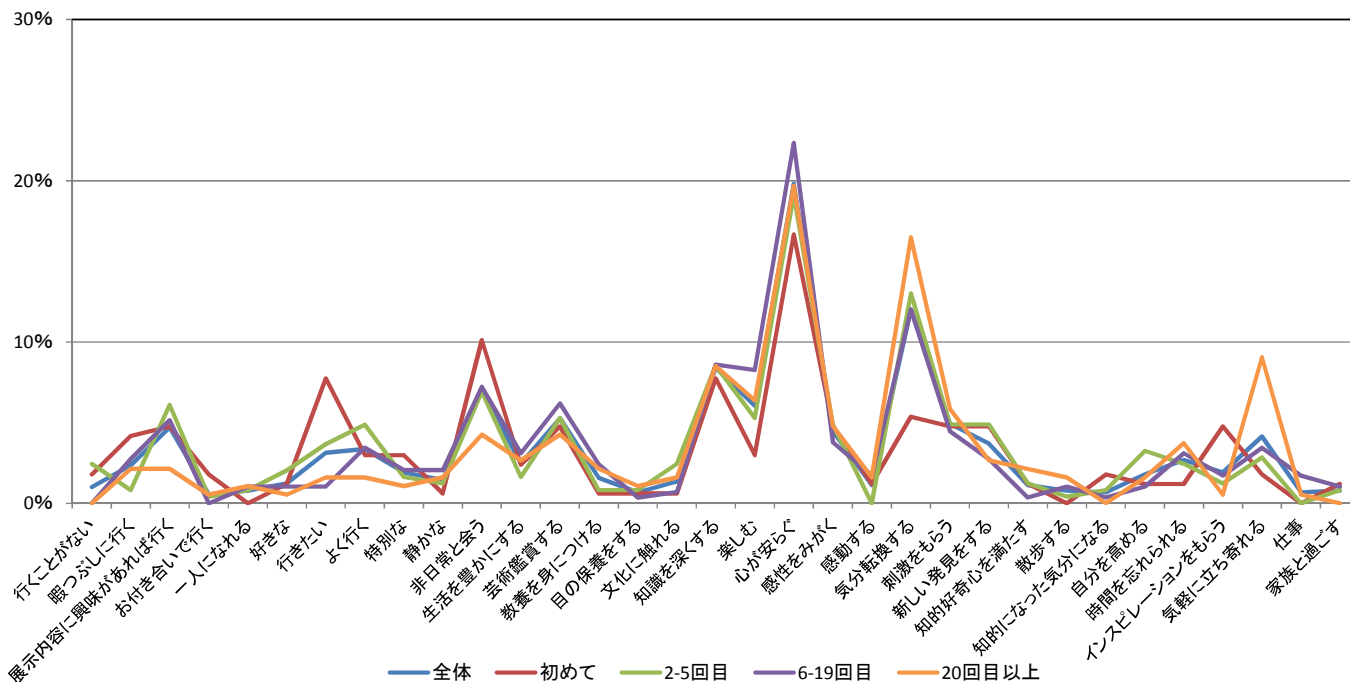
単位：%

年齢による比較は、<19歳以下>では、「知識を深くする」23.2%、「心が安らぐ」15.2%、「芸術鑑賞する」8.0%、「新しい発見をする」7.1%、「楽しむ」「感性をみがく」4.5%の順になっている。<20-30歳代>では、「心が安らぐ」16.9%、「気分転換する」11.4%、「感性をみがく」8.9%、「非日常と会う」「刺激をもらう」8.1%の順になっている。<40-50歳代>では、「心が安らぐ」24.0%、「気分転換する」13.8%、「非日常と会う」10.2%、「知識を深くする」「気軽に立ち寄れる」6.3%の順になっている。<60歳以上>では、「心が安らぐ」19.0%、「気分転換する」14.7%、「楽しむ」「展示内容に興味があれば行く」8.1%、「知識を深くする」7.1%の順になっている。<全体>との差異は、<19歳以下>では1位「知識を深くする」23.2%、3位「芸術鑑賞する」8.0%、4位「新しい発見をする」7.1%、5位「感性をみがく」4.5%となっている。<20-30歳代>では、3位「感性をみがく」8.9%、4位「刺激をもらう」8.1%となっている。<40-50歳代>では、4位「気軽に立ち寄れる」6.3%となっている。<60歳以上>では、3位「楽しむ」「展示内容に興味があれば行く」8.1%、5位「知識を深くする」7.1%となっている。

<来館回数による比較>

分類	全体	初めて	2-5回目	6-19回目	20回目以上
件数(件)	893	168	246	291	188
行くことがない	1.0	1.8	2.4	0.0	0.0
暇つぶしに行く	2.4	4.2	0.8	2.7	2.1
展示内容に興味があれば行く	4.7	4.8	6.1	5.2	2.1
お付き合いで行く	0.6	1.8	0.4	0.0	0.5
一人になれる	0.8	0.0	0.8	1.0	1.1
好きな	1.2	1.2	2.0	1.0	0.5
行きたい	3.1	7.7	3.7	1.0	1.6
よく行く	3.4	3.0	4.9	3.4	1.6
特別な	1.9	3.0	1.6	2.1	1.1
静かな	1.5	0.6	1.2	2.1	1.6
非日常と会う	7.1	10.1	6.9	7.2	4.3
生活を豊かにする	2.5	2.4	1.6	3.1	2.7
芸術鑑賞する	5.3	4.8	5.3	6.2	4.3
教養を身につける	1.6	0.6	0.8	2.4	2.1
目の保養をする	0.7	0.6	0.8	0.3	1.1
文化に触れる	1.3	0.6	2.4	0.7	1.6
知識を深くする	8.4	7.7	8.5	8.6	8.5
楽しむ	6.0	3.0	5.3	8.2	6.4
心が安らぐ	19.8	16.7	19.1	22.3	19.7
感性をみがく	4.5	4.8	4.9	3.8	4.8
感動する	1.1	1.2	0.0	1.7	1.6
気分転換する	12.0	5.4	13.0	12.0	16.5
刺激をもらう	4.9	4.8	4.9	4.5	5.9
新しい発見をする	3.7	4.8	4.9	2.7	2.7
知的好奇心を満たす	1.1	1.2	1.2	0.3	2.1
散歩する	0.8	0.0	0.4	1.0	1.6
知的になった気分になる	0.7	1.8	0.8	0.3	0.0
自分を高める	1.8	1.2	3.3	1.0	1.6
時間を忘れられる	2.7	1.2	2.4	3.1	3.7
インスピレーションをもらう	1.9	4.8	1.2	1.7	0.5
気軽に立ち寄れる	4.1	1.8	2.8	3.4	9.0
仕事	0.7	0.0	0.0	1.7	0.5
家族と過ごす	0.8	1.2	0.8	1.0	0.0

単位：%



	全体		初めて		2-5回目		6-19回目		20回目以上	
1位	心が安らぐ	19.8	心が安らぐ	16.7	心が安らぐ	19.1	心が安らぐ	22.3	心が安らぐ	19.7
2位	気分転換する	12.0	非日常と会う	10.1	気分転換する	13.0	気分転換する	12.0	気分転換する	16.5
3位	知識を深くする	8.4	行きたい	7.7	知識を深くする	8.5	知識を深くする	8.6	気軽に立ち寄れる	9.0
4位	非日常と会う	7.1	知識を深くする		非日常と会う	6.9	楽しむ	8.2	知識を深くする	8.5
5位	楽しむ	6.0	気分転換する	5.4	展示内容に興味があれば行く	6.1	非日常と会う	7.2	楽しむ	6.4

単位：％

来館回数による比較は、＜初めて＞では、「心が安らぐ」16.7%、「非日常と会う」10.1%、「行きたい」「知識を深くする」7.7%、「気分転換する」5.4%の順になっている。＜2-5回目＞では、「心が安らぐ」19.1%、「気分転換する」13.0%、「知識を深くする」8.5%、「非日常と会う」6.9%、「展示内容に興味があれば行く」6.1%の順になっている。＜6-19回目＞では、「心が安らぐ」22.3%、「気分転換する」12.0%、「知識を深くする」8.6%、「楽しむ」8.2%、「非日常と会う」7.2%の順になっている。＜20回目以上＞では、「心が安らぐ」19.7%、「気分転換する」16.5%、「気軽に立ち寄れる」9.0%、「知識を深くする」8.5%、「楽しむ」6.4%の順になっている。＜全体＞との差異は、＜初めて＞では2位「非日常と会う」10.1%、3位「行きたい」7.7%、5位「気分転換する」5.4%となっている。＜2-5回目＞では、5位「展示内容に興味があれば行く」6.1%となっている。＜20回目以上＞では、3位「気軽に立ち寄れる」9.0%となっている。

(2) 展覧会または当美術館についてのご指摘やご意見

この展覧会または当美術館についてのご指摘やご意見等がありましたら、ご自由に記入ください。とたずねたところ、348件の自由意見があり、分類・性質別に整理をし掲載する。(重複を割愛)

自由意見の分類・性質別件数

	1			2			3			4			5		
	今回の展覧会			企画全般			展示方法			施設・環境			運営・スタッフ		
	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情
スイスデザイン展	37	15	5	13	12	3	3	8	3	13	11	13	9	11	10
富士山 —信仰と芸術—	34	3	0	11	11	0	4	5	8	9	5	6	12	7	1
写真家の眼/ 版画家の眼	14	3	0	5	13	0	3	2	3	8	3	5	4	3	0
全 体	85	21	5	29	36	3	10	15	14	30	19	24	25	21	11

単位：件

【今回の展覧会】 A感想

スイスデザイン展

- この展覧会が東京に来た時、twitter 上でとても話題になっていたもので、東京に行こうかと思っていた。静岡に来ることは知らなかった。展覧会に付随したミュージアムショップがあると良かった。新国立には展覧会後もショップがあり、買えるようになっていた。(女性/40歳代)
- 子連れではなかなか足を運びにくいのですが、来て良かったです。(男性/30歳代)
- デザインがこれほどいろいろな展示になるとは思っていませんでした。グッドデザイン賞の会場にも行きましたが、やはり良いものは良いと感じました。(男性/50歳代)
- スイスデザインについては、工業デザインはあまり好みじゃなかった。ル・コルジュエの部分はおもしろかった。(男性/50歳代)
- 大変良かった。今までの中で一番。(女性/40歳代)
- 目のつけどころがさすがでおもしろい企画でした。白をテーマにした収蔵品展も良かったです。(男性/30歳代)
- スイスデザイン展は良かった。ラッキーでした。(男性/60歳代)
- スイスへは一度行ったことがあります。こんな風にデザインに気をつけて見なかったのですが、何となく嬉しい気持ちになった。(女性/40歳代)
- 今回スイスデザイン展を見に来ましたが、「白の表現力」もとても素晴らしく心が解放されました。ありがとうございました。(女性/40歳代)
- スイス展はとても楽しかった。年に一度はとても興味深い内容でもっとおもしろいテーマのものが多く嬉しい。(女性/50歳代)
- すごく良かったです。水筒の展示の仕方が工夫されていて良かったです。(女性/20歳代)
- もう少し日常的なもの、フードパッケージなどの展示もあると良かったと思います。(女性/30歳代)
- スイスという視点がユニークでおもしろかったです。(男性/30歳代)

- スイスデザインの特徴がわかった。日本人にはない感覚であり、古さを感じさせない。ドイツ工業デザインにも興味があります。(男性/30 歳代)
- いろいろな刺激を受けることができた。(男性/13～19 歳)
- またゆっくり時間をとって来たいと思いました。(女性/40 歳代)
- 子どもと久しぶりに美術館に来ました。今回は子どもに誘われて来ましたが、ポスターばかりではなく、時計・椅子など幅広い物が展示され、とても興味が持てました。そしてスイスと日本のつながりなども知ることができて良かったです。(女性/50 歳代)
- 実用的なことについてよくわかりました。なかなかずっと頭の中に入りづらかったので2回目来てしまいました。ありがとうございました。(女性/20 歳代)
- スイスのデザインの歴史や日本との関係も知ることができて良かったです。(女性/20 歳代)
- スイスのおしゃれなデザインをたくさん見られて良かったです。(女性/20 歳代)
- とても楽しむことができました。いつか実際にスイスに行きたい気持ちが深まりました。(女性/13～19 歳)
- 木製の食器類の展示の所で、床に貼ったテープに気付かずスタッフに気を遣わせてしまった。(男性/70 歳以上)
- 専門は音楽なので違いますが、アートマネジメントの勉強をしているので、デザインをどうやってお客さんに鑑賞してもらうのかは難しいなと思いました。(女性/20 歳代)

富士山-信仰と芸術-

- もともと気になってはいましたが、富士というテーマに惹かれて訪れました。広さに驚きました。(女性/50 歳代)
- これほど富士山が愛されていたとは。奥が深い。(男性/40 歳代)
- 掛け軸のようなものは難しい。(男性/20 歳代)
- 見応えがありました。後期にもまた来たいです。(女性/50 歳代)
- 展示中の作品で音声ガイドされている作品の一覧表がなかったので少し戸惑った。(女性/40 歳代)
- 地元色を打ち出した今回の展示は興味深いです。(男性/40 歳代)
- 広々としていて、見所がいっぱいで勉強になりました。ありがとうございました。(女性/50 歳代)
- 富士山を思うと、戦後の日米軍全域の軍事施設撤去を強く望む。神の山に不尊だ。(男性/50 歳代)
- 身近に仏像を見られてとても良かったです。(女性/50 歳代)
- 本展の内容の深さに想像以上に驚きました。(男性/60 歳代)
- 今回のようにタイムリーな企画が良いですね。(男性/60 歳代)
- 身近な富士山について絵や仏像がたくさんあって、とても興味が持てました。(女性/30 歳代)
- 興味深い展覧会でした。全国巡回展だけでなく、こうした静岡らしい展覧会があるのはとても良いと思います。(男性/40 歳代)
- 富士山展はまとまりが感じられない。(男性/60 歳代)
- 伝雪舟三保清見寺図の比較や信玄願文を並べるなど、ストーリーがわかりやすくおもしろかった。三面女神像と宮殿は初めて拝見しました。(女性/40 歳代)
- 信仰や芸術の対象の富士山について学ぶことができました。(女性/40 歳代)
- 身近な富士山のすばらしさを改めて感じさせてもらえました。(女性/50 歳代)
- 想像していた以上の収穫があった。古文書類の歴史的文献の展示。(男性/70 歳以上)

- 伝雪舟の富士三保清見寺図が展示替で見られなかったのが残念。(女性/70歳以上)
- 前期に来館した時 facebook で紹介しました。後期は「富士見図」と「浅間山真景図」だけ見に来たようなものですが、久々に見る価値はやはりあります。(男性/60歳代)

写真家の眼/版画家の眼

- この展覧会はわりと良かった。私は油絵が好きなので、今後はそういう展覧会を増やしてほしい。(男性/50歳代)
- 6つの場所分けは良かった。もう少し写真が多いと思っていたが、版画が多く対比がよくわからなかった。(女性/20歳代)
- 日本画がすばらしいと思いました。(女性/20歳代)
- 今日も楽しく鑑賞させていただきました。ありがとうございました。(男性/30歳代)
- いろいろな工夫がしてあっておもしろかった。楽しめた。(男性/13~19歳)
- 充実した時間を過ごせました。(男性/30歳代)
- 見る機会の少なかったコレクションの数々を楽しませていただきました。(男性/70歳以上)
- テーマごとに様々な表現を見ることができたので、とてもおもしろかったです。(女性/13~19歳)
- 版画と写真の接点が何かわからなかった。(女性/50歳代)

【企画全般】 A 感想

スイスデザイン展

- これからも良い美術品や珍しい展示を期待しています。(女性/50歳代)
- いろいろな企画を行い、県民の心を豊かにしてほしいです。(男性/40歳代)
- 最初に来た時から特にロダン館の造りが好きで、展覧会のテーマも興味をひくものが多いので、これからも利用させて頂きたいと考えています。(男性/20歳代)
- 意欲的な企画展に期待。ご努力に敬意。東京から観覧に来ています。(男性/70歳以上)
- 小さい子の粘土教室、大人の音楽会などいろいろあって感謝しています。(男性/50歳代)
- いつも企画展のみを見て帰っていましたが、ロダンの彫刻を久しぶりに見てとても刺激になりました。県外の人にも伝えたいと思いました。(女性/50歳代)
- 子どもが小さい頃はここの辺りの場所へよく遊びに来るだけでしたが、大きくなったので、今度またおもしろそうな企画があったら来館したいと思います。(女性/40歳代)
- いろいろなタイプの企画展を楽しみにしています。(女性/30歳代)
- もう少し企画に変化を持たせていただくと良いと思う。(女性/60歳代)
- 絵画以外の企画展はとてもおもしろいと思います。(女性/20歳代)

富士山-信仰と芸術-

- ロダン館が予想以上に良かったです。樹花鳥獣図屏風も見かけたです。(男性/30歳代)
- 東京の美術館だけでなく県内の美術館にも目を向けようと思いました。(女性/50歳代)
- 若沖の屏風があるので、県立美術館は以前から知っていました。また次に屏風の公開に合わせて来場したいと思います。すばらしい美術館の一つだと思います。(男性/50歳代)
- アニマルワールドの企画は特に心に残っています。これからもよろしく願います。(女性/60歳代)
- 当館所蔵の若沖の屏風は毎年のように展示されるので嬉しい限り。駐車場からのプロムナードも好き

です。(女性/70歳以上)

- 若い人に興味を持ってもらえるような展示がもっと開催されたら嬉しいです。(女性/20歳代)
- 常設展がマンネリ化している感があります。(男性/70歳以上)
- 比較のおもしろい展示をよくやっていて、良い美術館だと思っています。(男性/30歳代)

写真家の眼/版画家の眼

- 次回の企画展もぜひ拝見したい。(男性/50歳代)
- 2、3年に一度はとても素晴らしい作品が出ますが、毎回というわけにはいかないようです。(女性/70歳以上)
- 幅広いテーマでの展示があれば、ロダン館とセットで見に来たい。(男性/30歳代)
- 魅力的な企画を楽しみにしています。(女性/50歳代)

【展示方法】 A感想

スイスデザイン展

- 展示場所において、椅子に掛けて鑑賞なり休息するなりしたいと感じた。(女性/70歳以上)
- ハンズオンガイドなどがあれば、ぜひ体感してみたいです。学芸員を志す上で大変参考になりました。ありがとうございました。(男性/20歳代)
- 作品の配置がゆったりしていて、じっくり鑑賞できました。少し飲み物ぐらい飲める場所があると良いですね。(女性/60歳代)

富士山-信仰と芸術-

- 年齢のためかあまり広いと疲れるので、ほどほどの広さが良い。(女性/70歳以上)
- いつもメモするものを持ってきますが、室内に置いて頂けると嬉しいです。(女性/60歳代)
- 道に迷いやすいなと思います。(女性/13~19歳)
- 仏像展示で仏像の背に紺の布張があり、背景の紺と作品とのコントラストが良かったと思います。(女性/60歳代)

写真家の眼/版画家の眼

- 作品の真横に前回展示のビス穴があると、少し残念に思います。(女性/40歳代)
- 非常に小さい版画がいくつかあったが、拡大版を近くに展示する等すれば、よりありがたかったです。(男性/60歳代)

【施設・環境】 A感想

スイスデザイン展

- レストランの食事を楽しみに来ています。(男性/50歳代)
- 静岡市に住んでいます。近い所に施設があるので、気分を変えたい時は良いです。(男性/30歳代)
- 落ち着いている雰囲気が良い。(男性/40歳代)
- ずいぶん久しぶりに来たが、1階ロビーに入った印象が寂しいというか印象が薄い感じがした。(女性/60歳代)
- 駅から少し遠く、坂道なので不便。ロダン館は見応えがあった。(女性/40歳代)

- 涼しくて静かで良かったです。(女性/13～19歳)
- 本当に素晴らしく、美しい緑に囲まれた美術館だと思います。(男性/40歳代)
- JRと静鉄バスで来館しますが、やはり少し面倒な場所にあるなと思います。(女性/40歳代)
- 広くて見やすかったです。(女性/20歳代)
- 環境が良いですね。ゆっくりできます。(女性/60歳代)
- 少々空調がきつい気がします。作品保護のためでしょうか。(男性/30歳代)

富士山-信仰と芸術-

- とても気持ちの良い所でした。(女性/40歳代)
- 立派な美術館です。(男性/60歳代)
- 周囲の環境、建物、雰囲気どれもすばらしい。(男性/40歳代)
- ロダン館の建物の陽光取り、デザインが良い。(男性/50歳代)
- ロダン館がさびしく、もったいない印象を受けました。(男性/50歳代)

写真家の眼/版画家の眼

- とても良い自然と創造物の調和を感じる。(女性/50歳代)
- 駐車場から美術館までの道のりも素敵でした。(女性/40歳代)
- 初めて来たので駐車場からの道に迷いました。スマホがあつて良かった。若沖を見たいので、機会があればまた来ます。(女性/40歳代)
- うす暗いせいか、目が疲れた。座る所があつて良かった。(男性/30歳代)
- ロダンの展示建物が庭園のようで素晴らしいと思いました。(女性/40歳代)
- 電車を使うとあまり近くなく、来るのが大変でしたが、建物が広く落ち着いていて、とても心地良かった。(女性/20歳代)

【運営・スタッフ】 A感想

スイスデザイン展

- スタッフの対応は丁寧で心地良いです。(女性/50歳代)
- 良い企画が多いのに来館者が少ないとのこと、もったいないですね。告知が足りないのか。施設もそろそろ古く感じてきました。市美術館に比べてオープンな印象は低く感じます。(女性/40歳代)
- パンフレットがたくさんあったので、また来たくなった。(女性/13～19歳)
- まだ子どもが小さいのでなかなか来られないのですが、子どもにも静かに鑑賞する場所として教えたと思います。(女性/30歳代)
- スタッフの方のすてきな対応に感動しています。(女性/40歳代)
- 施設の規模にもよりますが、個人の小さな美術館を好んで行きます。静かでゆっくり観られることが利点ですが、大きな施設はそこが大変なことと思います。(女性/60歳代)
- 静岡市美術館のように夜7時までなら、もっと見に行く機会が増えます。(男性/40歳代)
- ロダンの展示が素敵だったので、県外の人にももっと宣伝すると良いです。つくばから来たばかりで知りませんでした。(女性/40歳代)

富士山-信仰と芸術-

- 絵画の趣味があり、この地において少し物足りなさがあります。東京と大阪の真ん中のせいでしょうか。(女性/70 歳以上)
- 展示のみでなく、子どもを対象にした活動があったり、入場料なども広く県民が活用しやすい工夫などがされているので好感が持てました。(女性/60 歳代)
- 係の方が質問に的確に答えてくれました。(女性/60 歳代)
- 市立美術館に比べて、少し大人向けの展示が多い印象があります。だからいつも難しいと思いながら素通りしてしまう展示もあります。でも外の公園でのびのびできる環境もあり、また来たいです。(女性/20 歳代)
- 館内の図書室が耐震不良ゆえ閉館ということでしたが、将来展望はいかがですか。(男性/70 歳以上)
- このままで充分楽しむことのできる美術館だと思います。(女性/70 歳以上)
- 音声ガイドが 300 円位だと良いと思います。(女性/60 歳代)
- 展覧会の度にロダン館などの常設コレクションも情報を流してくれると、また見ようと思う。(女性/60 歳代)
- 椅子が多くて観覧しやすくて好きです。スタッフの方々も親切な印象。浜松市方面にももっと CM やポスターなど告知をしてください。また来たいです。(女性/30 歳代)
- 学芸員によるレクチャーがとても良かったです。(男性/70 歳以上)

写真家の眼/版画家の眼

- 展覧会の値段を安くしてくれたらもっと来たい。(女性/30 歳代)
- ポイントが付くのは嬉しい。(女性/50 歳代)
- 静岡県立美術館がロダンを持つ由緒が不明です。(男性/60 歳代)
- 気軽に寄れる雰囲気や場所を求めている昨今の美術館に対抗するのに大変な立地かなと思う。格式ばってない方が来やすいと思う。(女性/50 歳代)

【今回の展覧会】 B 要望

スイスデザイン展

- 解説の文字がもう少し大きいと年配の方にもやさしいと思った。小さい子が泣くのは構わないが、走り回るのは注意してもらいたい。(男性/20 歳代)
- スイスデザイン展で家具の展示物は触ったり座ったりできると更に良い。展示物の説明が足りない。青い照明などの動き方を知りたい。(女性/50 歳代)
- おもちゃやプロダクトに触れるブースがあるとより良いですね。(女性/20 歳代)
- 子どものおもちゃやステーションナリー、家具、包装紙、食品パッケージなど、スイスデザインをもっといろいろ見たかった。(女性/30 歳代)
- スイスデザインは数多くて何を見てよいのか迷った。展示に工夫をして、テーマごとに独立しているような感がある方が良いのでは。(男性/60 歳代)
- もう少し告知、広報を行うべき。可能であれば、例えばスイス工芸の座れる椅子などを体験できるようにしてほしい。(男性/30 歳代)
- 時計についての展示もあれば良かった。(男性/40 歳代)
- デザインの延長線上として、シンボルマークやユニバーサルなピトグラムなども見たかったです。(男性/50 歳代)

- もう少しジャンルを絞っても良いと思います。(男性/30 歳代)
- ポスターをもっと見たかったです。(女性/30 歳代)
- デザインを学ぶ学生のためにも写真撮影を許可してほしい。(女性/40 歳代)
- 今回の展覧会開催は TVCM で知りました。今後も TVCM での告知をお願いします。(男性/50 歳代)
- 管理の手間を考えるとできないのかもしれないが、ネフの玩具などは子どもたちが気軽に触れられるようになっていたら良いと思う。(男性/30 歳代)
- バウハウスやフランク・ロイド・ライトの展示してほしい。(男性/40 歳代)

富士山-信仰と芸術-

- 子どもや中国・韓国など外国人向けの解説があった方が良いのでは。次の世代や外国人に富士山を理解してもらいたい。富士講の服などを着ることができるよう企画や富士山のジオラマがあると、よりわかりやすくおもしろい。(男性/40 歳代)
- 作品のできる様子が知りたい。(男性/60 歳代)
- 群青富士を見たかった。(女性/40 歳代)

写真家の眼/版画家の眼

- 戦前・戦後・過去と現在の写真展等があれば良い。(男性/60 歳代)
- もっと工夫した見せ方があっても良かったのではないのでしょうか。(女性/60 歳代)
- 当展覧会の図録をほしい。(女性/60 歳代)

【企画全般】 B 要望

スイスデザイン展

- 現代美術、特に若手の展示を増やしてください。(男性/50 歳代)
- 北欧デザインをテーマとした展覧をしてほしい。(男性/20 歳代)
- 小さな子どもも一緒に気兼ねなく見られる場所や展示してほしい。(女性/30 歳代)
- 現代美術の展示をもっと多くやってほしいです。写真も好きなので、写真展もやってほしいです。(女性/30 歳代)
- 現代デザイン系の展示を見たい。(男性/40 歳代)
- 少しくらいはおしゃべりしても良い企画があっても良いかなと思います。(女性/40 歳代)
- 時代劇が好きなため、日本刀や鎧など、日本人の神業のような細かく美しい作業を再度見られるものの展示も見たいです。(女性/30 歳代)
- やはりある程度有名なものを見たい。(男性/50 歳代)
- 具象的な絵画展をやってほしい。現代美術と称するものも結構だが、解釈抜きで美しいものに感動したい。(男性/50 歳代)
- ずっとこのまま愛する静岡のためがんばって、いろいろな企画を続けてください。(男性/40 歳代)
- 絵画なども良いが、今回のようなデザイン系の展覧会を増やしてほしい。(男性/20 歳代)

富士山-信仰と芸術-

- 藤城清治の作品展、ミュシャなどを是非やって頂きたい。(女性/50 歳代)
- ワークショップをもっとやってほしい。(女性/40 歳代)

- もう少し軽いテーマのもの、ポップなものを見たい。(男性/40 歳代)
- ロートレックの作品展を企画してください。(男性/40 歳代)
- 難しいとは思いますが、年に一度ぐらい都市でやるような目玉となる展示を見たい。(女性/40 歳代)
- 美人画の展覧などをお願いしたい。(男性/60 歳代)
- 今後もこのような企画をお願いします。愛知県的美術館や博物館にパンフレットを送ってください。(男性/60 歳代)
- 世界中の文明をテーマにした展覧会を今後も開催していただきたい。(男性/60 歳代)
- 以前観た狩野派展が絢爛豪華で見応えがあり印象深かったので、あのような見応えのある展覧会を待ち望んでいます。また、インカ展のミイラの展示もおもしろかったので、神秘的なものも見たい。(女性/60 歳代)
- 予算の関係で国立博物館や都美術館と同じようにはできないと思いますが、もっと「おもしろい」企画をお願いします。(男性/60 歳代)

写真家の眼/版画家の眼

- 自分でも体験できるような、もう少し身近な物があると良い。(男性/50 歳代)
- 企画展について希望を聞く機会を持つてはいかがでしょう。首都圏の企画を地元で見たい。(男性/40 歳代)
- もっともっとショッキングな企画を希望したい。(男性/60 歳代)
- 江戸時代の浮世絵がもっと見たいです。(男性/20 歳代)
- 現代美術を中心にしてほしい。(女性/30 歳代)
- 子どもも楽しめるような企画を希望します。私は県立美術館が一番好きです。(女性/30 歳代)
- 現代アート・コンテンポラリーなものをもっと企画してほしい。(男性/60 歳代)
- 当館所蔵の作品を一気に見たい。(女性/40 歳代)
- 常設展示がもっと多いと良いと思います。以前見たと思ったものが県美の収蔵品だったのか調べようとしてわからなかったことがあるので、収蔵品一覧もあると良いです。(女性/30 歳代)

【展示方法】 B要望

スイスデザイン展

- 床の銀のテープはやめた方が良い。注意される方も注意する方も気持ちが良くない。(男性/50 歳代)
- キャプションの充実。(男性/60 歳代)
- ロダン館の小さな作品にも、きちんとたくさんの説明をわかりやすく書いてほしい。(女性/12 歳以下)
- ジャンプルーベについての作品や年表などがもっとあれば嬉しかったです。(男性/40 歳代)
- 1 階に何も無い。もっと絵画の展示が多いと良いと思う。(男性/50 歳代)
- 展覧会のメモを取りたい時に、ボードがあったら便利だと思いました。また、メモを取る時に鉛筆で取ることを知らなかったなので、マナーのような貼り紙があると親切だと思いました。(女性/13~19 歳)
- 私はドイツ語を読めたのでポスターの意味がわかったが、他の人にはわかりにくいものも多かったので、簡単な訳をのせても良かったのではないかと思います。(男性/20 歳代)
- もっと触れたりできると嬉しい。(女性/20 歳代)

富士山-信仰と芸術-

- 時代と年代と両方表記がありわかりづらい。どちらかではなく統一したら良いと思う。(女性/50 歳代)
- 貸出用のオペラグラスのようなものがあると、なお良いと思う。(男性/60 歳代)
- ルーペで拡大してほしい。(男性/70 歳以上)
- 説明の字がもう少し大きいと嬉しいです。(女性/60 歳代)
- 目が悪くなってきているので、絵をもっと近くで見たい。特に古い巻絵、掛け軸の絵はケースに入れないで見たい。(女性/60 歳代)

写真家の眼/版画家の眼

- どこの美術館も同じだと思いますが、暗くて作品の細かい所まで観られない。照明がもっと明るい方が鑑賞しやすいが、作品の保護の問題から無理でしょうか。(男性/50 歳代)
- もっと解説を増やしてほしい。(女性/12 歳以下)

【施設・環境】 B 要望

スイスデザイン展

- 美術館に行くのがとても大変です。清水からバスを出してください。いろいろな絵を見たいのでよろしくお願いします。(女性/50 歳代)
- バスの本数がもう少し多いと良い。(女性/30 歳代)
- 地理的に高い所なので入口までの経路が非現実的。まるで来ないでと言っているようです。せめて図書館の入口前にバイクを駐輪できるようにしてください。市立美術館より講演会などがよく聞こえて良いと思います。(男性/40 歳代)
- 美術館専用の駐車場を近くに設置してほしい。(女性/50 歳代)
- 上の駐車場がもう少し広いと良いです。(男性/50 歳代)
- トイレがもう少しきれいであってほしい。(男性/20 歳代)
- 駐車場の案内看板がもっとほしい。(男性/30 歳代)
- 身障者用の駐車場を増やしてほしいです。(女性/40 歳代)
- 自動販売機がほしいです。(女性/20 歳代)

富士山-信仰と芸術-

- 駐車場が不便だったので、土日だけでも整備員を配置していただけると助かります。(男性/20 歳代)
- 市外から来たが、407 号線からの入口がわかりづらく、近くをいろいろ回ってしまった。国道 1 号線や主要道路からの標示をしてください。(女性/50 歳代)
- ロダン館にもっと人が入ったら良いと思う。全然いませんでした。出口の位置を変えてみたらどうでしょう。(女性/40 歳代)
- 展示室内で大きな空調音がします。改善を！(男性/50 歳代)

写真家の眼/版画家の眼

- 子ども向けに飽きない所を作ってほしい。(女性/12 歳以下)
- 高齢者が多くなりますので、照明を明るくしてください。(男性/60 歳代)
- 坂の下にある駐車場の混雑状況案内電光掲示が機能していない。誰もが訪れやすくなるよう、きちん

と表示してほしい。また、裏の駐車場も積極的に開放してほしい。(男性/30 歳代)

【運営・スタッフ】 B 要望

スイスデザイン展

- グッズの充実。デザインやアートで静岡に元気を与える拠点。(男性/50 歳代)
- ロダンの café 化計画をお願いします。もっと気軽に見たい。(女性/40 歳代)
- 作品展の回数を多くしてほしい。(男性/50 歳代)
- ホームページをもう少し見やすくしてもらえると助かります。(男性/40 歳代)
- 子どもも楽しめる美術館になってほしい。(女性/30 歳代)
- ポスターはよく見かけますが、チラシがなかなか手に入りません。もっと多くの場所にチラシがあれば、知人にも勧めやすいと思います。(女性/30 歳代)
- ミュージアムショップの商品をもっと増やしてほしい。(女性/20 歳代)
- ロダン館のイベント告知を積極的にしてほしい。(女性/30 歳代)
- 「白の表現力」は思いがけず興味深かったです。月 1 回の土曜日だけでも開館時間が長いと嬉しいです。(女性/30 歳代)
- 入口でお茶のサービスがあったが、暑かったので中でサービスしてくれたらもっと良かった。(女性/60 歳代)
- もっと大勢の人に来館してほしい。(男性/50 歳代)

富士山-信仰と芸術-

- 9 時開館へ。(男性/60 歳代)
- 館長が替わられてからは明らかに内容が落ちています。もう少し他県を見習って以前のような充実した美術館を取り戻してください。(男性/50 歳代)
- 割引券の配布がもう少しあると良いと思う。(女性/60 歳代)
- もっと良さを PR した方が良い。(女性/70 歳以上)
- 音声ガイドを安くしてください。(男性/13~19 歳)
- マナーの悪いお客さんは注意すべきだと思う。うるさい人が多い。(男性/40 歳代)
- 静鉄美術館前から 100 円位で巡回バスが出てくれると嬉しい。(女性/60 歳代)

写真家の眼/版画家の眼

- ロダンをベースに他の美術館への展開があると良い。博物館的なものと未来への提示、流れの二極面など対比がほしい。ドキドキワクワクするオブジェがほしい。(男性/50 歳代)
- 交通機関の構内等で、もう少し宣伝に力を入れても良いのでは？(男性/70 歳以上)
- 日常的な意見収集の場を美術館のホームページなどに作ってほしい。(男性/70 歳以上)

【今回の展覧会】 C 苦情

スイスデザイン展

- ナイフ展示の案内と番号が合わず、わかりづらかった。(男性/40 歳代)
- スイスデザイン展の照明が暗い。(男性/70 歳以上)
- スイスの国にあこがれがあり、腕時計のモンディー社に興味があり来館したが、展示品がほとんどな

かった。デザインが最高なだけに残念でした。(男性/60 歳代)

- 青い照明が1つしか動いていなかったのは残念。せめて3つぐらい動いていてほしかった。(女性/50 歳代)

【企画全般】 C 苦情

スイスデザイン展

- 静大生によるロダン館のギャラリートークは企画としてはおもしろいのですが、下調べ自体が不十分なこと、現物に対する感動をうまく伝えられていないこと、最後に「あまり興味がなかったのですが」と言ってしまうのは参加者に対して失礼だと思います。せめて最初に教育プログラムであることを断るべきで不満がたまりました。(男性/40 歳代)
- 最近の企画は少し興味がわからない。(女性/50 歳代)
- 県立美術館は地域美術家産業デザインを取り上げ企画をしたことがない。他県では古典的にも見えるけれど、その地域のことを重要視している。学芸員はどこを見て運営しているのか。(男性/70 歳以上)

【展示方法】 C 苦情

スイスデザイン展

- 立入禁止の線がわかりにくい。(男性/40 歳代)
- 展示品の裏に説明プレートをつけている意味がわからない。(男性/50 歳代)

富士山-信仰と芸術-

- ガラスの反射が非常に気になりました。(男性/40 歳代)
- 展示ケース内の照明がチカチカしていたのが気になった。(男性/20 歳代)
- 説明の字が小さすぎる。(男性/70 歳以上)
- 写真が撮れないものばかりで不満。(男性/50 歳代)
- イヤホンガイドが便利だが、番号と一致しない部分があった。(男性/70 歳以上)
- 順路がわかりにくかった。(女性/13~19 歳)

写真家の眼/版画家の眼

- ライティングの角度で、反射して見にくい作品もありました。(女性/60 歳代)
- 細かい絵が多く、照明が暗く見にくかった。目が疲れました。(女性/50 歳代)

【施設・環境】 C 苦情

スイスデザイン展

- 冷房が強すぎる。(女性/50 歳代)
- ゆっくりと座って鑑賞する場が少ない気がする。バックレストのある椅子、ソファが少ない。(男性/50 歳代)
- 駐車場から美術館までの道のりがわかりにくい。初めて来た方なら特に。(男性/20 歳代)
- 駐輪場がわかりにくく見つかりませんでした。(女性/20 歳代)

富士山-信仰と芸術-

- 外の植木の管理が不十分。雑草、植木の刈り込み。(男性/50 歳代)
- 駐車場が少ない。(男性/50 歳代)
- エアコンの音が大きすぎて頭に残る。(男性/60 歳代)
- 天井から響いてくる音が気になりました。(女性/60 歳代)
- ロダン館の案内がわかりにくかった。(男性/70 歳以上)
- 壁に前回使用したフックの取付穴が目立った。せっかくの作品が見ていて残念です。(男性/60 歳代)

写真家の眼/版画家の眼

- 館内が暑くて、ゆっくりできなかつた。(女性/50 歳代)
- 照明が暗すぎて、目が疲れました。(女性/30 歳代)

【運営・スタッフ】 C 苦情

スイスデザイン展

- 展示を見ている時のスタッフの動きが気になった。展示作品を守りたい気持ちはわかるが、監視しすぎ。ゆっくり見たいのに背後に立たれて不愉快でした。(女性/30 歳代)
- PR 不足。今何をやっているか、来るまで知らなかつた。(女性/40 歳代)
- ホームページがスマートフォン対応になっていないので、字が小さく見るのが大変でした。(女性/40 歳代)
- 子どもがうるさかつた。それを注意しない係の人達。(男性/40 歳代)
- ホームページで開館時間を調べるのに苦労した。見つけにくかつた。(女性/30 歳代)
- ホームページの地図が見にくい。混雑が前もってわかると嬉しい。(男性/30 歳代)

静岡県立美術館評価業務 報告書
平成 28 年 3 月

発 行 静岡県立美術館

〒422-8002 静岡市駿河区谷田 53-2

TEL 054-263-5755

委託先 株式会社浜名湖国際頭脳センター

〒431-1207 浜松市西区村楡町 4598 番地の 9

TEL 053-484-4002

【平成 27 年度第三者評価委員での意見と対応状況】

〔1〕 達成目標等に対する二次評価

基本方針	意見	対応状況
A	会期途中でも他施設との連携等の工夫を機敏かつ柔軟に対応することが重要である。	全国の公立美術館をはじめとして、大学や学校及び地域との連携を積極的に行っており、今後も柔軟に連携を図っていく。
	日本平動物園との連携など、様々な工夫が「アニマルワールド展」の来館者が目標を上回った要因の一つである。	美術館に限らず、地域には文化施設、文化資源が多くあるので、今後も様々な連携を図ることで、相乗効果を得るよう努める。
	入館者サービスの一環として、Wi-Fi 環境を整え情報の送受信環境を向上すべきである。	ガイドアプリの開発に合わせ、Wi-Fi フリースポットの設置などスマートフォン利用環境を整備し、平成 28 年ロダンウィークに公開するよう準備を進めている。
	展覧会の内容や質を維持していくことも重要で、来館者目標を達成しなかったから悪いというものではないが、10 万人という数字は今後の目標の目安である。	平成 27 年度も様々な視点から展覧会を開催し、研究活動評価委員及び来館者から、その内容と質については高い評価を得た。引き続き、県民をはじめとする皆様に親しまれ、多くの方にご覧いただける展覧会を企画するよう努める。
	人口減少社会で、来館者も減っていくことは避けられない。もっと環境が悪くなるという前提で展覧会を計画すべきである。	若者、子どもといった様々な層をターゲットとした展覧会を実施していくよう努めている。平成 28 年度は、「美術館に行こう！ ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」を開催し、利用者ニーズに応えるようにした。
B	地域や学校との連携は重要で、新しい取組や、将来の来館者に育つかという感触が得られるかも重要。数字では捉えられないものであるが、定性的に判断したら良い。	学校や大学等教育施設との連携を図り、様々な事業を行っている。しかし、人材育成には時間がかかるため、それを定性評価するのは容易ではない。評価方法については、検討したい。

C	外国人に対する戦略的な広報計画が必要である。	ホームページ等の広報媒体を多言語化することで、外国人にも興味を持ってもらえる工夫をすることを検討する。戦略的な広報計画については、専門家のアドバイスを聴取するなど、前向きに検討する。
D	今の建物の現実的な延命策を図るべきである。	建物の改修については、中長期計画を策定するべく検討する。
	美術館活動のあり方検討を踏まえた改修を計画すべきである。	館内の施設・環境整備委員会において、改修の検討のため勉強会を設置している。

〔2〕 県庁の支援体制に対する一次評価

意見	対応状況
大学にも美術館職員とともに営業活動を行うべきである。	今後も、静岡大学及び静岡県立大学との様々な連携を検討する。
2005年に静岡県立美術館評価委員会が提言した内容（戦略計画方式によるPDCAサイクルの定着や企画運営で館長を支える経営ボードの設置など）を再度検証してみる必要がある。	10年前に構築した評価システムが、現在の美術館を取り巻く環境に合致していないという問題がある。これについては、現在、文化政策課と美術館が共同で再検討に向けた検討を始めている。

平成 27 年度 設置者の取組状況

(1) 第 3 期文化振興基本計画の推進

平成 26 年 4 月策定の第 3 期文化振興基本計画において定めた美術館が果たすべき役割等について、美術館と協働して推進している。

(2) 美術館の企画運営会議への参画及び支援

- ・月 1 回開催されている美術館企画運営会議に文化政策課長が出席して情報共有を図るとともに、県として必要な支援を行った。
- ・美術館の広報委員会や施設環境整備委員会に職員が出席し、県庁が持つ広報媒体の情報提供や技術支援を行った。
- ・「県有施設による文化振興推進会議」を発足するなど、他の県立施設や周辺施設との連携を強化した。

(3) 中学生の美術館展覧会鑑賞推進事業の推進

中学生を対象とする鑑賞事業の実施にあたり、教育委員会を通じて県内の全中学校に趣旨や実施方法について情報提供するとともに、バスによる送迎業務を行った。

(4) 電気、機械設備の更新

経年化に伴い不具合が生じている電気、機械設備の更新を計画的に実施している。

内容に関する問合せ先

静岡県文化・観光部文化政策課

〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9番6号

TEL 054-221-3506

静岡県立美術館総務課

〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田53番2号

TEL 054-263-5755